

平成
31
年度

平成 31 年 度

履
修
案
内

先端科学技術研究科
(先端科学技術専攻)

北陸先端科学技術大学院大学

履 修 案 内

先端科学技術研究科 (先端科学技術専攻)

北陸先端科学技術大学院大学

JAIST の創設理念と教育方針

本学（JAIST）は1990年に我が国最初の独立キャンパスを持つ国立の大学院大学として創設されて以来、日本における大学院教育の展開におけるパイロットスクールとしての重責を担ってきました。秋入学、クォーター制、複数教員指導制度、副テーマ研究など、本学は他に先駆けて様々な新しい教育制度を積極的に導入し、それらの整備と改善に継続的に取り組み、産業界からもこの先駆的な教育に対して高い評価を受けてきました。

しかし、創設以来の20余年の間に、他大学も同様の制度を取り入れるようになり、今、本学独自のより斬新で効果的な考え方の導入が求められています。本学は常に最先端を走り続けるために、教育の更なる向上を図り、学生諸君の学修目標と意思を最大限に尊重することを基本的な考え方として導入することとしました。具体的には、一人一人の学生が、常に自分のキャリア目標と向き合って科目の選択を行うという方向へと変えて行きます。

本学は平成28年4月から従来の3研究科を1研究科に統合しました。従来は研究科の枠があるため、他研究科の講義を受講することが困難でしたが、今後は、自分の学修目標に照らし合わせて、広い分野から受講科目を決定することができるようになります。また、平成30年4月から本学と金沢大学は、共同教育課程である融合科学共同専攻を設置し、将来が見通しにくい現代社会において、卓越した発想と行動力を基に、社会を力強く導いていけるような「科学技術イノベーション人材」の養成を目指しています。

本学では修了時に、単位を修得した科目と成績評価を載せた成績証明書を交付しますが、学生が自発的に科目を選択するということで、それぞれの科目の履修理由や自分のキャリア目標との関連性を指導教員や就職志望先の企業に対して、受け入れていただく方が納得のゆく形で説明できるようになることを求めています。

また、本学は教育の目標を再定義し、学生が何を理解したかではなく、どのような能力を身につけたかを最重要視することとしています。この考え方にに基づき、各授業科目の成績評価は達成度評価という形を取っています。さらに、各研究室においても、教員は学生達のキャリア目標に応じた研究指導を心がけています。

学生諸君が自分の将来を確立するために、積極的に、そして主体的に学修に取り組んで行くことを期待しています。

学 長 浅 野 哲 夫

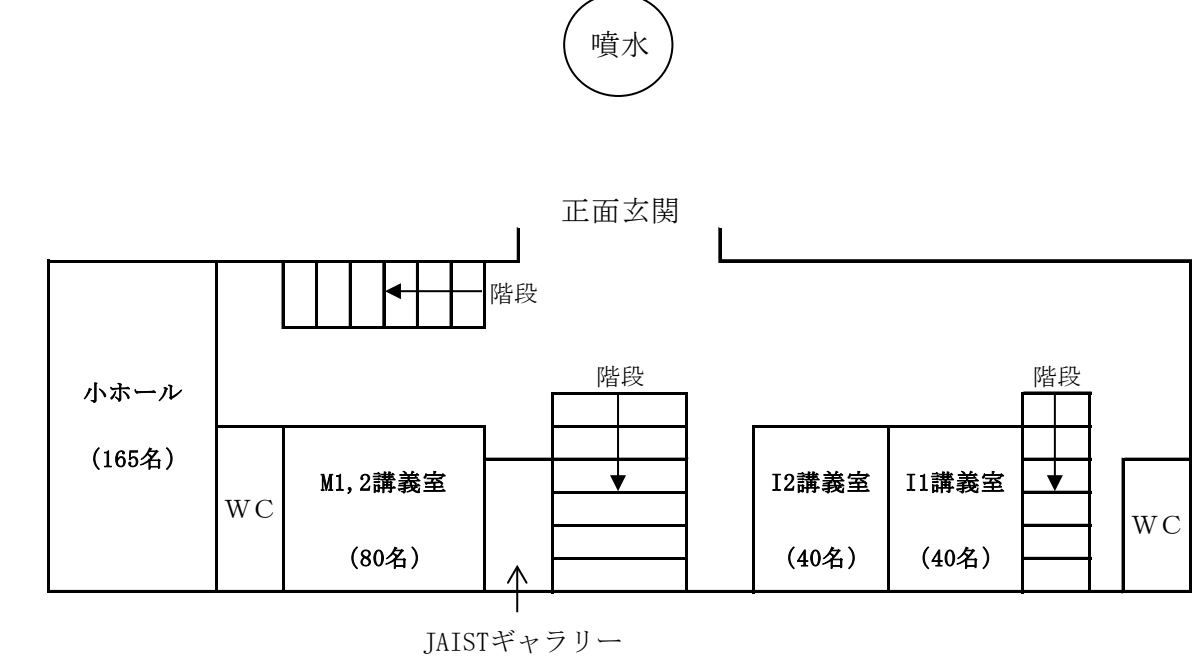
目 次

I	本学の理念、目標、育成する人材像、ポリシー	1
II	平成31年度学事日程	5
III	履修概要	6
IV	授業料、学籍に関する事項	7
V	教育システム	9
VI	履修に関する事項	11
VII	教育・研究指導に関する事項	18
VIII	学位授与に関する事項	29
IX	グローバルコミュニケーションセンター教育・研修プログラム	31
X	各種制度	33
授業科目・授業時間割		
1	授業科目・授業時間割の概要	34
2	平成31年度授業科目（石川キャンパス）	36
3	平成31年度授業時間割（石川キャンパス）	52
4	平成31年度定期試験期間の時間割（石川キャンパス）	60
5	平成31年度授業科目（東京サテライト）	61
6	平成31年度授業日程表（東京サテライト）	66
学修プログラム		
1	学修プログラムの概要	69
2	学修プログラム（石川キャンパス）	70
3	学修プログラム（東京サテライト）	74
学則・諸規則等		
1)	学則	77
2)	学位規則	94
3)	履修規則	102
4)	共同教育研究施設授業科目規則	118
5)	修士の学位の授与に係る審査に関する細則	119
6)	博士の学位の授与に係る審査に関する細則	121

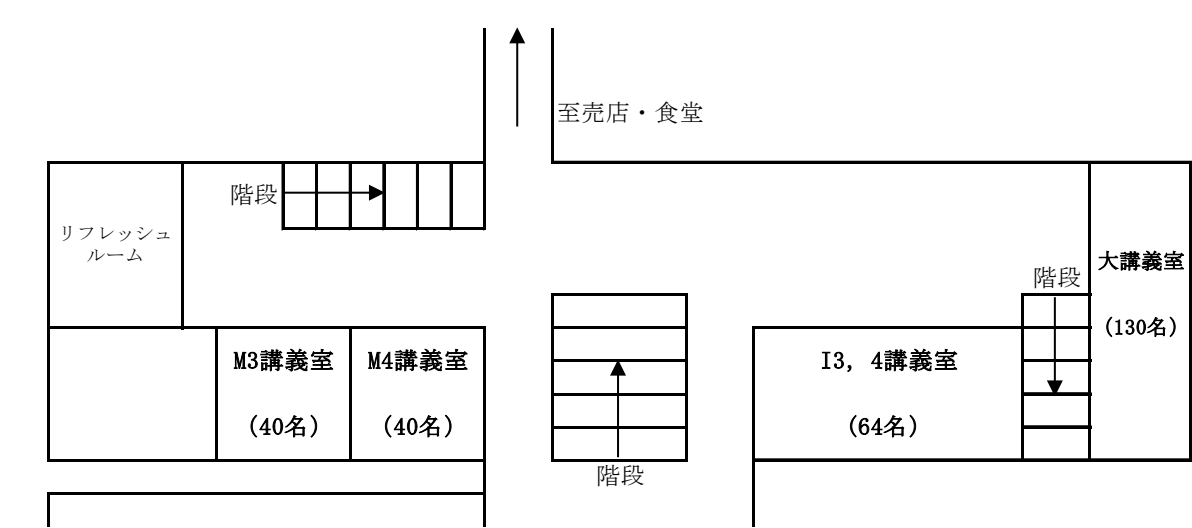
講義室配置図（北陸先端科学技術大学院大学）

○情報科学系講義棟，マテリアルサイエンス系講義棟

1 階

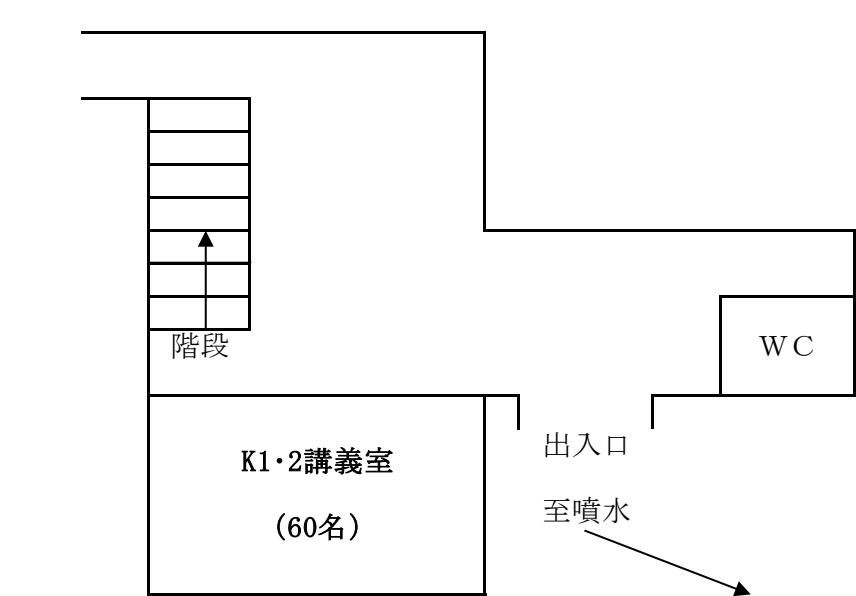


2 階

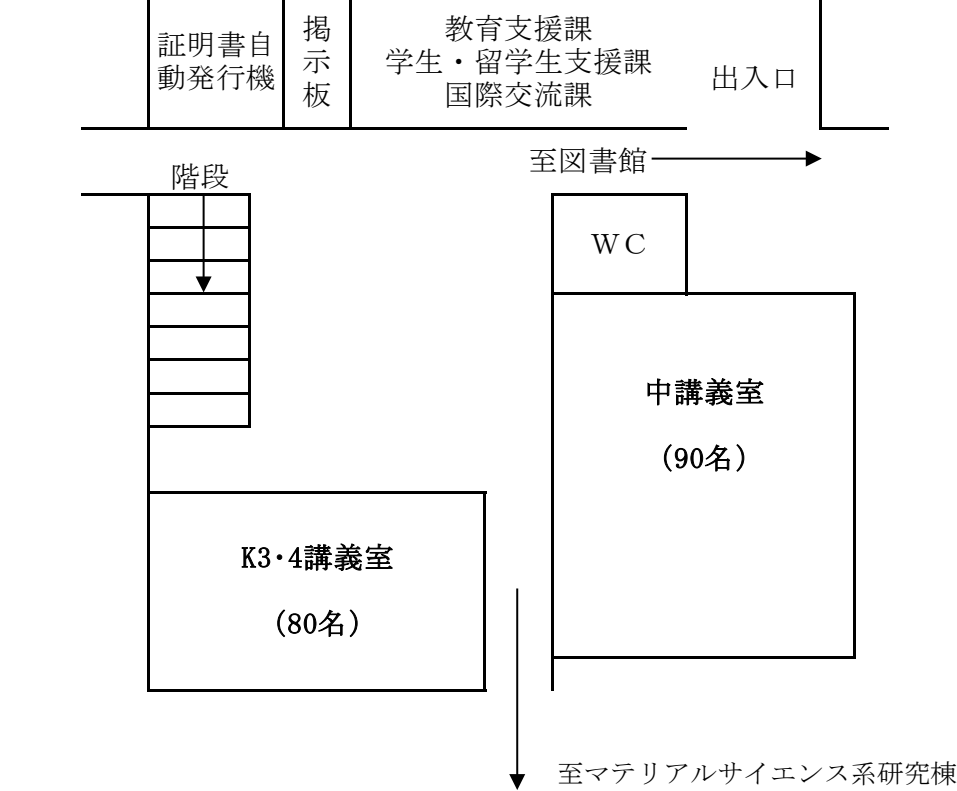


○知識科学系講義棟

1 階



2 階



I 本学の理念、目標、育成する人材像、ポリシー

【理念】

北陸先端科学技術大学院大学（以下「本学」という。）は、豊かな学問的環境の中で世界水準の教育と研究を行い、科学技術創造により次代の世界を拓く指導的人材を育成する。

【目標】

- ・先進的大学院教育を組織的・体系的に行い、先端科学技術の確かな専門性ととも、幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力を持つ、社会や産業界のリーダーを育成する。
- ・世界や社会の課題を解決する研究に挑戦し、卓越した研究拠点を形成すると同時に、多様な基礎研究により新たな領域を開拓し、研究成果の社会還元を積極的に行う。
- ・海外教育研究機関との連携を通して学生や教員の交流を積極的に行うとともに、教育や研究の国際化を推進し、グローバルに活躍する人材の育成を行う。

【育成する人材像】

先端科学技術の確かな専門性ととも、幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力を持つ、社会や産業界のリーダーを育成する。博士前期課程においては、特に、幅広い基盤的専門知識を理解し問題解決に応用できる人材育成の役割を、また、博士後期課程においては、世界的に通用する高い研究能力と俯瞰的な視野を持ち、問題の発見と解決のできる研究者・技術者育成の役割を果たす。

【ポリシー】

本学は入学後の教育に資するため、次のポリシーを定める。

カリキュラム・ポリシー（先端科学技術専攻）

本学は、先端科学技術分野の基礎概念を理解し、その上で専門知識を活用する能力、多様な文化に対する理解力とコミュニケーション能力及び高い倫理観を持ち、自らの専門性を社会で活用する視点を持ちつつ、幅広く関連分野を俯瞰して問題を発見し解決できる研究者、高度専門技術者を育成し、社会や産業界のリーダーとなる能力を養う。この目的に則して、各学位に対応し階層化された体系的な教育課程を編成する。

〔博士前期課程〕

博士前期課程では、一つの専門に偏ることなく先端科学技術分野の基礎概念の理解を促進し、問題解決に専門知識を応用できる能力、多様な文化に対する理解力とコミュニケーション能力及び高い倫理観を養う教育課程とする。

〔博士後期課程〕

博士後期課程では、先端科学技術分野の理論や体系を理解した上で問題発見及び問題解決ができる能力を育み、グローバルコミュニケーション能力、高い倫理観と俯瞰的視野を併せ持ち、先端科学技術分野でリーダーシップを発揮できる能力を養う教育課程とする。

※平成 31 年度中にカリキュラム・ポリシーの改定を予定しているため、最新版のカリキュラム・ポリシーは、本学ホームページ（教育→教育システムの特徴→カリキュラム・ポリシー）で確認すること。

研究室教育ポリシー（先端科学技術専攻）

本学は、学位授与プロセスで重要な役割を担う研究室教育を、講義による教育と対をなす大学院教育の要と捉え、学生の資質や学修目標を勘案した多様で自由度の高い教育の場とする。研究室においては、専門知識の修得や関連研究の調査を踏まえた研究計画の立案・実施、論文執筆、さらには研究成果の発表に至る一連の研究プロセスに必要な能力を修得させる。同時に、目標・経歴・国籍などの多様性に富む研究室環境で人間力の強化を図り、社会に役立つ研究者及び高度専門技術者を養成する。

〔博士前期課程〕

博士前期課程では、先端科学技術分野の基礎概念を理解した上で専門知識を問題解決に応用できる能力を身につけるために、各学生に応じて、個別指導や少人数規模による研究指導、協調的学修などを行う。同時に、多様な文化に対する理解力とコミュニケーション能力、高い倫理観を養う。

〔博士後期課程〕

博士後期課程では、俯瞰的視野を持ちつつ特定の研究分野の課題を発見し、科学的にその解決を図る能力を育むために、個別指導に重点を置いた研究指導を行う。各学生の個性を伸ばしつつ、その成果を国際会議や学術誌で発表するに至る高度な遂行能力を修得させる。同時に、リーダーシップを持ってプロジェクトを推進できる能力を養う。

ディプロマ・ポリシー（先端科学技術専攻）

本学は、学生がキャリア目標に応じて異分野・融合分野を履修でき、複数の教員が異なる視点から研究指導をするなど、分野や研究室間の垣根を低くした柔軟かつ多角的な教育研究指導体制を構築し、各学位に対応して質保証された学位授与プロセスを実施する。

〔博士前期課程〕

「修士」の学位は、先端科学技術分野の幅広い基礎概念を理解して問題解決に専門知識を応用できる能力、特定分野での学術・社会的に価値ある専門知識・技術及び研究能力を有し、多様な文化に対する理解力とコミュニケーション能力、高い倫理観を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した者に授与する。

〔博士後期課程〕

「博士」の学位は、先端科学技術分野の幅広い理論や体系を理解した上で高度の専門的知識・技術を有し、問題発見及び問題解決ができる能力、グローバルコミュニケーション能力、高い倫理観、俯瞰的視野を持ち、先端科学技術分野においてリーダーシップを発揮できる能力を身につけ、特定の研究分野で世界的に通用する研究業績をあげ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に授与する。

※平成31年度中にディプロマ・ポリシーの改定を予定しているため、最新版のディプロマ・ポリシーは、
本学ホームページ（教育→教育システムの特徴→ディプロマ・ポリシー）で確認すること。

Ⅱ 平成31年度学事日程

【北陸先端科学技術大学院大学】

学 期	事 項	月 日
(4月1日～学9月30日)	【春期休業】 入学式 オリエンテーション／東京 オリエンテーション／石川 1の1期授業期間 1の1期定期試験期間 安全講習会 春期全学行事日 1の2期授業期間 1の2期定期試験期間 学位記授与式 夏期集中講義 【夏期休業】 夏季一斉の特別休日／全教職員 学位記授与式	4月 1日 (月) ～ 3日 (水) 4月 4日 (木) 4月 6日 (土) 4月 5日 (金) ～ 11日 (木) 4月12日 (金) ～ 6月 7日 (金) 6月10日 (月) ～ 12日 (水) 6月13日 (木) 6月14日 (金) 6月17日 (月) ～ 8月 5日 (月) 8月 6日 (火)、7日 (水) 6月24日 (月) 8月 8日 (木) ～ 9月30日 (月) 8月 8日 (木) ～ 31日 (土) 8月14日 (水) ～ 16日 (金) 9月24日 (火)
	〈振替授業〉 6月 7日 (金) : 月曜時間割	
(10月1日～学3月31日)	創立記念日／休業日 入学式 オリエンテーション／東京 オリエンテーション／石川 2の1期授業期間 2の1期定期試験期間 冬期全学行事日 2の2期授業期間 2の2期定期試験期間 学位記授与式 【冬期休業】 年末年始休日／全教職員 冬期集中講義 学位記授与式	10月 1日 (火) 10月 2日 (水) 10月 5日 (土) 10月 3日 (木) ～ 9日 (水) 10月10日 (木) ～ 12月2日 (月) 12月 3日 (火) ～ 5日 (木) 12月 6日 (金) 12月 9日 (月) ～ 2月 5日 (水) 2月 6日 (木)、7日 (金) 12月24日 (火) 12月26日 (木) ～ 1月 4日 (土) 12月29日 (日) ～ 1月 3日 (金) 2月10日 (月) ～ 3月31日 (火) 3月25日 (水)
	〈振替授業〉 11月28日 (木) : 月曜時間割 11月29日 (金) : 火曜時間割 2月 4日 (火) : 木曜時間割 2月 5日 (水) : 金曜時間割	

※なお、東京サテライトの授業期間は、Ⅰ期は4月～6月、Ⅱ期は7月～9月、Ⅲ期は10月～12月、Ⅳ期は1月～3月とする。また、東京サテライトの開室時間、閉室日は別に定める。

履修科目登録／変更可能期間

授 業 期 間	登 録 / 変 更 可 能 期 間
1の1期／Ⅰ期	4月12日 (金) ～ 25日 (木) *
1の2期／Ⅱ期	6月17日 (月) ～ 28日 (金) *
2の1期／Ⅲ期	10月10日 (木) ～ 23日 (水) *
2の2期／Ⅳ期	12月 9日 (月) ～ 20日 (金)

*東京サテライトの4月及び10月に開始する講義の登録／変更可能期間は以下のとおり。

対 象 講 義	登 録 / 変 更 可 能 期 間
4月に開始する講義	4月12日 (金) ～ 18日 (木)
10月に開始する講義	10月10日 (木) ～ 16日 (水)

Ⅲ 履修概要

1 キャンパス

本学は、石川県能美市にキャンパスを置く。また本学に東京サテライト（所在地：東京都港区港南2丁目15番1号品川インターシティA棟19階）を置き、東京社会人コースの授業等を実施する。

2 研究科、専攻及び課程

本学では、先端科学技術研究科を置き、先端科学技術専攻及び融合科学共同専攻の2つの専攻から構成する。本履修案内は先端科学技術専攻の学生を対象としたものであり、融合科学共同専攻の学生を対象とした履修案内は別に定める。なお、先端科学技術専攻は前期2年及び後期3年の課程に区分する博士課程を置く。前期2年の課程を「博士前期課程」、後期3年の課程を「博士後期課程」とする。

3 学事日程

学事日程には、授業、休業、全学行事及び履修登録期間等の日程を示す。学事日程は証明書自動発行機横の掲示板及び本学ホームページ（教育→学事日程）にて公開するので、必ず確認すること。

4 学期と授業時間

本学の学期、授業期間及び授業時間は別表のとおりである。授業は1回100分とし、2単位科目であれば基本的に14回開講する。詳細は各科目のシラバスで確認すること。また1単位は授業時間と自学時間を併せた45時間の学修量に対して（「必修A科目」等では成果に必要な学修を考慮して）付与する。学生は、確実な学修の進捗を図るため、学修計画・記録書（詳細はⅥ-4. 2で確認すること。）を活用して主指導教員等の指導を受けるとともに、十分な学修時間が確保できるよう、慎重に授業科目を選択し、計画的に履修すること。

別表

区分	学期	授業時間
石川	第1学期：1の1期、1の2期（各8週間）、 夏期集中講義（8月・9月）	1時限 9：00～10：40 2時限 10：50～12：30
	第2学期：2の1期、2の2期（各8週間）、 冬期集中講義（2月・3月）	3時限 13：30～15：10（チュートリアルアワー） 4時限 15：20～17：00
	※ 各期の授業期間終了後に、定期試験の期間を設ける。集中講義については、原則として各授業の終了後に定期試験を実施する。	5時限 17：10～18：50
東京	第1学期：Ⅰ期（4月～6月に開始する授業）、 Ⅱ期（7月～9月に開始する授業）	1時限 9：20～11：00（土曜、日曜） 2時限 11：10～12：50（土曜、日曜）
	第2学期：Ⅲ期（10月～12月に開始する授業）、 Ⅳ期（1月～3月に開始する授業）	3時限 13：50～15：30（土曜、日曜） 4時限 15：40～17：20（土曜、日曜）
	※ 原則として各授業の終了後に定期試験を実施する。	5時限 17：30～19：10（土曜、日曜） 6時限 18：30～20：10（月曜～金曜） 7時限 20：15～21：55（月曜～金曜）

※ 平日に石川の講義を東京サテライトへ同時配信する場合は、東京サテライトの1～5時限の時間帯は石川と同一の時間帯とする。

Ⅳ 授業料、学籍に関する事項

1 授業料

授業料は、前期（4月1日から9月30日まで）及び後期（10月1日から3月31日まで）の2期に分けて全額を一括し、原則として口座振替により徴収する（詳細は教務・学生生活ハンドブック参照）。なお、在学中に授業料改定を行った場合には、改定時から新しい授業料額を適用する。

2 休学

病気その他特別の理由により、引き続き2か月以上修学することができないときは、休学の申請をすることができる。ただし、休学期間は、原則として博士前期課程又は博士後期課程ごとに通算して1年を超えることができない。なお、休学期間は在学年限に含まないため、履修登録を含め学修に係る活動や研究指導を受けること等は一切認めないが、附属図書館や学内メール等の利用は制限しない。

休学開始日は各月の1日付とし、月の途中からの休学は認めない。休学を申請する場合は、教育支援課教務係（以下「教務係」という。）で休学願を受け取り、主指導教員等の承認を得た上で、休学開始希望月の1か月前までに教務係に提出すること（病気により休学する場合は医師による診断書を添付すること）。

なお、休学開始希望月の前月までの授業料が未納の場合は、休学願を受理しない。

また、前期及び後期の途中からの休学を希望する場合、前期は4月10日まで、後期は10月10日までに申請し認められれば休学期間の授業料を徴収しないが、この期日後に申請した場合は、当該期授業料の全額を徴収した上で休学を許可する。休学期間の授業料徴収の詳細は、本学ホームページ（教育→教務に関する各種制度→休学、退学等の手続き）で確認すること。

3 復学

休学期間終了後は自動的に復学となる。休学期間を短縮して復学を希望する場合は、教務係で復学願を受け取り、復学希望月の1か月前までに教務係に提出すること。

なお、復学日は各月の1日付とする。

4 退学

退学日は各月の末日付とし、月の途中での退学は認めない。退学を希望するときは、教務係で退学願を受け取り、各指導教員の所見等を得た上で、退学希望月の1か月前までに教務係に提出すること。

退学日に関わらず、在学する当該期（前期又は後期）の授業料及び本学に対する必要な支払を終えていない場合は退学願を受理しない。

5 除籍

次のいずれかに当てはまる者は除籍とする。

（1）在学期間が在学年限（博士前期課程学生：4年、博士後期課程学生：6年）を超えた者

※退学を希望する者は必ず退学手続きをとること。

（2）休学期間が学則第27条第4項に規定する期間（2年）を超えた者

（3）次に該当する者で納入すべき入学料を所定の期日までに納入しなかった者

- ・入学料免除又は徴収猶予されなかった者
- ・入学料の半額免除又は徴収猶予された者
- ・入学料の免除又は徴収猶予を取り消された者

（4）授業料の納入を怠り、督促してもなお納入しなかった者

なお、（３）又は（４）により除籍とするときは、当該学生が未納期間に修得した単位及び履修の記録を取り消す。

6 単位修得在学

博士後期課程に標準修業年限（３年）以上在学し、修了に必要な単位（「必修Ａ科目」を除く）を修得済みであり、かつ、必要な研究指導を受けた上で所定の期日までに学位論文の骨子を提出している者であって、２年以内に学位の授与を申請することが確実であると研究科長が判断した者について、在学年限の範囲内で２年を限度として、本学の教育研究環境の提供を行わない態様での在学を認めることがある。単位修得在学の開始日は４月１日、７月１日、１０月１日、１月１日のいずれかとし、休学から引き続くことは不可とする。単位修得在学を希望する場合は、開始希望月の１か月前までに教務係に申し出ること。

なお、単位修得在学期間に係る留学ビザの発給及び更新の手続は、大学では行わない。

7 改姓（改名）

改姓（改名）した場合は、改姓（改名）届と改姓（改名）後の戸籍を証明する書類を教務係に提出すること。その際、旧姓使用を希望する場合は、同時に申し出ること。なお、改姓（改名）届受理以降は、全ての証明書類は改姓（改名）後の氏名で発行する。ただし、旧姓使用を申し出た者は、この限りではない。

修了・退学等後に改姓（改名）した場合は、証明書類は在学時の氏名で発行する。

V 教育システム

本学では、学生一人一人のキャリア目標の実現を目的として、学生の意欲や経験、能力等に応じたきめ細やかな特色ある教育システムを実施している。

1 教育プログラム

各個人のキャリア目標に沿って、5種類の教育プログラムを用意しており、学生は下記のいずれかの教育プログラムを選択し、履修する。ただし、東京社会人コースの学生は、博士前期課程においてはMプログラム、博士後期課程においては3Dプログラムとするため、教育プログラムの選択は行わない。

なお、Mα・5Dプログラムの選択は、研究室配属後（入学から3か月後）に希望調査を行い、入学後の成績、英語能力（TOEFL・TOEICの成績等）、申請理由などを総合的に評価して決定する。

1. 1 教育プログラム種別

（1）SDプログラム（博士前期課程・博士後期課程）

優れた素質の学生をできるだけ早期に見出し、一貫的な博士教育により世界的な視点で新しい研究に挑戦し、かつ、開拓できる科学者の育成を目的とした教育プログラムであり、SDプログラム給付奨学生特別選抜にて入学した者のみが履修する。

SDプログラム学生は、専門的に組織する教員集団による指導等を受け、博士前期課程を1年半、博士後期課程を2年半の4年間での修了を目指す。SDプログラム学生が成績不振等の場合にはその他の教育プログラムへの変更を勧告する場合もある。

（2）5Dプログラム（博士前期課程・博士後期課程）

博士前期課程・博士後期課程を通した、5年一貫的な博士教育を行う教育プログラムである。

（3）3Dプログラム（博士後期課程）

博士後期課程において3年間の博士教育を行う教育プログラムである。

5Dプログラム（博士後期課程）及び3Dプログラム共通事項／石川キャンパス学生のみ対象：

両プログラム学生には、将来の志望キャリアを考える機会を与えるために、キャリアタイプを用意しており、国内外の大学・研究機関における研究活動や、企業等における長期の高度インターンシップを、各人のキャリアプランに従って適宜選択し、履修及び活動することを奨励する。

キャリアタイプには、大学教員や、教育研究機関で先端研究を企画・実施できる創造的な科学者を志望する「タイプS」と、企業等で最先端の研究開発をリードし、マネジメントできる高度な専門技術者を志望する「タイプE」があり、入学後にどちらかを選択し、学修計画・記録書に記載すること。

なお、学外活動助成制度（詳細は教務・学生生活ハンドブック参照）や履修科目において、選択したキャリアタイプによる差はない。

（4）Mプログラム（博士前期課程）

博士前期課程において、専門的知識と技術を基に、企業等で先導的な役割を担う実践的な専門技術者を養成する、2年間の修士教育を行う教育プログラムである。

(5) M α プログラム（博士前期課程）

学部時代からの専攻分野を変更する者又は基礎からじっくり学びたい者を対象として、2年間から3年間でMプログラムと同様の修士教育を行う教育プログラムである。2年を超える在学期間分の授業料は免除する。ただし、免除期間は最長1年までとする。

M α プログラムを選択した場合でも、研究が予定より早く進んだ場合には修学期間を短縮して2年で修了することもできる。ただし、修学期間短縮の申し出は研究計画提案書提出時と学位申請時に限られることとし、短縮後の取消は認めない。なお、修学期間短縮の申し出が無い限り、本学が発行する修了見込証明書の修了見込年月日は、M α プログラムの修学期間に応じたものとなるので注意すること。

1. 2 教育プログラムの変更

教育プログラムは教育上必要と認められる場合に、以下の変更に限り認めることがある。変更を希望する者は教務係に申し出ること。

- ・SDプログラムから5Dプログラム、Mプログラムへの変更
- ・5DプログラムからMプログラムへの変更
- ・Mプログラムから5Dプログラムへの変更（所定の時期に限る）

なお、SDプログラム及び5Dプログラムにおいては、所定の時期に博士前期課程又は博士後期課程を修了できないことが判明した時点（以下の場合による）で、プログラム変更を行う。その場合、SDプログラム学生においてはSDプログラム奨学金の受給資格を失う。

- ・博士前期課程：所定の時期に研究計画提案書及び学位申請書を提出しなかった場合
- ・博士後期課程：所定の時期に学位論文の骨子、予備審査願及び学位申請書を提出しなかった場合

2 学修プログラム

教育内容により区分した教育課程として学修プログラムを置く。学修プログラムの修了に必要な要件を満たした場合には、プログラム修了証を発行する。詳細は、「学修プログラム」の章で確認すること。

3 人間カイノベーション論、創出カイノベーション論

知識科学の方法論に基づいた人間力及び創出力強化の講義として、博士前期課程ではS101「人間カイノベーション論」及びS102「創出カイノベーション論」、博士後期課程ではS503「人間力・創出カイノベーション論」を必修科目とする。詳細は、「授業科目・授業時間割」の章及びシラバスで確認すること。

VI 履修に関する事項

1 履修要望事項

本学のカリキュラムは、大学の設立理念に基づき、先端科学技術に関する基礎から最先端にいたる学術的知識を体系的に理解しつつ、先端科学技術の発展や組織と社会の諸問題の解決に寄与し得る基礎力を能動的な学修を通じて獲得できるように工夫されている。

履修に当たっては、講義内容を受動的にただ受け取るだけでは不十分である。各自の学修プロセスの中で、先端科学技術や組織と社会の諸問題を理解しながら、次世代の技術的・組織的・社会的イノベーションの芽を自分自身の中に育んでもらいたい。

2 授業科目の体系と区分

1つの授業科目につき、課程及び取得を目指す学位（知識科学、情報科学、マテリアルサイエンス）により異なる科目区分を付す科目体系とする。

例えば、知識科学の学位取得を目指す博士前期課程の学生が情報科学系科目の I2xx の単位を修得した場合、展開科目の修了単位として修了要件に算入することとなる。

各科目区分の内容は以下のとおりである。各授業科目の学位に対応する科目区分は「**授業科目・授業時間割**」の章で確認すること。

2. 1 博士前期課程・博士後期課程共通の科目区分

自由科目／自らの学修の補遺的な強化に資する授業科目群

○修了単位に算入不可

2. 2 博士前期課程の科目区分

1：学術科目／異文化に触れながらグローバルな言語の強化に資する授業科目群

○2単位まで修了単位に算入可

2：広域科目／融合領域を広範に捉え、自らの専門性の広角化に資する授業科目群

○必修単位に加え、4単位まで修了単位に算入可

・S101「人間力イノベーション論」／必修（1単位）

3：導入科目／融合領域の境界を捉え、自らの専門性の基盤化に資する授業科目群

（修士レベルの専門基礎の強化）

○必修単位に加え、4単位まで修了単位に算入可

・S102「創出力イノベーション論」／必修（1単位）

4：基幹科目／融合領域の境界を越え、自らの専門性の螺旋化に資する授業科目群

（専攻分野の中核的知識・方法論等の強化）

○必修単位（選択必修）に加え、6単位以上の修得が修了単位として必要

・S201「科学技術研究論文」（8単位）、S202「科学技術課題研究」（2単位）又は
S203「科学技術博士研究計画調査」（2単位）／選択必修

5：展開科目／科学技術の展開を捉え、自らの専門性の高度化を図る授業科目群

（幅広い基盤的専門知識を理解し問題解決に応用できる能力を定着）

○必修単位（選択必修）に加え、修得した単位は修了単位に算入可

・S401「科学技術副テーマ研究」又はS402「科学技術インターンシップ」／選択必修（2単位）

2. 3 博士後期課程の科目区分

1 : 発展科目／先端科学技術の発展を捉え、自らの専門性の深化を図る授業科目群

(博士レベルの専門応用の強化を図る授業科目群、日本語及び英語で実施)

○必修単位 (必修及び選択必修) に加え、修得した単位は修了単位に算入可

・S503「人間力・創出力イノベーション論」／必修 (1 単位)

・S501「先端科学技術副テーマ研究」又は S502「先端科学技術インターンシップ」／選択必修 (2 単位)

2 : 先端科目／先端科学技術の深奥を捉え、自らの専門性の確立を図る授業科目群

(授業科目は主に英語で実施)

(世界的に通用する高い研究能力と俯瞰的な視野を持ち、問題の発見と解決

できる能力を付与し、定着を徹底)

○必修単位に加え、4 単位以上の修得が修了単位として必要

・S601「先端科学技術研究論文」／必修 (6 単位)

3 修了要件

以下に示す要件を全て満たしていることが修了に必要なとなる。なお、修了要件を満たしているか否かの確認は、指導教員と相談の上、各自責任を持って行うこと。

3. 1. 1 博士前期課程の修了要件

- (1) 原則として博士前期課程に2年以上在学すること。ただし、あらかじめ申し出ることにより、短期修了の基礎資格を持つ者について、優れた業績を挙げたことが教授会において認められた場合は、学則第36条に基づき1年以上在学すれば足りるものとする。短期修了に関するガイダンスは入学時に行う。
- (2) 必要な研究指導を受けた上で、修士論文研究又は課題研究選択者は、修士論文又は課題研究報告書を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。博士研究計画調査選択者は、博士研究計画調査報告書を提出し、博士論文研究基礎力審査に合格すること。
- (3) 履修する授業科目及び修得すべき単位として、別表1及び別表2の要件を同時に満たしていること。

別表1 主テーマ研究別による単位修得要件

主テーマ研究	必修単位		選択単位 (別表2)	合計単位数
	必修A科目	必修B科目		
修士論文研究	S201 科学技術研究論文 8単位	S101 人間力イノベーション論 1単位 S102 創出力イノベーション論 1単位	20単位以上	32単位以上
課題研究	S202 科学技術課題研究 2単位	S401 科学技術副テーマ研究 又は S402 科学技術インターンシップ } 2単位	26単位以上	
博士研究計画調査	S203 科学技術博士研究計画調査 2単位		28単位以上	34単位以上

※ 必修A科目は学位論文等の指導が行われるもの、必修B科目は人間力・創出力強化プログラムに基づく科目及び副テーマ研究又はインターンシップの指導が行われるものとして、A・Bとも必修とするものである(別表2も同様)。

別表2 科目区分による単位修得要件

科目区分	必修A科目	必修B科目	別表1の選択単位への算入	合計単位数
学術科目	—	—	2単位まで算入可	別表1による 32又は34単位 以上
広域科目	—	1単位 (S101)	必修B科目を除き、4単位まで算入可	
導入科目	—	1単位 (S102)	必修B科目を除き、4単位まで算入可	
基幹科目	8又は2単位 (S201, S202, S203)	—	必修A科目を除き、6単位以上の修得が必要	
展開科目	—	2単位 (S401, S402)	算入可（上限なし）	

※ 特別な履修条件が付された科目については、修了要件として算入できない場合があるので、詳細は「授業科目・授業時間割」の章における授業科目一覧の注意書きを必ず確認すること。

(例) 知識科学の学位取得を目指す博士前期課程学生の場合（石川：修士論文研究を選択した場合）

1：学術科目

- ・ E211 テクニカル英語基礎1（2単位）

2：広域科目

- ・ S101 人間イノベーション論／必修B科目（1単位）
- ・ L222 技術経営と知的財産（2単位）

3：導入科目

- ・ S102 創出イノベーション論／必修B科目（1単位）
- ・ K111 経営学概論（2単位）
- ・ I114 基礎情報数学（2単位）

4：基幹科目

- ・ S201 科学技術研究論文／必修A科目（8単位）
- ・ K213 システム科学方法論（2単位）
- ・ K214 知識メディア方法論（2単位）
- ・ K236 データ分析学基礎（2単位）

5：展開科目

- ・ S401 科学技術副テーマ研究／必修B科目（2単位）
 - ・ K411 知識経営論（2単位）
 - ・ K413 比較知識制度論（2単位）
 - ・ I235 ゲーム情報学特論（2単位）
- 合計 32単位

3. 1. 2 5Dプログラム学生の博士後期課程学内進学要件

5Dプログラム学生として博士後期課程に進学するためには、3. 1. 1の修了要件を満たすことに加え、次の要件を満たすこと。

- ・ 導入科目、基幹科目及び展開科目（必修科目は除く）から9科目18単位を修得していること。ただし、この9科目18単位には、導入科目は1科目2単位のみ含めることができるものとする。

3. 2 博士後期課程の修了要件

- (1) 原則として大学院に5年（修士課程又は博士前期課程の在学期間を含む）以上在学すること。ただし、所定の時期までに短期修了を申し出て、優れた研究業績を挙げたことが教授会において認められた場合は、

学則第 37 条に基づき 3 年（修士課程又は博士前期課程の在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとする。短期修了については、Ⅷ－2. 1 を参照すること。

（2）必要な研究指導を受けた上で、学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。

（3）履修する授業科目及び修得すべき単位として、下記別表の要件を満たしていること。なお、7 で述べる既修得単位として認定された単位以外で、博士前期課程在学時に科目履修により修得した単位及び博士前期課程在学時に既修得単位として認定された単位を博士後期課程で修得した場合でも、博士後期課程の修了要件に含めることはできない。

別表 科目区分による単位修得要件

科目区分	必修単位（9 単位）		選択単位 (11 単位以上)	合計単位数
	必修 A 科目	必修 B 科目		
発展科目	—	S503 人間力・創出力イノベーション論 1 単位 S501 先端科学技術副テーマ研究 又は S502 先端科学技術インターンシップ } 2 単位	算入可	20 単位以上
先端科目	S601 先端科学技術研究論文 6 単位	—	必修 A 科目を除き、4 単位以上の修得が必要	

※ 必修 A 科目は学位論文の指導が行われるもの、必修 B 科目は人間力・創出力強化プログラムに基づく科目及び副テーマ研究又はインターンシップの指導が行われるものとして、A・B とも必修とするものである。

※ 特別な履修条件が付された科目については、修了要件として算入できない場合があるので、詳細は「**授業科目・授業時間割**」の章における授業科目一覧の注意書きを必ず確認すること。

（例）マテリアルサイエンスの学位取得を目指す博士後期課程学生のケース

1：発展科目

- ・ S503 人間力・創出力イノベーション論／必修 B 科目（1 単位）
- ・ S501 先端科学技術副テーマ研究／必修 B 科目（2 単位）
- ・ K213 システム科学方法論（2 単位）
- ・ I212 情報解析学特論（2 単位）

2：先端科目

- ・ S601 先端科学技術研究論文／必修 A 科目（6 単位）
 - ・ M617 分子設計特論（2 単位）
 - ・ M618 材料設計特論（2 単位）
 - ・ M619 材料形態特論（2 単位）
 - ・ M622 先端生体分子科学特論（2 単位）
- 合計 21 単位

4 履修手続

4. 1 学務システムと講義シラバス

4. 1. 1 学務システム

本学では、履修登録、成績確認等履修に関する手続きは全て学務システムで行う。システムの使い方をよく理解し、登録等に不備がないようにすること。マニュアルを確認した上で、更に不明な点があれば、教務係に問い合わせること。

【学務システムへのログイン方法】

＜本学ホームページ→教育→履修関係→学務システム（学内専用）＞

※ログイン時のユーザーIDは入学時に付与したもの、パスワードはJAISTメールと同じ。

4. 1. 2 講義シラバス

講義シラバスは学務システム及び本学ホームページ（教育→履修関係→シラバス）にて公開するので、必ず確認すること。冊子は配付しない。

4. 2 学修計画・記録書と履修登録

4. 2. 1 学修計画・記録書

学修計画・記録書は、入学から修了までの履修科目や学修の計画と記録、また、指導教員からの指導内容を記録し、学修の振り返りの一助とするものである。記載事項を確認し、更新を怠らないこと。なお、学修計画・記録書の作成は全てポートフォリオシステムにて行う。詳細は「学修計画・記録書の手引」（本学ホームページ→教育→履修関係→学修計画・記録書）で確認すること。

4. 2. 2 履修登録（申請・許可）

授業時間割及びシラバスを参照し、計画的な履修登録を行うこと。本学では、一部でも同一時間帯に行われる授業科目を同時に履修登録すること（二重登録）及び入学後に単位を修得した科目を再履修することは認めない。入学後に単位を修得した科目については、使用言語のみが異なる科目（例：K211 と K211E）も同一科目として扱うので、注意すること。

なお、石川キャンパスの学生は石川キャンパスで実施する授業科目を、東京社会人コースの学生は東京サテライトで実施する授業科目を履修すること。また、単位なしの科目についても、履修登録を行わないと履修できない。

履修登録は学務システムにて行う。履修登録方法は学生向けマニュアル（本学ホームページ→教育→履修関係→学務システム（学内専用）→学生向けマニュアル→履修／成績）を参照すること。

履修登録を行うに当たっては、主指導教員の指導を受けた上で、学修を計画し、各期に定める履修登録期間中に、当該期において履修しようとする授業科目を学務システムより登録し、登録が完了しているか必ず確認すること。履修科目の追加・変更・取消は、履修登録期間中は自由に行うことができるが、履修登録期間終了後は一切認めない。履修登録期間は学事日程で確認すること。

集中講義・適宜開講科目の講義日程については、詳細が決まり次第、別途通知する。

4. 2. 3 履修登録単位数の上限

本学では、履修登録を認めた科目に関して適切な学修時間数を確保するため、以下のとおり履修登録単位数の上限の目安を設定している。これにより履修登録が制限されることはないが、本上限を目安として計画的な履修計画を立てることを推奨する。なお、対象は石川キャンパスの学生のみとする。

（1）履修登録単位数の上限の目安

各期 10 単位

（2）対象科目

以下の科目を除いた全科目

- ・ 必修科目（必修A科目及び必修B科目）
- ・ グローバルコミュニケーションセンター開講科目
- ・ 集中講義科目（夏期、冬期）

4. 3 同一年度内における同一科目の再履修

同一年度内における同一科目の再履修については、以下の扱いとする。

(1) 標準修業年限を超えている学生

学生の申請により無条件で再履修を認める（研究科の承認を要しない）。

(2) 標準修業年限内の学生

学生の申請により研究科が認めた場合に限り再履修を認める。

再履修を希望する者は、該当科目が開講される期の履修登録期間開始後1週間以内に再履修申請書（本学ホームページ→教育→履修関係→履修登録（学内専用））を教務係に提出すること。再履修科目の履修登録は教務係が行う。使用言語のみが異なる科目（例：K211とK211E）も同一科目として再履修申請書の提出が必要なので、注意すること。

なお、単位なしの科目及びS101「人間カイノベーション論」、S102「創出カイノベーション論」、S503「人間力・創出カイノベーション論」については、無条件で再履修を認めることとし、申請を要しない。よって、再履修希望者は、履修登録期間中に学務システムから履修登録を行うこと。

5 試験、成績評価等

(1) 講義終了後に、原則として試験により成績評価を行う。試験の困難な科目は研究報告（レポート提出等）により成績評価を行う。

(2) 試験等の成績は、シラバスに明記した評価の観点・方法・基準に基づき、100点を満点とする点数によって達成度を評価し、60点以上を「合格」、59点以下を「不合格」とする。点数をもって評価したい科目は、「合格」又は「不合格」の評語をもって代えることがある。「合格」と評価を受けた者には所定の単位を与える。

(3) 既修得単位の取り消し及び成績の更新は行わない。

(4) 成績の確認は、石川キャンパスの学生は各期終了後2週間程度を目途に、東京社会人コースの学生は教務係から成績報告の通知を受け取り次第、各自で学務システムから行うこと。なお、成績評価に対して疑義がある場合は、教務係に申し出ること。

(5) 履修及び試験等において不正行為があったときは、当該学期に修得した全ての単位を無効とする。

(6) (1) 及び (2) の成績評価に基づき、一定期間又は累積期間に係る客観的な成績指標を算出し、本学が必要と認めた事項に対して、評価することがある。

6 授業評価

授業改善に資するため、本学教員が担当する各講義の終了時にアンケート方式による授業評価を行い、アンケート結果は成績報告後に授業担当教員に通知する。

7 入学・進学前の既修得単位の認定

入学・進学前に修得した単位の認定を希望する者は、入学・進学後2週間以内に、指導教員の承認を得た上で、申請書（本学ホームページ→教育→教務に関する各種制度→既修得単位の認定申請）を教務係に提出しなければならない。ただし、他の大学院で修得した科目を申請する場合は、成績証明書及び申請科目の講義内容を記載したシラバスも提出すること。

認定の結果（可否）は、入学から約2か月後に通知し、認定を受けた科目の評価は「認定」とする。この認定科目は、修了要件の単位に含めることができる。また、本学に入学した後に当該科目を履修し合格した場合は、点数による評価に変えることとする。なお、認定科目の変更は認めない。

認定可能単位数は次のとおりである。なお、博士後期課程においてはK・I・Mxxxの科目群のうち、K1xx、I1xx、M1xxの科目群の認定は行わない。

(1) 他の大学院で修得した単位

本学に入学する前に他の大学院で修得した授業科目の単位は、教授会で審議の上、8単位を超えない範囲内で本学にて修得したK・I・Mxxxの科目群の単位として認めることがある。

(2) 本学博士前期課程で修得した単位

本学博士前期課程を修了した者が本学博士後期課程に入学し、又は進学した場合は、博士前期課程において10単位を超えて修得したK・I・M・Nxxxの科目群（E413を含む。K1xx、I1xx、M1xxの科目群、N001～N005及び「必修科目」は含まない。）のうち、最大8単位までを博士後期課程にて発展科目又は先端科目を修得したものとして認めることがある。

(3) 本学科目等履修生として修得した単位

原則として、修得した全ての単位を入学後の適用カリキュラムに従って認定する。

(4) その他

転入学、再入学又は改めて入学した者の認定可能単位数については、教務係に問い合わせること。

8 単位互換制度による他の大学院の授業科目の履修

本学では、別表にある大学院（以下「協定校」という。）との交流と協力を促進し、教育内容の充実を図るため、相互の授業科目を履修することができる単位互換制度を実施している。協定校のシラバスを確認し、履修を希望する学生は指導教員と相談の上、所定の手続を行うこと。ただし申請の際には、履修希望科目の授業時間割を確認し、出席可能な授業を選択すること。なお、入学後半年間は本学の科目履修を優先するため、履修を許可しない。

(1) 検定料、入学料及び授業料

学生は、それぞれの協定校の特別聴講学生となり、履修に係る検定料、入学料及び授業料は徴収しない。ただし、放送大学大学院では授業料のみ徴収する。

(2) 履修できる授業科目、授業科目数及び修得単位数

協定校で履修できる授業科目は、放送大学大学院以外は、研究に有効であり、本学で開設していない内容の授業科目とする。詳細は別表にて確認すること。また、履修できる授業科目数及び修得単位数は、在学期間中に合わせて5科目以内で、かつ入学・進学前の履修科目で7により認定を受けた単位を含め、10単位以内とする。

履修の可否、単位を修得した場合の本学での取扱いは、学生からの申請により教授会で決定する。ただし、放送大学大学院において修得する授業科目の単位は、原則として自由科目、学術科目又は広域科目としてのみ認定する。

(3) 申請手続

協定校での履修を希望する学生は、指導教員と相談し、了解を得た上で定められた期間内に手続を行うこと。なお、各協定校の授業時間割、講義科目（シラバス）及び手続き要領については、適宜通知する。

別表

協定校	履修できる授業科目
金沢大学大学院自然科学研究科	協定校の常勤の教員が担当する授業科目。ただし、実験・実習・演習及び課題研究等は履修不可。 博士前期課程学生のみ履修が可能である。
金沢工業大学大学院工学研究科	
放送大学大学院文化科学研究科	全ての大学院授業科目 博士前期課程学生のみ履修が可能である。
総合研究大学院大学複合科学研究科	教務係から通知する授業科目

Ⅶ 教育・研究指導に関する事項

1 教育・研究指導

本学では、専攻分野に関する研究課題（主テーマ研究）のほかに、主テーマとは異なる、隣接又は関連分野の基礎的な概念、知識、能力等を身につけることができるように第二の研究課題（副テーマ研究）を課している。

さらに、主テーマ研究の一環として海外・国内の教育研究機関への研究留学や、副テーマ研究に代えて企業等におけるインターンシップを選択することが可能であり、社会において高度の専門性を役立てられるようなキャリア形成への工夫がされている。

1. 1 主テーマ研究

「主テーマ研究」は、主指導教員と関心を共有する研究テーマについて、学生がその教員の指導を受けながら探求し、成果をまとめる研究である。博士前期課程においてはS201「科学技術研究論文」 8単位、S202「科学技術課題研究」 2単位又はS203「科学技術博士研究計画調査」 2単位の選択必修科目、博士後期課程においてはS601「先端科学技術研究論文」 6単位の必修科目である。

なお、S203「科学技術博士研究計画調査」はSDプログラム及び5Dプログラム学生のみが選択することができる。よって、東京社会人コース学生は、S203「科学技術博士研究計画調査」を選択できない。

1. 2 副テーマ研究

「副テーマ研究」は、副テーマ指導教員から指導を受け、主テーマとは異なる、隣接又は関連分野についての基礎的な知識や能力等を修得し、又は協同で研究を行うことによって、学生が視野を広げながら複眼的視点を身につけるための研究である。博士前期課程においてはS401「科学技術副テーマ研究」 2単位の選択必修科目、博士後期課程においてはS501「先端科学技術副テーマ研究」 2単位の選択必修科目である。

1. 3 インターンシップ

「インターンシップ」は、産業界において実践的な研究開発能力を身につけることを希望する学生について、副テーマ研究に代えて企業等でのインターンシップを単位認定するものである。博士前期課程においてはS402「科学技術インターンシップ」 2単位の選択必修科目、博士後期課程においてはS502「先端科学技術インターンシップ」 2単位の選択必修科目である。

学生は所定の時期に「副テーマ研究」又は「インターンシップ」のどちらかを選択する。ただし、東京社会人コースではインターンシップは選択不可とし、副テーマ研究を必修とする。

2 複数教員指導制

本学の指導体制の中で、学生が直面する様々な問題の解決を図るため、教育研究指導及び生活全般における指導上の観点から、ひとりの学生に対して3名の教員が指導にあたる複数教員指導制をとっており、本学が「育成する人材像」に合致するよう教育を行っている。

主指導教員、副指導教員、副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員の3名で構成し、各教員は以下の役割を担う。各指導教員の決定時期については、後述する。

（1）主指導教員

- ア. 当該学生に対する教育研究上の指導の中心を担う。
- イ. 当該学生の専攻分野に関する研究課題（主テーマ研究）の指導、学位論文の作成等について指導する。
- ウ. 当該学生の学生生活、進路・キャリア形成等について指導を行う。
- エ. 副指導教員や関係者と連携をとりながら、当該学生に係る諸問題の解決に努める。

(2) 副指導教員

- ア. 当該学生に対し、主指導教員とは異なる視点から、教育研究上の指導や助言を行う。
- イ. 当該学生の学生生活、進路・キャリア形成等について、主指導教員とは異なる視点から指導や助言を行う。
- ウ. 必要に応じ主指導教員と連携をとりながら、当該学生に係る諸問題の解決に努める。

(3) 副テーマ指導教員、インターンシップ指導教員

- ア. 主テーマとは異なる、隣接又は関連分野の教員とし、第二の研究課題（副テーマ研究又はインターンシップ）を指導する。
- イ. 主指導教員及び副指導教員とは異なる視点から、当該学生への教育研究上の諸問題に助言を行う（インターン先との連携を含む）。

3 博士前期課程での研究指導

以下、特記しない限りは石川キャンパス、東京社会人コース、各教育プログラムの共通の事項を記す。

3. 1 導入配属・展開配属

入学時に全員を各研究室に導入配属（仮配属）する。導入配属は、研究室に展開配属（本配属）されるまでの期間とし、この間に、講義や研究室訪問などを通して希望研究室を決める。

展開配属は配属希望調査を行った上で、入学から3か月後に行う。展開配属申請の手続きは別途通知する。なお、SDプログラム学生については、入学当初から希望研究室への展開配属が可能である。

また、展開配属の決定の翌月に副指導教員を決定する。

展開配属後に、何らかの理由により他の研究室への異動を希望する場合は、教務係に申し出ること。

3. 2 主テーマ研究

- (1) 博士前期課程においては、基礎・専門知識の構築をより深く行う修士論文研究、より幅広く行う課題研究、博士後期課程での博士研究に備えた博士研究計画調査がある。ただし、博士研究計画調査は、SDプログラム及び5Dプログラム学生のみが選択可能である。また、博士研究計画調査の選択を希望する者は、研究室配属後に行う教育プログラムの希望調査の際に、教務係へ届け出る必要がある。博士研究計画調査による博士論文研究基礎力審査についての詳細は、**3. 5**で確認すること。

学生は主指導教員と相談の上、修士論文研究、課題研究又は博士研究計画調査のいずれかを選択し、そのための「研究計画提案書」を次項の提出期限までに教務係に提出する。研究計画提案書を所定の期日までに提出しないと修了時期が遅れる。

(2) 研究計画提案書の提出期限

以下に、各教育プログラムごとの提出期限を記す。

M・5D：1年次の最後（4月入学者は翌年の3月末、10月入学者は翌年の9月末）

Mα：予定する修了時（入学後2年3か月、2年6か月、2年9か月、3年）の1年前

SD：入学後6月以内（4月入学者は1年次の9月末、10月入学者は1年次の3月末）

なお、長期履修制度を利用している学生は、予定する修了時の1年前までに提出することとする。

(3) 研究計画提案書の提出要件

石川キャンパス学生は、以下の要件を全て満たすこととする。

- ① S101「人間カイノベーション論」、S102「創出力カイノベーション論」の単位を修得していること。
- ② 基幹科目から3科目6単位以上を修得していること。
- ③ 必修B科目及び自由科目を除き、②を含めて5科目10単位以上を修得していること。
- ④ 研究計画の内容が十分であること。

東京社会人コース学生は、以下の要件を全て満たすこととする。

- ① 基幹科目から3科目6単位以上を修得していること。
- ② 必修B科目及び自由科目を除き、①を含めて5科目10単位以上を修得していること。
- ③ 研究計画の内容が十分であること。

(4) 研究開始時期

3名の指導教員の審査に基づいて研究計画提案書の受理の可否が決定され、受理された時点を研究開始時期とする。

(5) 研究期間

主テーマの研究期間は、原則として1年以上（博士研究計画調査選択者は7か月以上）を必要とする。したがって、(2)の提出期限までに研究計画提案書が受理されない場合は、標準修業年限では修了できない。

(6) 注意事項

- ・ 研究計画提案書の提出には(3)の要件が必要なので、できるだけ早くから要件を満たしていることを自分で確認すること。また、研究計画提案書の提出にあたっては、副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員が決定していなければならないので注意すること（SDプログラム学生についてはこの限りではない）。
- ・ 研究計画提案書を書くためには研究テーマに関する文献調査が必要なので、主指導教員と相談しながら、できるだけ早く研究テーマを選定し関連する文献を収集しながら読み進めて欲しい。
- ・ 研究計画提案書の提出後、修士論文研究から課題研究へ変更を希望する場合は、教務係にて必要な手続きを確認すること。その場合、修了時期が標準の時期より遅れる場合があるので、注意すること。
- ・ 修士論文研究又は課題研究を選択した石川キャンパス学生は、2年次の中旬に修士論文等中間発表会にて発表を行い、評価を受ける。詳細については、別途通知する。

3.3 副テーマ研究

(1) 研究開始時期

4月入学者は1年次の7月に希望調査を行い、10月に副テーマ指導教員を決定する。副テーマ研究は副テーマ指導教員の決定後、1年次の12月初旬頃までに開始し、副テーマ指導教員と相談の上、開始後1か月以内に副テーマの題目を教務係に届け出る。10月入学者は原則として6か月遅れのスケジュールで実施する。

(2) 研究期間

標準的な研究期間は2か月とする。副テーマ研究は、学位申請時まで（博士研究計画調査選択者は博士論文研究基礎力審査時まで）に単位認定を受けている必要があるため、学位申請の1か月前まで（博士研究計画調査選択者は博士論文研究基礎力審査の1か月前まで）には副テーマ終了の成果物を副テーマ指導教員及び教務係に提出すること。

(3) 注意事項

- ・ 副テーマ研究をグループワークで行い、グループや個人として指導を受けることもできる（グループ副テーマ）。その場合は以下のケースがある。
 - * 学生が同じ関心を持つグループメンバーを集めた上で、副テーマ指導教員を決める。
 - * 教員がグループワークで行う副テーマを提案し、グループメンバーを集める。
- グループワークでの副テーマ研究でも、副テーマ研究の単位は、メンバー一人一人が書く報告書を副テーマ指導教員が評価した後に与えられる。さらにグループ全体の報告書を要求される場合がある。
- グループ副テーマの詳細については、別途通知する。

3.4 インターンシップ

- (1) 企業等における高度なインターンシップを行う。なお、単位認定を伴うインターンシップは、一つの企

業等でおおむね2週間以上実施するものとし、複数の企業等の合計で2週間以上とすることは認められないので、注意すること。

- (2) インターンシップによる単位修得を希望する学生は、主指導教員と相談の上、インターンシップ開始月の1か月前までに「インターンシップ単位修得申請書」を教務係に提出し、インターンシップ指導教員を決定する。また、あらかじめ学生・留学生支援課就職支援係にて所定の手続きを行うこと。なお、期限を過ぎて申請した場合や手続きに不備がある場合は、インターンシップによる単位修得が認められないので、注意すること。
- (3) インターンシップは、学位申請時まで（博士研究計画調査選択者は博士論文研究基礎力審査時まで）に単位認定を受けている必要があるため、学位申請の1か月前まで（博士研究計画調査選択者は博士論文研究基礎力審査の1か月前まで）には終了し、成果報告書をインターンシップ指導教員及び教務係に提出すること。

3. 5 博士論文研究基礎力審査

博士研究計画調査を選択した学生は、博士後期課程での博士研究の計画とそれに備えた調査を行い、博士論文研究基礎力審査（以下、基礎力審査とする。）を受けなければならない。また、博士前期課程及び博士後期課程の5年間の一貫した教育を行うことで、各分野の基礎力に裏付けられたより高度な博士としての研究能力を遂行できることを目指す「高度人材養成システム」の学生とする。以下に、基礎力審査の手続きの概要を記す。

(1) 博士論文研究基礎力予備審査及び博士後期課程学内進学者選考試験

主指導教員の承認を得た上で、博士論文研究基礎力審査願を教務係に提出し、基礎力審査までに博士論文研究基礎力予備審査（以下、基礎力予備審査とする。）を受ける。併せて、博士後期課程学内進学者選考試験を受ける必要があるため、所定の期間に出願することが必要である。博士後期課程学内進学者選考試験の詳細は、本学ホームページ（教育→学内進学（学内専用））で確認すること。

(2) 博士研究基礎力審査とその要件

基礎力予備審査を受けた者は、毎年4月と10月に実施する基礎力審査を受けなければならない（4月入学者の場合は入学翌年の10月）。基礎力審査を受ける者は、主指導教員の下承を得た上で、本学が指定する日に「博士研究調査報告書」を教務係に提出した後、主指導教員を含む審査委員に配付しなければならない。なお、審査委員については、審査会日程と併せて別途通知する。

基礎力審査は、博士研究を行うための基礎力及び英語力等の審査を行うこととし、専門的知識・能力に関する筆記試験（非公開）及び博士論文研究を行う分野に係る研究の背景や異議、展望に関する認識や、課題を設定し研究を推進する能力等に関する調査報告・口頭試問（公開）の2段階から構成する。

基礎力審査までに、S203「科学技術博士研究計画調査」以外の修了に必要な単位（32単位以上）を修得しておくこと及び博士研究計画調査報告書を主指導教員及び教務係に提出していることが必要である。

なお、基礎力審査に合格した後、やむを得ない理由により博士後期課程へ学内進学しないこととした者は、Mプログラムに変更する。

また、基礎力審査に不合格となった場合は、以下のいずれかを選択する。

A. 1回目の審査から半年後に再び基礎力審査（2回目）を受ける。

この場合、博士前期課程を標準修業年限の2年で修了できないため、5DプログラムからMプログラムに変更する。

B. 博士研究計画調査から課題研究に変更し修了を目指す。

4月入学者の場合は、2月に行われる課題研究報告書の発表及び審査に合格すれば、博士前期課程を2年で修了し、博士後期課程へ学内進学することも可能である。この場合、5Dプログラムとして進学する。

(3) 博士研究計画調査から修士論文研究・課題研究への変更

基礎力審査を断念し、博士前期課程を標準修業年限の2年で修了することを希望する場合は、以下のいずれかの時期に応じて修士論文研究又は課題研究へ変更することが可能である。

A. 研究計画提案書提出前（4月入学者の場合、入学翌年の3月まで）

博士研究計画調査から修士論文研究又は課題研究に変更可能。どちらかを選択し、研究計画提案書を所定の時期に提出する。

B. 研究計画提案書提出後、基礎力審査前（4月入学者の場合入学翌年の10月まで）

博士研究計画調査から課題研究に変更可能。

C. 基礎力審査不合格時

博士研究計画調査から課題研究に変更可能。

B又はCを希望する者は、教務係にて必要な手続きを確認すること。なお、修士論文研究又は課題研究に変更した場合でも、標準修業年限内に博士前期課程を修了した場合、5Dプログラムとして博士後期課程への学内進学は可能である。

3. 6 博士前期課程の学位取得に至るスケジュール

以下は、4月に入学し、2年間で課程を修了する場合の標準的なスケジュールである。10月入学者はこれに準じ、6か月遅れのスケジュールで理解されたい。下記は主な事項のみを記してあるため、下記以外の事項及び具体的な日程については、本履修案内や学内通知等で確認すること。

○ 修士論文研究、課題研究選択者

月	1 年次	2 年次
4 月	・ 研究室導入配属（仮配属） ・ 人間力イノベーション論、創出力イノベーション論の履修 ※ 1 の 1 期又は I 期	
5 月		
6 月	・ 研究室配属希望調査 ※ 取得を目指す学位も同時に届出 ・ 研究室展開配属（本配属） ・ 教育プログラム（Ma、5 D）選択希望調査 ※ 石川学生のみ	
7 月	・ 副指導教員の決定 ・ 教育プログラム（Ma、5 D）の決定 ※ 石川学生のみ ・ 副テーマ配属希望調査	
8 月		
9 月		・ 修士論文等中間発表会
10 月	・ 副テーマ指導教員の決定 ・ 副テーマ研究の開始（12月初旬頃まで） ※ 学位申請時までに単位認定（2年次の12月末までには副テーマ終了の成果物を提出）	
11 月		
12 月		
1 月		・ 学位申請書等提出
2 月		・ 修士論文、課題研究報告書提出 ・ 修士論文審査、課題研究報告書審査
3 月	・ 研究計画提案書提出	・ 学位記授与

【各修了時期に合わせた主なスケジュール】

	3 月修了	6 月修了	9 月修了	12 月修了
研究計画提案書提出	前年の 3 月末まで	前年の 6 月末まで	前年の 9 月末まで	前年の 12 月末まで
副テーマ研究又は インターンシップ	学位申請時までに単位認定 (学位申請の 1 か月前までには副テーマ終了の成果物を提出)			
学位申請書等提出	2 年次の 1 月下旬	2 年次の 4 月下旬	2 年次の 6 月下旬	2 年次の 10 月下旬
修士論文提出 課題研究報告書提出	2 月上旬	5 月上旬	8 月上旬	11 月上旬
修士論文審査 課題研究報告書審査	2 月	5 月	8 月	11 月
学位記授与	3 月	6 月	9 月	12 月

注) SD プログラム学生の修了時期は 9 月のみであり、3 月、6 月は短期修了の場合となる。

○ 博士研究計画調査選択者

月	1 年次	2 年次
4 月	・ 研究室導入配属（仮配属） ・ 人間力イノベーション論、創出力イノベーション論の履修 ※ 1 の 1 期又は I 期	
5 月		
6 月	・ 研究室配属希望調査 ※ 取得を目指す学位も同時に届出 ・ 研究室展開配属（本配属） ・ 教育プログラム（Ma、5 D）選択希望調査 ※ 石川学生のみ（5 Dを選択） ※ 博士研究計画調査の選択を届出	
7 月	・ 副指導教員の決定 ・ 教育プログラム（Ma、5 D）の決定 ※ 石川学生のみ（5 Dを決定） ・ 副テーマ配属希望調査	・ 博士論文研究基礎力審査願の提出 ・ 博士後期課程学内進学者選考試験の出願
8 月		・ 博士論文研究基礎力予備審査 ・ 博士後期課程学内進学者選考試験
9 月		
10 月	・ 副テーマ指導教員の決定 ・ 副テーマ研究の開始（12 月初旬頃まで） ※ 博士論文研究基礎力審査時までには単位認定（2 年次の 8 月末までには副テーマ終了の成果物を提出）	・ 博士研究計画調査報告書提出 ・ 博士論文研究基礎力審査
11 月		
12 月		
1 月		・ 学位申請書等提出
2 月		
3 月	・ 研究計画提案書提出	・ 学位記授与

【各修了時期に合わせた主なスケジュール】

	3 月修了	9 月修了
研究計画提案書提出	前年の 3 月末まで	前年の 9 月末まで
副テーマ研究又は インターンシップ	博士論文研究基礎力審査時までには単位認定 (博士論文研究基礎力審査の 1 か月前までには副テーマ終了の成果物を提出)	
博士論文研究基礎力予備審査	博士後期課程学内進学者選考試験と併せて受審	
博士研究計画調査報告書提出	10 月上旬	4 月上旬
博士論文研究基礎力審査	10 月	4 月
学位申請書等提出	1 月下旬	6 月下旬
学位記授与	3 月	9 月

注) SD プログラム学生の修了時期は 9 月のみである。

4 博士後期課程での研究指導

以下、特記しない限りは石川キャンパス、東京社会人コース、各教育プログラムの共通の事項を記す。

4. 1 展開配属

5 D及びSDプログラム学生については、原則として博士前期課程での所属研究室に展開配属（本配属）する。3 Dプログラムにおいては、入学・進学前に主指導予定教員との十分な相談を前提とした上で、入学時に希望研究室に展開配属する。なお、入学月と同月に副指導教員を決定する。

展開配属後に、何らかの理由により他の研究室への異動を希望する場合は、教務係まで申し出ること。

4. 2 主テーマ研究

(1) 主指導教員と相談の上、博士論文研究についての「研究計画書」を次項の提出期限までに教務係に提出する。

(2) 研究計画書の提出期限

以下に、各教育プログラムごとの提出期限を記す。

3 D・5 D：博士後期課程入学（進学）後1年以内。

SD：博士後期課程入学（進学）後6か月以内。

なお、長期履修制度を利用している学生は上記の提出期限に縛られないが、期間内に修了するためにも、なるべく早く研究計画書を提出することが望ましい。

(3) 研究計画書の提出要件

研究計画の内容が十分であること。

(4) 研究開始時期

3名の指導教員の審査に基づいて研究計画書の受理の可否が決定され、受理された時点を研究開始時期とする。

(5) 学位論文の骨子

学位論文の骨子を3名の指導教員の承認を経て、学位申請の6か月前までに教務係に提出する。

(6) 短期修了

短期修了を希望する場合は、主指導教員と相談の上で、学位論文の骨子の提出を早め、短期修了希望の旨を主指導教員を通じて研究科長に申し出ること。

(7) 注意事項

- ・ 研究計画書の提出にあたっては、副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員が決定していなければならないので注意すること。
- ・ 3 Dプログラム学生で研究テーマが入学前から決まっていない場合、研究計画書を書くためには研究テーマに関する先行研究のレビューが必要なので、主指導教員と相談しながら、できるだけ早く研究テーマを選定し、講義を履修し単位を揃えながら、関連する文献を収集して読み進めて欲しい。
- ・ 石川キャンパス学生は、自身の研究テーマについて1年次の中旬に中間発表会にて発表を行い、評価を受ける。詳細については、別途通知する。

4. 3 副テーマ研究

(1) 研究開始時期

希望する副テーマの指導教員と研究テーマについて合意し、副テーマ指導教員を引き受けてもらい、4月入学者は1年次の2月末まで（SDプログラム学生は1年次の8月末まで）に副テーマの題目を教務係に届け出、副テーマ指導教員を決定する。副テーマ研究は副テーマ指導教員の決定後、なるべく早く開始する。10月入学者は原則として6か月遅れのスケジュールで実施する。

(2) 研究期間

標準的な研究期間は6か月とする。副テーマ研究は、予備審査会までに単位認定を受けている必要があるため、予備審査願の提出時までには副テーマ終了の成果物を副テーマ指導教員及び教務係に提出すること。

(3) 注意事項

- ・ 副テーマ研究は単なるレポートに留めることなく、積極的に学会発表し、査読付き学術誌に投稿して、研究実績を挙げることが望ましい。
- ・ 副テーマ研究をグループワークで行い、グループや個人として指導を受けることもできる（グループ副テーマ）。その場合は以下のケースがある。

＊ 学生が同じ関心を持つグループメンバーを集めた上で、副テーマ指導教員を決める。

＊ 教員がグループワークで行う副テーマを提案し、グループメンバーを集める。

グループワークでの副テーマ研究でも、副テーマ研究の単位は、メンバー一人一人が書く論文を副テーマ指導教員が評価した後に与えられる。さらにグループ全体の論文を要求される場合がある。

グループ副テーマの詳細については、別途通知する。

4. 4 インターンシップ

(1) 企業等における高度なインターンシップを行う（おおむね合計3か月以上）。

(2) インターンシップによる単位修得を希望する学生は、主指導教員と相談の上、4月入学者は1年次の2月末まで（SDプログラム学生は1年次の8月末まで）に「インターンシップ計画提案書」を教務係に提出し、インターンシップ指導教員を決定する。また、あらかじめ学生・留学生支援課就職支援係にて所定の手続きを行うこと。なお、期限を過ぎて申請した場合や手続きに不備がある場合は、インターンシップによる単位修得が認められないので、注意すること。10月入学者は原則として6か月遅れのスケジュールで実施する。

(3) インターンシップは、予備審査会までに単位認定を受けている必要があるため、予備審査願の提出時までには終了し、成果報告書をインターンシップ指導教員及び教務係に提出すること。

4. 5 博士後期課程の学位授与に至るスケジュール

以下は、4月に入学し、3年間で課程を修了する場合の標準的なスケジュールである。10月入学者はこれに準じ、6か月遅れのスケジュールで理解されたい。下記は主な事項のみを記してあるため、下記以外の事項及び具体的な日程については、本履修案内や学内通知等で確認すること。

月	1 年次	2 年次	3 年次
4 月	・研究室展開配属（本配属） ・副指導教員の決定 ・人間力・創出カイノベーション論の履修 ※ 1 の 1 期又は I 期		
5 月	【以降、1 年次の 2 月末までに副テーマ指導教員の決定及び副テーマ研究の開始】 ※ 副テーマ研究は予備審査会までに単位認定（予備審査願の提出時までには副テーマ終了の成果物を提出）		
6 月			
7 月			・学位論文の骨子の提出
8 月			
9 月	・中間発表会		
10 月			・予備審査願の提出
11 月			
12 月			・予備審査
1 月			・学位申請書等提出 ・博士論文提出
2 月			・公聴会、本審査及び最終試験
3 月	・研究計画書提出		・学位記授与

【各修了時期に合わせた主なスケジュール】

	3 月修了	6 月修了	9 月修了	12 月修了
研究計画書提出	入学（進学）後 1 年以内（SD プログラム学生は 6 か月以内）			
学位論文の骨子提出	3 年次の 7 月上旬	3 年次の 10 月上旬	3 年次の 1 月上旬	3 年次の 4 月上旬
副テーマ研究又は インターンシップ	予備審査会までに単位認定 （予備審査願の提出時までには副テーマ終了の成果物を提出）			
予備審査出願	10 月上旬	1 月上旬	4 月上旬	7 月上旬
予備審査	12 月	3 月	6 月	9 月
学位申請書等提出 博士論文提出	1 月上旬	4 月上旬	7 月上旬	10 月上旬
公聴会、本審査・最終試験	2 月	5 月	8 月	11 月
学位記授与	3 月	6 月	9 月	12 月

注）SD プログラム学生の修了時期は 3 月のみであり、6 月、9 月、12 月は短期修了の場合となる。

5 他大学院等での研究指導

(1) 他大学院等での主テーマ研究指導

主指導教員の指導の下で、他大学院等で主テーマ研究の一部を実施することは妨げない。

(2) 他大学院等での副テーマ研究指導

研究科長が研究分野の人材育成に相乗的効果があると認めた場合は、本学の教員を副テーマ指導教員とした上で、他大学院等で研究指導を受けながら副テーマ研究を実施することができる。

(3) 研究期間

他大学院等での研究指導期間は、博士前期課程にあつては1年、博士後期課程にあつては1年6か月を超えない範囲とする。

(4) 手続

他大学院等の学外での研究指導を希望する場合は、主指導教員等を通じて、指導開始2か月以上前に「学外機関への指導委託申請書」を教務係に提出しなければならない。

なお、SDプログラム学生は、国内外の大学・研究機関・企業等における研究活動又は国内外の企業等における研修活動を必須とする。

VIII 学位授与に関する事項

学位授与は、3月、6月、9月、12月の本学が定める日に行う。

1 博士前期課程の学位審査

審査及び最終試験等に関する諸手続き等については、「学位規則」「修士の学位の授与に係る審査に関する細則」その他申合せ等による。

なお、取得を目指す学位については、展開配属の配属希望調査に併せて希望を確認する。展開配属後に取得を目指す学位に変更が生じた場合は、原則として1年次の3月までに提出する研究計画提案書の提出までに申し出ることにより、変更を認める。

1. 1 学位申請

修士論文研究又は課題研究を選択する者のうち、「必修A科目」を除く博士前期課程の修了要件を満たす見込みが付き、学位の授与を申請する者は、修士学位申請要項を熟読し、指導教員の下承を得た上で、学位申請書及び必要な書類を教務係に提出しなければならない。なお、博士研究計画調査を選択する者は、博士論文研究基礎力審査及び博士後期課程学内進学者選考試験に合格した後、学位の授与を申請する。

学位申請書の提出時期は、修了予定月の2か月前、9月修了希望者のみ3か月前の本学が指定する日までとする。

1. 2 修士論文又は課題研究報告書の提出

修士論文研究又は課題研究を選択する学位申請者は、主指導教員の承認を得た上で、本学が指定する日に修士論文又は課題研究報告書を教務係に提出したのち、主指導教員を含む審査委員に配付しなければならない。なお、審査委員については論文発表会日程と併せて別途通知する。学位申請者は、論文発表会（公開）で発表を行った後、論文審査及び最終試験（非公開）を受ける。

博士研究計画調査を選択する学位申請者は、別途Ⅶ－3. 5及び学内通知等で確認すること。

1. 3 学位の授与

学位授与の可否は学位審査委員会で審議し、学長が決定する。学位授与決定者は、証明書自動発行機横の掲示板（東京社会人コース学生は電子メール通知）にて公表する。

2 博士後期課程の学位審査

審査及び最終試験等に関する諸手続き等については、「学位規則」「博士の学位の授与に係る審査に関する細則」その他申合せ等による。

なお、取得を目指す学位については、入学時に希望を確認する。入学後に取得を目指す学位に変更が生じた場合は、原則として1年次の3月までに提出する研究計画書の提出までに申し出ることにより、変更を認める。

2. 1 学位論文の骨子

学位論文の骨子を学位申請の6か月前までに、3名の指導教員の承認を得た上で、教務係に提出すること。

短期修了を希望する場合は、主指導教員と相談の上、学位論文の骨子を提出する時期を早め、短期修了希望の旨を、主指導教員を通じて研究科長に申し出ること。

2. 2 予備審査

「必修A科目」以外の必要単位を修得した者は、学位申請の3か月前までに主指導教員の承認を得た上で、

博士学位論文予備審査願を教務係に提出する。この願い出に基づき、予備審査会開催手続きを主指導教員が行う。学生は、予備審査会開催の2週間前までに、博士学位論文を各審査委員候補に配付しなければならない。なお、審査委員候補については予備審査会日程と併せて別途通知する。

2. 3 学位申請及び学位の授与

予備審査に合格した者は、博士学位申請要項を熟読し、3名の指導教員の承認を得た上で、所定の期日までに学位申請書、博士学位論文及び必要な書類を教務係に提出する。学位申請者は、公聴会（公開）にて発表を行った後、論文審査及び最終試験（非公開）からなる審査会にて審査を受ける。なお、審査委員については公聴会日程と併せて別途通知する。

学位授与の可否は学位審査委員会で審議し、学長が決定する。学位授与決定者は、証明書自動発行機横の掲示板（東京社会人コース学生は電子メール通知）にて公表する。なお、学位授与決定者は、博士学位申請要項を確認の上、学位授与までに必要な手続きを行わなければならない。

Ⅸ グローバルコミュニケーションセンター教育・研修プログラム

1 グローバルコミュニケーションセンターの概要

我が国の存立基盤はこれまで以上にグローバル環境に依存するようになってきている。企業活動の主戦場は海外に展開しており、大学院教育においても、先端科学技術研究者、高度専門技術者の育成にとどまらず、俯瞰的な視野を持ち、国際的な場でリーダーシップを発揮できる人材の育成が強く求められている。そのために高い実用的なコミュニケーション能力を身につけることは必須である。グローバルコミュニケーションセンターでは、全学生の英語によるコミュニケーション能力と留学生の日本語能力の向上を目的とした、異なる言語運用能力を持つ学生のニーズに焦点を当てた独自の教育・研修プログラムを提供して、修了生のグローバルな舞台での活躍を促進する。

言語能力の基準テストに関しては、言語能力の向上の測定の一つの指標として捉え、英語においては全ての学生が、修了までに TOEIC スコア 600 点超を達成することを目標とする。また、TOEIC のスコアに基づいて英語クラスの履修科目が準備されており、例えば、スコア 499 点以下の学生は Interaction Seminar (E011、E021) を、スコア 500 点以上 599 点以下の学生は、テクニカル英語導入 (E111～E113) を履修することが望ましいとしている。日本での就職等、日本語を必要とする留学生については、J F 日本語教育スタンダードの B 1 (自立した言語使用者) レベルの達成を目標とする。

2 グローバルコミュニケーションセンター教育プログラム

グローバル社会で活躍するためには、テクニカルコミュニケーションスキルが不可欠である。そのようなスキル開発の一環として、グローバルコミュニケーションセンターでは、基礎レベルから上級レベルまで体系的なテクニカルイングリッシュコミュニケーション教育プログラム (Exxx の科目群) とテクニカル日本語教育プログラム (Jxxx の科目群)、そしてそれらの言語教育を補完するために、異文化理解のための科目 (Gxxx の科目群) を提供する。

テクニカルイングリッシュコミュニケーション教育プログラムは、基礎英語から科学技術分野でのテクニカルコミュニケーションのためのスキルの修得にいたるまで、入門から発展の 4 段階 12 科目を提供する。テクニカル日本語教育プログラムは留学生を対象として、日本語入門から科学技術やビジネス分野でのコミュニケーションのための日本語スキルの修得に至るまで、入門から発展の 4 段階 9 科目を提供する。

グローバルコミュニケーションセンターでは、修得した外国語を活用してグローバルな舞台で活躍するための意識と知識、さらにグローバルリーダーとしての資質の向上の為に、英語で学ぶコンテンツ科目として、協働形成グローバルコミュニケーション、日本事情、Diversity Studies の 3 科目を提供し、日本語で学ぶ科目として言語表現技術を提供している。

各授業科目の詳細は「授業科目・授業時間割」の章及びシラバスにて確認すること。

なお、テクニカルイングリッシュコミュニケーション教育プログラム及びテクニカル日本語教育プログラムでは、能力に応じたクラスを履修することを原則とする。

また、演習形式による以下の科目を提供する。

2. 1 実践英語特別演習

TOEIC スコア 600 点未満の学生を対象として、夏期及び冬期に 3 日間の集中講義形式で実施する。計 24 時間にわたる英語による討論、発表、会話を通して、英語学修に対する興味と積極的な態度を確立する。

2. 2 実践日本語特別演習

日本語能力試験で N1 又は N2 レベルの留学生を対象として、夏期に 3 日間の集中講義形式で実施する。計 24 時間にわたる日本語による討論、発表、会話を通して、卒業後の日本企業への就職に備える日本語能力を身

につける。

2. 3 グローバル・リーダーシップ養成演習

グローバルに活躍できる知的にたくましい人材育成への寄与を目的に、インド等海外での学修を希望する学生を対象として、ワークショップ形式で実施する。年間を通して、週1回5時間終了後に英語による集中討論訓練を行う。年間40回受講することとし、1年間で終了する。

3 グローバルコミュニケーションセンター研修プログラム

3. 1 TOEIC IP テスト

学生自身が英語学修の達成度を把握するため、TOEIC IP テストを実施する。

石川キャンパスの学生については、4月入学者は入学時と翌年度10月に、10月入学者は入学時と翌々年度4月に必ず受験すること。上記以外の時期の入学者は、4月か10月のいずれか入学月に近い月に一回目を受験し、その18か月後に二回目を受験すること。また、就職等のため個人の学修達成度を把握するために受験を希望する学生は、8月と2月に受験することができる。

なお、本学は、全ての学生が修了までにTOEICスコア600点超えの達成を目標としているため、入学から18か月後のテストで当該点数に達しなかった学生は、同テストの直後のテストを原則として受験すること。

また、東京社会人コースの学生は、東京サテライトで実施するテストをいつでも受験することができる。

石川キャンパス 2019 年度実施日程		
第1回 TOEIC IP*	2019 年 4 月（オリエンテーション期間内）	
第2回 TOEIC IP	2019 年 8 月 9 日（金）	15：30～18：00
第3回 TOEIC IP*	2019 年 10 月（オリエンテーション期間内）	
第4回 TOEIC IP	2020 年 2 月 21 日（金）	15：30～18：00
東京サテライト平成 30 年度実施日程		
第1回 TOEIC IP	2019 年 8 月 4 日（日）	13：30～16：00
第2回 TOEIC IP	2020 年 3 月 8 日（日）	13：30～16：00

* 4月及び10月のTOEIC IP テストは対象者を限定しているので注意すること。

3. 2 TOEIC 対策ワークショップ

石川キャンパスで年4回行われる TOEIC IP テストの事前準備として、年4～8回 TOEIC 対策ワークショップを実施する。また、おおむね1か月以上の中・長期海外派遣事業に参加する学生については、TOEIC スコア730点を目標基準としているため、それに達しない学生は本ワークショップ等に参加することを推奨する。

3. 3 JLPT（日本語能力試験）対策ワークショップ

7月と12月に行われる JLPT の事前準備として、年2回 JLPT 対策ワークショップを実施する。

X 各種制度

1 長期履修制度

本制度は職務の都合等により大学での学修時間が制限され、標準修業年限での修了が困難である者に対し、標準修業年限を超えて一定期間にわたり計画的に履修することを認めるものである。

本制度の利用を希望する者は本学ホームページ（教育→教務に関する各種制度→長期履修制度）で詳細を確認した上で、所定の期日までに申請すること。

2 学内進学

本学の博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学することを希望する者は、別に定める博士後期課程学内進学者選考試験学生募集要項又は本学ホームページ（教育→学内進学（学内専用））で詳細を確認し、所定の期間に出願すること。

3 教育訓練給付制度（一般教育訓練給付）

本制度は、厚生労働大臣が指定する教育訓練講座を受講し修了した場合、本人がその教育訓練施設に支払った経費の一部を支給する雇用保険の給付制度である。本学の一般教育訓練指定講座及び詳細は、本学ホームページ（教育→教務に関する各種制度→教育訓練給付制度（一般教育訓練給付））で確認すること。給付に関する手続きは、東京社会人コースでの修了が確定した者のうち該当者に別途通知する。

授 業 科 目 ・ 授 業 時 間 割

授業科目・授業時間割

1 授業科目・授業時間割の概要

石川キャンパスでは、一つの科目を同一年度内に日本語と英語でそれぞれ1回ずつ開講することもある。東京社会人コースでは、既に研究やビジネスの最前線に立つ社会人を対象とした専門教育のための科目を開講しており、主に日本語で開講される。

本学は授業科目のナンバリング制を採用しており、各授業科目に科目番号を付している。科目番号の頭文字の記号は、Kが知識科学系科目、Iが情報科学系科目、Mがマテリアルサイエンス系科目とし、それ以外の記号はその他の授業科目群とする。なお、英語で実施する講義は科目番号の後ろにEを付して、授業時間割及びシラバスに示す（K・I・MxxxE）。また、N・E・J・G・Lxxxの科目群は東京社会人コースでは開講しない。

1. 1 授業科目

2及び4では、履修規則に基づき、本学で開講する授業科目、使用言語、開講時期及び担当者等を示す。必修科目以外の各授業科目の単位数は、2単位以外のものを備考欄に示す。各授業科目の内容はシラバスにて確認すること。

(1) 授業科目の表の「使用言語」欄の記号（J、E、EJ）は、講義で主に使用する言語を表す。Jは日本語、Eは英語、EJは英日併用で行われる講義を意味する。また、「担当者欄」における「、」は別クラス、「・」はリレー講義である。担当者については、研究者総覧（本学ホームページ→研究→研究者総覧）等を参照すること。

(2) 授業科目の表の「学位（修士）」、「学位（博士）」欄は、取得を目指す学位（知識：知識科学、情報：情報科学、マテ：マテリアルサイエンス）により授業科目に対応する科目区分である。各科目区分の略称は以下のとおりである。詳細は、「Ⅵ-2 授業科目の体系と区分」で確認すること。

- | | |
|------------|------------|
| ・「自由」：自由科目 | ・「基幹」：基幹科目 |
| ・「学術」：学術科目 | ・「展開」：展開科目 |
| ・「広域」：広域科目 | ・「発展」：発展科目 |
| ・「導入」：導入科目 | ・「先端」：先端科目 |

(例) 「I211 数理論理学」の単位を修得した場合の、各学生の科目区分の扱い

- ・知識科学の学位取得を目指す博士前期課程学生：「展開科目」として認定
- ・情報科学の学位取得を目指す博士前期課程学生：「基幹科目」として認定
- ・マテリアルサイエンスの学位取得を目指す博士前期課程学生：「広域科目」として認定
- ・知識科学の学位取得を目指す博士後期課程学生：「発展科目」として認定
- ・情報科学の学位取得を目指す博士後期課程学生：「発展科目」として認定
- ・マテリアルサイエンスの学位取得を目指す博士後期課程学生：「自由科目」として認定

(3) 東京サテライト開講科目における、知識科学系科目の講義表における分野欄の「技術」は「技術経営中核講義」、「サービス」は「サービス経営中核講義」、「知識」は「知識科学中核講義」、「一般」は「技術経営・知識科学一般講義」を示す。

1. 2 授業時間割

石川キャンパスでは、集中講義、変則時間割授業を除き、各科目は週2回開講する。K・I・Mxxxの科目群は午前（1～2時限）及び火・木曜日の4時限に開講し、3時限は当日1時限の授業のチュートリアルアワー（授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間帯又は補習、補講等に充てる時間帯）とする。火・木曜日の4時限に開講するK・I・Mxxxの科目群はチュートリアルアワーがないので注意すること。午後（4～

5時限)はその他の科目群を開講する。また、各期の授業期間終了後に、定期試験の期間を設ける。集中講義については、原則として各授業の終了後に定期試験を実施する。なお、各科目の実施場所を記載した授業時間割は、証明書自動発行機横の掲示板及び本学ホームページ(教育→履修関係→授業時間割)にて公開するので、各授業期間開始前に必ず確認すること。

東京サテライトでは、各科目は平日夜間及び土日(祝日含む)に開講する。原則として以下の講義形式を取り、チュートリアルアワーは設けない。また、原則として各授業の終了後に定期試験を実施する。なお、各科目の実施場所は、本学ホームページ(教育→履修関係→授業時間割)又は講義室前の案内板にて確認すること。

知識科学系の講義：主に月曜日から土曜日までの1週間の集中講義形式で行う。

情報科学系の講義：週末(金曜夜～日曜)に、毎週4講義(約1か月)、隔週4講義又は毎週2講義(約2か月)若しくは週末に8講義(集中講義)で行う。

2 平成31年度授業科目（石川キャンパス）

2.1 必修科目（Sxxx科目（石川））

○ 博士前期課程科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備 考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
必修A科目												
S201	基幹	基幹	基幹				科学技術研究論文				主指導教員	8単位 選択必修
S202	基幹	基幹	基幹				科学技術課題研究				主指導教員	2単位 選択必修
S203	基幹	基幹	基幹				科学技術博士研究計画調査				主指導教員	2単位 選択必修
必修B科目												
S101	広域	広域	広域				人間力イノベーション論	J E	1の1	2の1	神田ほか	1単位 必修
S102	導入	導入	導入				創出力イノベーション論	J E	1の1	2の1	神田ほか	1単位 必修
S401	展開	展開	展開				科学技術副テーマ研究				副テーマ指導教員	2単位 選択必修
S402	展開	展開	展開				科学技術インターンシップ				インターンシップ指導教員	2単位 選択必修

（注1）S101及びS102は、同時時間帯に日本語・英語で別々の教室に分かれて開講する。

（注2）S101及びS102は、平成27年度以前の入学者の履修を認めない。

○ 博士後期課程科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備 考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第 1 学期 (4-9月)	第 2 学期 (10-3月)		
必修A科目												
S601				先端	先端	先端	先端科学技術研究論文				主指導教員	6 単位 必修
必修B科目												
S501				発展	発展	発展	先端科学技術副テーマ研究				副テーマ指導教員	2 単位 選択必修
S502				発展	発展	発展	先端科学技術インターンシップ				インターンシップ指導教員	2 単位 選択必修
S503				発展	発展	発展	人間力・創出力イノベーション論	J E	1の1	2の1	神田ほか	1 単位 必修

（注1）S503は、同時時間帯に日本語・英語で別々の教室に分かれて開講する。

（注2）S503は、平成27年度以前の入学者の履修を認めない。

2.2 知識科学系科目（Kxxx科目（石川））

○ K1xx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
K111	導入	広域	広域	自由	自由	自由	経営学概論	J	1の1		白肌	
								E		2の1	Zelaya	
K114	導入	広域	広域	自由	自由	自由	実践的社会調査法	J	1の2		小林	
								E		2の2	Javed	
K121	導入	広域	広域	自由	自由	自由	認知科学概論	J	1の2		日高・鳥居	
K125	導入	広域	広域	自由	自由	自由	ウェブシステム開発入門	J	1の1		高島	

○ K2xx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
K211	基幹	広域	広域	先端	発展	自由	社会科学方法論	J	1の1		敷田・坂村	
								E	1の1		Kim	
K213	基幹	広域	広域	先端	発展	発展	システム科学方法論	J	1の1		中森	
								E		2の2	Huynh	
K214	基幹	広域	広域	先端	発展	自由	知識メディア方法論	J	1の2		由井 菌	
								E		2の2	金井	
K228	基幹	広域	広域	先端	発展	発展	知識科学概論	J	1の1		橋本・Dam	
								E		2の1	Dam・橋本・Huynh	
K229	基幹	広域	広域	先端	発展	自由	イノベーションデザイン論	J	夏期 集中		永井・由井 菌・宮田・藪内	
								E		冬期 集中	永井・由井 菌・宮田・Kim・Zelaya	
K236	基幹	広域	導入	先端	発展	自由	データ分析学基礎	EJ	1の2		Dam	
K238	基幹	広域	広域	先端	発展	自由	実験哲学概論	J	1の1		水本	
								E		2の1		
K240	基幹	広域	広域	先端	発展	自由	経営情報学概論	J	1の2		藤波・平井・近野	

(注1) 平成24年度以前の入学者がK225を修得済の場合、K214の履修を認めない。
(注2) 平成27年度以前の入学者がK230を修得済の場合、K229の履修を認めない。
(注3) 平成29年度以前の入学者がK238を修得した場合、L212として扱う。既にL212を修得済の場合は、履修を認めない。

○ K4xx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
K411	展開	広域	広域	発展	自由	自由	知識経営論	J		2の1	平田・林(透)	
								E		2の2	Zelaya・Kim	
K412	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	知識人類学	J	1の2		伊藤・比嘉	
K413	展開	広域	広域	発展	自由	自由	比較知識制度論	J	夏期集中		永田	隔年開講
K414	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	複雑系解析論	J		2の2	橋本・小林	
K417	基幹	広域	導入	先端	自由	自由	データ分析学	EJ		2の1	Ho(Bao)・Dam	
K421	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	システム思考論	E	※		林(幸)	
								J		2の1		
K427	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	デザイン創造過程論	EJ	※	※	永井・前川	隔年開講
K433	展開	広域	広域	発展	自由	自由	技術経営改革実践論	J		2の1	近藤	
K444	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	デザイン認知論	EJ	夏期集中		永井・前川・松前	隔年開講
K464	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	認知科学	EJ		2の2	藤波・日高・鳥居	
K469	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	知識創造支援メディア論	J	1の1		西本	
K470	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	知識創造論	J	1の1		國藤	
K471	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	メディア創造論	J	1の1		宮田・謝	
K473	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	イノベーション・マネジメント論	J	1の2		内平	
K479	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	サービス経営論	J		2の1	白肌	
K480	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	地域創生論	J	夏期集中		國藤	
K482	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	地域経営戦略論	J	夏期集中		敷田・鈴木(晃)	
K484	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	地域経営のための公共哲学	J	夏期集中		飯田(義)・坂村	
K485	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	地域経営のための公共経済学	J	夏期集中		山本(外)・新	
K487	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	ネットワーク科学論	J	1の1		林(幸)	
K488	基幹	広域	広域	発展	自由	自由	社会システムエンジニアリング方法論	J	※	※	藤波・平井・近野	隔年開講
K492	展開	広域	広域	発展	自由	自由	アントレプレヌールシップとイノベーション	J	夏期集中		姜	

(注1) ※印は、平成31年度非開講を表す。

(注2) 平成30年度以前の入学者がK472を修得済の場合、K469の履修を認めない。

○ K6xx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
K611	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	次世代技術経営特論	E		2の1	神田・Javed	隔年開講
K612	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	次世代知識経営特論	E	※	※	敷田・坂村	隔年開講
K613	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	複合システム特論	E	1の2		Huynh	隔年開講
K619	基幹	広域	展開	先端	自由	発展	データ分析学特論	E	※	※	Ho (Bao) ・Dam	隔年開講
K626	基幹	広域	広域	先端	自由	自由	メディアデザイン特論	E	※	※	西本・宮田・永井・ 金井・宮下・小泉	隔年開講

(注) ※印は、平成31年度非開講を表す。

2.3 情報科学系科目（Ixxx科目（石川））

○ I1xx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
I111	導入	導入	広域	自由	自由	自由	アルゴリズムとデータ構造	J	1の1		池田(心)	
								E		2の1	上原・Viglietta	
I112	自由	自由	自由	自由	自由	自由	計算機システムリテラシー	J	1の1		吉高	
I114	導入	導入	広域	自由	自由	自由	基礎情報数学	J	1の2		横山	
I115	導入	導入	広域	自由	自由	自由	デジタル論理と計算機構成	J	1の1		田中(清)・Chu	
I116	導入	導入	導入	自由	自由	自由	プログラミング基礎	J	1の2		廣川	
I119	導入	導入	導入	自由	自由	自由	データ分析のための情報統計学	J	1の1		赤木	
I120	導入	導入	広域	自由	自由	自由	基礎論理数学	J	1の1		石原・根元	
I121	導入	導入	広域	自由	自由	自由	情報代数	J	1の1		小川	

(注1) 以下、平成27年度以前の入学者で、知識科学研究科の学生が修得した場合の取扱いとし、履修にあたっては他研究科
授業科目の履修申請書の提出は不要とする。
・I115を修得した場合、K123として扱う。既にK123を修得済の場合は、履修を認めない。
・I116を修得した場合、K119として扱う。既にK119を修得済の場合は、履修を認めない。
・I119を修得した場合、K112として扱う。既にK112又はK116を修得済の場合は、履修を認めない。
・I120を修得した場合、K115として扱う。既にK115を修得済の場合は、履修を認めない。
(注2) 平成27年度以前の入学者で、情報科学研究科の学生がI117を修得済の場合、I116の履修を認めない。
(注3) 平成29年度以前の入学者がI216を修得済の場合、I121の履修を認めない。

○ I2xx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
I211	展開	基幹	広域	発展	発展	自由	数理論理学	E	1の1		石原・根元	
								J		2の1	横山	
I212	展開	基幹	広域	発展	発展	発展	情報解析学特論	J	1の1		小谷	
								E		2の1	党	
I213	展開	基幹	広域	発展	発展	発展	離散信号処理特論	J	1の2		浅野	
								E		2の2	Chong	
I214	展開	基幹	広域	発展	発展	自由	システム最適化	J	1の1		金子(峰)・平石	
								E		2の1		
I217	展開	基幹	広域	発展	発展	自由	関数プログラミング	J	1の2		緒方	
								E		2の1	廣川	
I218	展開	基幹	広域	発展	発展	自由	計算機アーキテクチャ特論	E	1の2		井口	
								J		2の2	田中(清)	

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
I219	展開	基幹	広域	発展	発展	自由	ソフトウェア設計論	J	1の2		青木・河井	
								E		2の2	緒方	
I223	展開	基幹	広域	発展	発展	自由	自然言語処理論 I	E	1の2		Nguyen	
								J		2の1	白井	
I225	展開	基幹	広域	発展	発展	発展	統計的信号処理特論	E	1の1		田中(宏)	
								J		2の1	鶴木	
I226	展開	基幹	広域	発展	発展	自由	コンピュータネットワーク特論	J	1の2		丹	
								E		2の2	リム	
I232	展開	基幹	広域	発展	発展	発展	情報理論	J	1の2		松本・Kurkoski	
								E		2の2		
I233	展開	基幹	広域	発展	発展	自由	オペレーティングシステム特論	J	1の1		篠田	
								E		2の1	Beuran	
I235	展開	基幹	広域	発展	発展	自由	ゲーム情報学特論	J	1の1		池田(心)・飯田	
								E		2の1	飯田・Khalid	
I237	展開	基幹	広域	発展	発展	自由	形式言語とオートマトン	J	1の1		東条	
								E		2の1	小川	
I238	展開	基幹	広域	発展	発展	自由	計算論	J	1の1		上原	
								E		2の2	石原	
I239	展開	基幹	広域	発展	発展	自由	機械学習	J	1の2		岡田(将)・長谷川	
								E		2の2	Nguyen	
I240	展開	基幹	広域	発展	発展	自由	暗号理論	J		2の1	藤崎	

(注1) 平成24年度以前の入学者がI215を修得済の場合、I235の履修を認めない。

(注2) 平成29年度以前の入学者がI118を修得済の場合、I237の履修を認めない。

(注3) 平成29年度以前の入学者がI216を修得済の場合、I238の履修を認めない。

○ I4xx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
I411	展開	展開	広域	自由	先端	自由	認識処理工学特論	J	※	※	小谷	隔年開講
I413	展開	展開	広域	自由	先端	自由	理論計算機科学	J		2の2	石原	隔年開講
I416	展開	展開	広域	自由	先端	自由	並列処理	J	※	※	井口	隔年開講
I419	展開	展開	広域	自由	先端	自由	画像情報処理特論	J	1の2		吉高	隔年開講
I427	展開	展開	広域	自由	先端	自由	システム制御理論	J		2の1	浅野	隔年開講
I432	展開	展開	広域	自由	先端	自由	離散状態システムの理論	J	※	※	平石	隔年開講

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用 言語	開講時期		担 当 者	備 考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
I437	展開	展開	広域	自由	先端	自由	符号理論	E	※	※	松本・Kurkoski	隔年開講
I438	展開	展開	広域	自由	先端	自由	演習グラフ理論	EJ	1の2		金子(峰)	隔年開講
I439	展開	展開	広域	自由	先端	自由	音声情報処理特論	J	1の2		赤木・党	隔年開講
I440	展開	展開	広域	自由	先端	自由	高機能オペレーティングシステム	J		2の1	田中(清)	隔年開講
I441	展開	展開	広域	自由	先端	自由	高機能コンピュータネットワーク	J	1の2		篠田	隔年開講
I442	展開	展開	広域	自由	先端	自由	システムソフトウェア特論	J	1の2		知念	
I443	展開	展開	広域	自由	先端	自由	ソフトウェア検証論	J	※	※	青木	隔年開講
I448	展開	展開	広域	自由	先端	自由	遠隔教育システム工学	J		2の1	長谷川	隔年開講
I450	展開	展開	広域	自由	先端	自由	ネットワーク設計演習	J		2の2	丹・知念	
I466	展開	展開	広域	自由	先端	自由	国際標準化概論	J		2の1 開始	山口(典)ほか	
I467	展開	展開	広域	自由	先端	自由	プロセッサ設計演習	J	※	※	井口・田中(清)	隔年開講
I468	展開	展開	展開	自由	先端	発展	ダイナミクスのモデリング	J	※	※	前園・本郷	隔年開講
I470	展開	展開	広域	自由	先端	自由	実践的アルゴリズム理論	J	※	※	上原	隔年開講
I471	展開	展開	広域	自由	先端	自由	実践的IoTシステムアーキテクチャ論	J	※	※	鈴木(正)	隔年開講
I472	展開	展開	広域	自由	先端	自由	IoT技術特論	J	※	※	丹	隔年開講 1単位

(注1) ※印は、平成31年度非開講を表す。

(注2) I466は変則時間割で開講するため、詳細は授業時間割で確認すること。

(注3) 平成29年度以前の入学者がI431又はI469を修得済の場合、I470の履修を認めない。

(注4) 平成29年度以前の入学者がI435を修得済の場合、I471の履修を認めない。

○ 高信頼IoT技術者育成プログラム専門科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
プログラム先進科目												
I473	展開	展開	広域	自由	発展	自由	ハード・ソフト・コデザイン	J	夏期集中		若林	
I478	展開	展開	広域	自由	発展	自由	システム開発管理	J	夏期集中		岡田(清)	
プログラム実践科目												
I481	展開	展開	広域	自由	発展	自由	高信頼組込みシステム開発演習	J		2の1	鈴木(正)	
I482	展開	展開	広域	自由	発展	自由	高信頼組込みシステム開発プロセス設計	J		2の2	鈴木(正)・青木	
I483	展開	展開	広域	自由	発展	自由	スマート組込みシステム開発演習	J	1の1		中田	

(注1) 平成25年度以前の入学者がI481を修得した場合、I480として扱う。既にI480を修得済の場合は、履修を認めない。
(注2) 平成25年度以前の入学者がI482を修得した場合、I479として扱う。既にI479を修得済の場合は、履修を認めない。

○ 情報セキュリティプログラム専門科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備 考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第 1 学期 (4-9月)	第 2 学期 (10-3月)		
プログラム先進科目												
I465S	展開	展開	広域	自由	発展	自由	情報セキュリティ運用リテラシー	J		冬期集中	藤崎・金子(峰)	
I486S	展開	展開	広域	自由	発展	自由	暗号プロトコル理論	J	※	※	藤崎	隔年開講
プログラム実践科目												
I466S	展開	展開	広域	自由	発展	自由	最新情報セキュリティ理論と応用	J		2の1開始	宮地・河内	☆

(注1) ※印は、平成31年度非開講を表す。
(注2) ☆は、他大学大学院で開講する科目を本学へ遠隔配信する講義形態により実施する科目である。
(注3) 本科目群は情報セキュリティプログラム履修者を優先するため、プログラム履修者以外の学生は履修できないことがある。
(注4) I465S、I466S、I486Sは変則時間割で開講するため、詳細は授業時間割で確認すること。
(注5) 平成29年度以前の情報セキュリティプログラム履修者は、I486Sを「プログラム実践科目」として扱う。

○ I6xx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第 1 学期 (4-9月)	第 2 学期 (10-3月)		
I615	展開	展開	広域	自由	先端	自由	ロボティクス	E	※	※	Chong	隔年開講
I620	展開	展開	広域	自由	先端	自由	集積回路特論	E	※	※	金子(峰)	隔年開講
I645	展開	展開	広域	自由	先端	自由	知覚情報処理特論	E	※	※	鶴木	隔年開講
I649	展開	展開	広域	自由	先端	自由	先進無線ネットワーク	E	※	※	リム	隔年開講
I655	展開	展開	展開	自由	先端	発展	現代脳計算論	E	1の1		田中(宏)	隔年開講

(注) ※印は、平成31年度非開講を表す。

○ 適宜開講科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第 1 学期 (4-9月)	第 2 学期 (10-3月)		
I456	展開	展開	広域	自由	先端	自由	情報科学演習Ⅰ	J				1 単位
I457	展開	展開	広域	自由	先端	自由	情報科学演習Ⅱ	J				1 単位
I628	展開	展開	広域	自由	先端	自由	情報処理論	E		2の2	上原・緒方・ Siritanawan・河 井・Viglietta	

(注) I456、I457は、招聘する講師によるセミナーによって構成する。参加は自由であるが、このセミナーへの7回の出席及び当該セミナー主催教員へのレポートをもって、1単位を付与する。単位認定申請方法等の詳細は本学ホームページ(教育→セミナー(学内専用))で確認すること。

2.4 マテリアルサイエンス系科目 (Mxxx科目)

○ M1xx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
M111	導入	広域	導入	自由	自由	自由	材料物理概論	J	1の1		堀田	
								E		2の1	水谷	
M112	導入	広域	導入	自由	自由	自由	材料化学概論	J	1の1		谷池・松村	
M113	導入	広域	導入	自由	自由	自由	生物機能概論	J	1の1		高木・下川	

(注1) 平成28年度以前の入学者がM111を修得した場合、M111Aとして扱う。既にM111A又はM111Bを修得済の場合は、M111の履修を認めない。

(注2) 平成29年度の入学者がM111を修得した場合、1の1期履修者はM111A、2の1期履修者はM111Bとして扱う。既にM111A又はM111Bを修得済の場合は、M111の履修を認めない。

○ M2xx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
M211	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	量子力学特論	J	1の2	2の1	岩崎、村田	
M212	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	統計力学特論	J		2の2	小矢野	
M213	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	応用電磁気学特論	J	1の1		富取	
M221	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	有機分子化学特論	J	1の1		松見	
M222	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	物質計算科学特論	J		2の2	谷池・Dam・宮田 (全)	
M223	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	有機材料物性特論	J		2の1	長尾・松見	
M224	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	無機材料化学特論	J	1の2		前之園	
M225	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	機器分析化学特論	J	1の2		篠原	
M231	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	生物有機化学特論	J	1の1	2の1	藤本・芳坂	
M232	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	生物物理化学特論	J	1の2		濱田	
M243	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	固体物理学特論 I	J	1の2		高村(由)	
M245	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	応用物性数学特論	J	1の1	2の1	大平、水田	
M251	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	触媒化学特論	J	1の1		西村	
M254	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	高分子化学特論 I	J	1の2		金子(達)	
M261	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	生体分子機能特論	J		2の1	筒井(秀)	
M262	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	生体材料分析特論	J	1の2		高村(禪)	
M273	展開	基幹	基幹	発展	発展	発展	メカトロニクス	EJ		2の1	Ho (Anh)	
M281	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	固体電子物性・デバイス特論 I	E		2の2	水田・村田・安・Muruganathan	
M282	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	物質デザイン・創出特論	E		2の2	山口(政)・山本(裕)・桶蔭・Enta	
M283	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	バイオ機能・組織化特論	E		2の2	高木・塚原・高村(禪)・大木・下川	

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
M284	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	固体電子物性・デバイス特論Ⅱ	E	1の1		大島・鈴木(寿)・安	
M285	展開	広域	基幹	発展	発展	発展	生命機能工学特論	E	1の1		山口(拓)・濱田・藤本・筒井(秀)・芳坂	

(注) 平成27年度以前の入学者がM281を修得済の場合、M284の履修を認めない。

○ M4xx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
M413	展開	広域	基幹	自由	自由	発展	機能性ナノ材料特論	E		2の1	前之園・長尾・山本(裕)・西村	
M414	展開	広域	展開	自由	自由	発展	デバイス物理特論	J		2の2	徳光	
M415	展開	広域	展開	自由	自由	発展	医用生体材料特論	J		2の2	塚原	
M420	展開	広域	展開	自由	自由	発展	固体物理学特論Ⅱ	J		2の2	赤堀	
M421	展開	広域	展開	自由	自由	発展	エレクトロニクス特論	J		2の1	鈴木(寿)	
M423	展開	広域	展開	自由	自由	発展	機能性蛋白質特論	J	1の2		平塚	
M424	展開	広域	展開	自由	自由	発展	高分子化学特論Ⅱ	J		2の1	山口(政)・松村	
M425	展開	展開	展開	自由	先端	発展	解析力学特論	E	1の2		Ho (Anh)	

(注) 平成27年度以前の入学者がM252を修得済の場合、M424の履修を認めない。

○ M6xx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
M611	展開	広域	展開	自由	自由	先端	固体・表面電子構造特論	E	1の1		富取・水谷・高村(由)・Fleurence	隔年開講
M612	展開	広域	展開	自由	自由	先端	光物性特論	E	※	※	水谷・村田・小矢野	隔年開講
M613	展開	広域	展開	自由	自由	先端	量子現象特論	E	※	※	岩崎・水田・Muruganathan	隔年開講
M614	展開	広域	展開	自由	自由	先端	先端デバイスト論	E		2の1	大平・徳光	隔年開講
M615	展開	広域	展開	自由	自由	先端	先端生体機能特論	E	1の1		高木・高村(禅)	隔年開講
M616	展開	広域	展開	自由	自由	先端	先端生体材料特論	E		2の1 集中	平塚・筒井(秀)・濱田・永井(健)	隔年開講
M617	展開	広域	展開	自由	自由	先端	分子設計特論	E	※	※	金子(達)・桶菰・篠原・山口(政)	隔年開講
M618	展開	広域	展開	自由	自由	先端	材料設計特論	E	1の2 集中		松村・海老谷・Misra	隔年開講
M619	展開	広域	展開	自由	自由	先端	材料形態特論	E	※	※	松見・谷池・Badam・Kabeer	隔年開講
M620	展開	広域	展開	自由	自由	先端	電子機能特論	E	1の2		大島・小矢野・安・Muruganathan	隔年開講
M622	展開	広域	展開	自由	自由	先端	先端生体分子科学特論	E	※	※	大木・山口(拓)	隔年開講

(注) ※印は、平成31年度非開講を表す。

○ 適宜開講科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第 1 学期 (4-9月)	第 2 学期 (10-3月)		
M431	展開	広域	展開	自由	自由	発展	物性評価特論	J	夏期 集中		篠原・山本(裕)・小 田・三浦	
M432	展開	広域	展開	自由	自由	発展	機能評価特論	E	1の2 集中		松村・海老谷・岩本	

2.5 共同教育研究施設授業科目（Nxxx科目）

○ ナノマテリアルテクノロジープログラム専門科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
N001	導入	広域	導入	自由	自由	自由	ナノデバイス加工論（実習付）	J		2の1	赤堀・鈴木(寿)	
N002	導入	広域	導入	自由	自由	自由	ナノバイオテクノロジー論（実習付）	J		2の1	芳坂・渡邊・高村(禪)	
N003	導入	広域	導入	自由	自由	自由	ナノ分子解析論（実習付）	J		2の1	大木・松村・山口(拓)	
N004	導入	広域	導入	自由	自由	自由	ナノ固体解析論（実習付）	J		2の1	前之園・富取	
N005	導入	広域	導入	自由	自由	自由	ナノ材料分析論（実習付）	J		2の1	篠原・金子(達)・山本(裕)・桶菰	

2.6 グローバルコミュニケーションセンター開講科目（E・J・Gxxx科目）

○ Exxx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備 考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
E011							Interaction Seminar 1	E	1の1 1の2	2の1 2の2	Chassen	単位なし
E021							Interaction Seminar 2	E	1の1 1の2	2の1 2の2	Chassen	単位なし
E110	自由	自由	自由	自由	自由	自由	実践英語特別演習	E	夏期 集中	冬期 集中	川西・元山	1 単位
E111	自由	自由	自由	自由	自由	自由	テクニカル英語導入 1	E	1の1 1の2	2の1 2の2	Chassen	
E112	自由	自由	自由	自由	自由	自由	テクニカル英語導入 2	E	1の1 1の2	2の1 2の2	Chassen	
E113	自由	自由	自由	自由	自由	自由	テクニカル英語導入 3	E	1の2	2の2	Holden	
E211	学術	学術	学術	自由	自由	自由	テクニカル英語基礎 1	E	1の2	2の2	Holden	
E212	学術	学術	学術	自由	自由	自由	テクニカル英語基礎 2	E	1の1	2の1	Holden	
E213	学術	学術	学術	自由	自由	自由	サイエンティフィック・ディスカッション 1	E	1の2	2の2	Preining	
E411	学術	学術	学術	自由	自由	自由	テクニカル英語発展 1	E	1の1	2の1	Holden	
E412	学術	学術	学術	自由	自由	自由	テクニカル英語発展 2	E	※	※	未定	
E413	展開	学術	学術	発展	自由	自由	サイエンティフィック・ディスカッション 2	E	1の1	2の1	Preining	
E422	学術	学術	学術	自由	自由	自由	実践英語演習	E				適宜開講 1 単位

(注) ※印は、平成31年度非開講を表す。

○ Jxxx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備 考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
J001							日本語ピアラーニングワークショップ	J	1の2	2の1	本田	単位なし
J011							テクニカル日本語入門 1	J	1の1	2の1	筒井(昌)	単位なし
J012							テクニカル日本語入門 2	J	1の2	2の2	筒井(昌)	単位なし
J110	自由	自由	自由	自由	自由	自由	実践日本語特別演習	J	夏期 集中		川西・元山	1 単位
J111	自由	自由	自由	自由	自由	自由	テクニカル日本語導入 1	J	1の1	2の1	山口(実)	
J112	自由	自由	自由	自由	自由	自由	テクニカル日本語導入 2	J	1の2	2の2	山口(実)	
J211	学術	学術	学術	自由	自由	自由	テクニカル日本語基礎 1	J	1の1	2の1	堀口	
J212	学術	学術	学術	自由	自由	自由	テクニカル日本語基礎 2	J	1の2	2の2	堀口	
J411	学術	学術	学術	自由	自由	自由	テクニカル日本語発展 1	J	1の1	2の1	本田	
J412	学術	学術	学術	自由	自由	自由	テクニカル日本語発展 2	J	1の2	2の2	本田	

○ Gxxx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
G211	学術	学術	学術	自由	自由	自由	協働形成グローバルコミュニケーション	E	1の2		川西・元山	
G212	学術	学術	学術	自由	自由	自由	言語表現技術	J	1の1	2の1	辻	
G213	学術	学術	学術	自由	自由	自由	日本事情	E		2の1	川西・元山	
G214	自由	自由	自由	自由	自由	自由	Diversity Studies	E	1の1	2の2	川西・元山	
G215	自由	自由	自由	自由	自由	自由	グローバル・リーダーシップ養成演習	E			川西・元山	適宜開講 1単位

(注) 平成27年度以前の入学者は、G214及びG215を修了要件に含めることができない。

2.7 その他科目（Lxxx科目）

○ Lxxx科目

科目番号	学位(修士)			学位(博士)			授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	マテ	知識	情報	マテ			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
L221	広域	広域	広域	自由	自由	自由	科学者の倫理	J	夏期集中		東島	
								E		冬期集中		
L222	広域	広域	広域	自由	自由	自由	技術経営と知的財産	J	夏期集中		平田、三谷	
								E		冬期集中	川村、三谷	
L223	広域	広域	広域	自由	自由	自由	メディア論	E	夏期集中		Merklejn	
								J		冬期集中	水越	

3 平成31年度授業時間割（石川キャンパス）

1の1期：授業期間4月12日～6月7日（1、2、3限）
定期試験期間6月10日～6月12日

振替授業 6月7日（金）：月曜時間割

	1 9：00～10：40	2 10：50～12：30	3
月	K211 社会科学方法論（敷田・坂村） K470 知識創造論（國藤） I120 基礎論理数学（石原・根元） I235 ゲーム情報学特論（池田(心)・飯田） I655E 現代脳計算論（田中(宏)） M245 応用物性数学特論（大平） M285E 生命機能工学特論（山口(拓)・濱田・藤本・筒井(秀)・芳坂）	K228 知識科学概論（橋本・Dam） I115 デジタル論理と計算機構成（田中(清)・Chu） I225E 統計的信号処理特論（田中(宏)） I233 オペレーティングシステム特論（篠田） M221 有機分子化学特論（松見） M611E 固体・表面電子構造特論（富取・水谷・高村(由)・Fleurence）	チュートリアルアワー（13：30～15：10）
火	K111 経営学概論（白肌） K211E 社会科学方法論（Kim） K471 メディア創造論（宮田・謝） I119 データ分析のための情報統計学（赤木） I121 情報代数（小川） I212 情報解析学特論（小谷） I214 システム最適化（金子(峰)・平石） M113 生物機能概論（高木・下川） M284E 固体電子物性・デバイス特論Ⅱ（大島・鈴木(寿)・安） E413 サイエнтиフィック・ディスカッション2（Preining）	K469 知識創造支援メディア論（西本） K487 ネットワーク科学論（林(幸)） I111 アルゴリズムとデータ構造（池田(心)） I237 形式言語とオートマトン（東条） I238 計算論（上原） M111 材料物理概論（堀田） M213 応用電磁気学特論（富取）	
水	K125 ウェブシステム開発入門（高島） K213 システム科学方法論（中森） I112 計算機システムリテラシー（吉高） I211E 数理論理学（石原・根元） I483 スマート組込みシステム開発演習（中田） M112 材料化学概論（谷池・松村） M251 触媒化学特論（西村） M615E 先端生体機能特論（高木・高村(禅)）	K211 社会科学方法論（敷田・坂村） K470 知識創造論（國藤） I120 基礎論理数学（石原・根元） I235 ゲーム情報学特論（池田(心)・飯田） I655E 現代脳計算論（田中(宏)） M245 応用物性数学特論（大平） M285E 生命機能工学特論（山口(拓)・濱田・藤本・筒井(秀)・芳坂）	
木	K469 知識創造支援メディア論（西本） K487 ネットワーク科学論（林(幸)） I111 アルゴリズムとデータ構造（池田(心)） I237 形式言語とオートマトン（東条） I238 計算論（上原） M111 材料物理概論（堀田） M213 応用電磁気学特論（富取）	K111 経営学概論（白肌） K211E 社会科学方法論（Kim） K471 メディア創造論（宮田・謝） I119 データ分析のための情報統計学（赤木） I121 情報代数（小川） I212 情報解析学特論（小谷） I214 システム最適化（金子(峰)・平石） M113 生物機能概論（高木・下川） M284E 固体電子物性・デバイス特論Ⅱ（大島・鈴木(寿)・安）	
金	K228 知識科学概論（橋本・Dam） I115 デジタル論理と計算機構成（田中(清)・Chu） I225E 統計的信号処理特論（田中(宏)） I233 オペレーティングシステム特論（篠田） M221 有機分子化学特論（松見） M611E 固体・表面電子構造特論（富取・水谷・高村(由)・Fleurence） E413 サイエнтиフィック・ディスカッション2（Preining）	K125 ウェブシステム開発入門（高島） I112 計算機システムリテラシー（吉高） I211E 数理論理学（石原・根元） I483 スマート組込みシステム開発演習（中田） M112 材料化学概論（谷池・松村） M251 触媒化学特論（西村） M615E 先端生体機能特論（高木・高村(禅)）	

変則時間割授業

K213 システム科学方法論（中森） 毎週水曜日1時限及び3時限	E413 サイエнтиフィック・ディスカッション2（Preining） 毎週火曜日1時限及び金曜日1時限
-------------------------------------	---

備 考

各科目の実施場所を記載した授業時間割は、証明書自動発行機横の掲示板及び本学ホームページ（教育→履修関係→授業時間割）にて公開します。

平成31年度授業時間割（石川キャンパス）

1の1期：授業期間4月12日～6月7日（4、5限）
定期試験期間6月10日～6月12日

振替授業 6月7日（金）：月曜時間割

	4 15:20～17:00	5 17:10～18:50
月	E111 テクニカル英語導入1（Chassen） E212A テクニカル英語基礎2（Holden） J111 テクニカル日本語導入1（山口(実)） G212 言語表現技術（辻）	E011 Interaction Seminar1（Chassen） E212B テクニカル英語基礎2（Holden） G214E Diversity Studies（元山・川西）
火	E112 テクニカル英語導入2（Chassen） E411A テクニカル英語発展1（Holden） J011A テクニカル日本語入門1（筒井(昌)） J211 テクニカル日本語基礎1（堀口） J411 テクニカル日本語発展1（本田） K238 実験哲学概論（水本） M231 生物有機化学特論（藤本・芳坂）	E021 Interaction Seminar2（Chassen） E411B テクニカル英語発展1（Holden） J011B テクニカル日本語入門1（筒井(昌)）
水	E111 テクニカル英語導入1（Chassen） E212A テクニカル英語基礎2（Holden） J111 テクニカル日本語導入1（山口(実)） G212 言語表現技術（辻）	E011 Interaction Seminar1（Chassen） E212B テクニカル英語基礎2（Holden） G214E Diversity Studies（元山・川西）
木	E112 テクニカル英語導入2（Chassen） E411A テクニカル英語発展1（Holden） J011A テクニカル日本語入門1（筒井(昌)） J211 テクニカル日本語基礎1（堀口） J411 テクニカル日本語発展1（本田） K238 実験哲学概論（水本） M231 生物有機化学特論（藤本・芳坂）	E021 Interaction Seminar2（Chassen） E411B テクニカル英語発展1（Holden） J011B テクニカル日本語入門1（筒井(昌)）
金	S101 人間力イノベーション論（神田ほか） S102 創出力イノベーション論（神田ほか） ※ S102はS101の7回の講義終了後に開講します。 S503 人間力・創出力イノベーション論（神田ほか）	S101 人間力イノベーション論（神田ほか） S102 創出力イノベーション論（神田ほか） ※ S102はS101の7回の講義終了後に開講します。 S503 人間力・創出力イノベーション論（神田ほか）

平成31年度授業時間割（石川キャンパス）

1の2期：授業期間6月17日～8月5日（1、2、3限）
定期試験期間8月6日、8月7日

	1 9：00～10：40	2 10：50～12：30	3
月	K240 経営情報学概論（藤波・平井・近野） K613E 複合システム特論（Huynh） I114 基礎情報数学（横山） I217 関数プログラミング（緒方） I442 システムソフトウェア特論（知念） M211 量子力学特論（村田） M224 無機材料化学特論（前之園）	K114 実践的社会調査法（小林） I226 コンピュータネットワーク特論（丹） I439 音声情報処理特論（赤木・党） I441 高機能コンピュータネットワーク（篠田） M423 機能性蛋白質特論（平塚） M620E 電子機能特論（大島・小矢野・安・Muruganathan）	チ ュ ー ト リ ア ル ア フ ー （ 1 3 ： 3 0 ～ 1 5 ： 1 0 ）
	K121 認知科学概論（日高・鳥居） K214 知識メディア方法論（由井菌） I116 プログラミング基礎（廣川） I219 ソフトウェア設計論（青木・河井） I223E 自然言語処理論Ⅰ（Nguyen） M262 生体材料分析特論（高村(禅)） M425E 解析力学特論（Ho(Anh)） E213 サイエнтиフィック・ディスカッションⅠ（Preining）	K236EJ データ分析学基礎（Dam） K473 イノベーション・マネジメント論（内平） I213 離散信号処理特論（浅野） I218E 計算機アーキテクチャ特論（井口） I419 画像情報処理特論（吉高） M243 固体物理学特論Ⅰ（高村(由)） M254 高分子化学特論Ⅰ（金子(達)）	
火	K412 知識人類学（伊藤・比嘉） I232 情報理論（松本・Kurkoski） I239 機械学習（岡田(将)・長谷川） I438EJ 演習グラフ理論（金子(峰)） M225 機器分析化学特論（篠原）	K240 経営情報学概論（藤波・平井・近野） K613E 複合システム特論（Huynh） I114 基礎情報数学（横山） I217 関数プログラミング（緒方） I442 システムソフトウェア特論（知念） M211 量子力学特論（村田） M224 無機材料化学特論（前之園）	
水	K236EJ データ分析学基礎（Dam） K473 イノベーション・マネジメント論（内平） I213 離散信号処理特論（浅野） I218E 計算機アーキテクチャ特論（井口） I419 画像情報処理特論（吉高） M243 固体物理学特論Ⅰ（高村(由)） M254 高分子化学特論Ⅰ（金子(達)）	K121 認知科学概論（日高・鳥居） K214 知識メディア方法論（由井菌） I116 プログラミング基礎（廣川） I219 ソフトウェア設計論（青木・河井） I223E 自然言語処理論Ⅰ（Nguyen） M262 生体材料分析特論（高村(禅)） M425E 解析力学特論（Ho(Anh)）	
木	K114 実践的社会調査法（小林） I226 コンピュータネットワーク特論（丹） I439 音声情報処理特論（赤木・党） I441 高機能コンピュータネットワーク（篠田） M423 機能性蛋白質特論（平塚） M620E 電子機能特論（大島・小矢野・安・Muruganathan） E213 サイエнтиフィック・ディスカッションⅠ（Preining）	K412 知識人類学（伊藤・比嘉） I232 情報理論（松本・Kurkoski） I239 機械学習（岡田(将)・長谷川） I438EJ 演習グラフ理論（金子(峰)） M225 機器分析化学特論（篠原）	
金			

変則時間割授業

- M432E 機能評価特論（松村・海老谷・岩本）
※日時が決定次第、通知します。
- M618E 材料設計特論（松村・海老谷・Misra）
※日時が決定次第、通知します。
- E213 サイエнтиフィック・ディスカッションⅠ（Preining）
毎週火曜日1時限及び金曜日1時限

備 考

各科目の実施場所を記載した授業時間割は、証明書自動発行機横の掲示板及び本学ホームページ（教育→履修関係→授業時間割）にて公開します。

平成31年度授業時間割（石川キャンパス）

1の2期：授業期間6月17日～8月5日（4、5限）
定期試験期間8月6日、8月7日

	4 15:20～17:00	5 17:10～18:50
月	E111 テクニカル英語導入1（Chassen） E113A テクニカル英語導入3（Holden） J001A 日本語ピアラーニングワークショップ（本田） J112 テクニカル日本語導入2（山口(実)）	E011 Interaction Seminar 1（Chassen） E113B テクニカル英語導入3（Holden） J001B 日本語ピアラーニングワークショップ（本田） G211E 協働形成グローバルコミュニケーション（川西・元山）
火	E112 テクニカル英語導入2（Chassen） E211A テクニカル英語基礎1（Holden） J012A テクニカル日本語入門2（筒井(昌)） J212 テクニカル日本語基礎2（堀口） J412 テクニカル日本語発展2（本田） M232 生物物理化学特論（濱田）	E021 Interaction Seminar 2（Chassen） E211B テクニカル英語基礎1（Holden） J012B テクニカル日本語入門2（筒井(昌)） J001C 日本語ピアラーニングワークショップ（本田）
水	E111 テクニカル英語導入1（Chassen） E113A テクニカル英語導入3（Holden） J001A 日本語ピアラーニングワークショップ（本田） J112 テクニカル日本語導入2（山口(実)）	E011 Interaction Seminar 1（Chassen） E113B テクニカル英語導入3（Holden） J001B 日本語ピアラーニングワークショップ（本田） G211E 協働形成グローバルコミュニケーション（川西・元山）
木	E112 テクニカル英語導入2（Chassen） E211A テクニカル英語基礎1（Holden） J012A テクニカル日本語入門2（筒井(昌)） J212 テクニカル日本語基礎2（堀口） J412 テクニカル日本語発展2（本田） M232 生物物理化学特論（濱田）	E021 Interaction Seminar 2（Chassen） E211B テクニカル英語基礎1（Holden） J012B テクニカル日本語入門2（筒井(昌)） J001C 日本語ピアラーニングワークショップ（本田）
金		

平成31年度授業時間割（石川キャンパス）

2の1期：授業期間10月10日～12月2日（1、2、3限）
定期試験期間12月3日～12月5日

振替授業 11月28日（木）：月曜時間割
11月29日（金）：火曜時間割

	1 9：00～10：40	2 10：50～12：30	3
月	K111E 経営学概論（Zelaya） K411 知識経営論（平田・林(透)） I111E アルゴリズムとデータ構造（上原・Viglietta） I440 高機能オペレーティングシステム（田中(清)） I448 遠隔教育システム工学（長谷川） M211 量子力学特論（岩崎） M413E 機能性ナノ材料特論（前之園・長尾・山本(裕)・西村）	K228E 知識科学概論（Dam・橋本・Huynh） I217E 関数プログラミング（廣川） I427 システム制御理論（浅野） I481 高信頼組込みシステム開発演習（鈴木(正)） M421 エレクトロニクス特論（鈴木(寿)）	チュートリアルアワー（13：30～15：10）
火	K417EJ データ分析学（Ho(Bao)・Dam） K479 サービス経営論（白肌） I211 数理論理学（横山） I214E システム最適化（金子(峰)・平石） I237E 形式言語とオートマトン（小川） M261 生体分子機能特論（筒井(秀)） M273EJ メカトロニクス（Ho(Anh)） E413 サイエンティフィック・ディスカッション2（Preining）	K238E 実験哲学概論（水本） K421 システム思考論（林(幸)） I223 自然言語処理論Ⅰ（白井） I233E オペレーティングシステム特論（Beuran） I235E ゲーム情報学特論（飯田・Khalid） M223 有機材料物性特論（長尾・松見） M245 応用物性数学特論（水田）	
水	K433 技術経営改革実践論（近藤） K611E 次世代技術経営特論（神田・Javed） I212E 情報解析学特論（党） I225 統計的信号処理特論（鷗木） I240 暗号理論（藤崎） M111E 材料物理概論（水谷） M424 高分子化学特論Ⅱ（山口(政)・松村） M614E 先端デバイス特論（大平・徳光）	K111E 経営学概論（Zelaya） K411 知識経営論（平田・林(透)） I111E アルゴリズムとデータ構造（上原・Viglietta） I440 高機能オペレーティングシステム（田中(清)） I448 遠隔教育システム工学（長谷川） M211 量子力学特論（岩崎） M413E 機能性ナノ材料特論（前之園・長尾・山本(裕)・西村）	
木	K238E 実験哲学概論（水本） K421 システム思考論（林(幸)） I223 自然言語処理論Ⅰ（白井） I233E オペレーティングシステム特論（Beuran） I235E ゲーム情報学特論（飯田・Khalid） M223 有機材料物性特論（長尾・松見） M245 応用物性数学特論（水田）	K417EJ データ分析学（Ho(Bao)・Dam） K479 サービス経営論（白肌） I211 数理論理学（横山） I214E システム最適化（金子(峰)・平石） I237E 形式言語とオートマトン（小川） M261 生体分子機能特論（筒井(秀)） M273EJ メカトロニクス（Ho(Anh)）	
金	K228E 知識科学概論（Dam・橋本・Huynh） I217E 関数プログラミング（廣川） I427 システム制御理論（浅野） I481 高信頼組込みシステム開発演習（鈴木(正)） M421 エレクトロニクス特論（鈴木(寿)） E413 サイエンティフィック・ディスカッション2（Preining）	K433 技術経営改革実践論（近藤） K611E 次世代技術経営特論（神田・Javed） I212E 情報解析学特論（党） I225 統計的信号処理特論（鷗木） I240 暗号理論（藤崎） M111E 材料物理概論（水谷） M424 高分子化学特論Ⅱ（山口(政)・松村） M614E 先端デバイス特論（大平・徳光）	

変則時間割授業

- I466 国際標準化概論（山口(典)ほか）
2の1期及び2の2期の毎週金曜日5時限
- I466S 最新情報セキュリティ理論と応用（宮地・河内）
2の1期及び2の2期の毎週水曜日16:20～17:50及び18:00～19:30
- M616E 先端生体材料特論（平塚・筒井(秀)・濱田・永井(健)）
※日時が決定次第、通知します。

- E413 サイエンティフィック・ディスカッション2（Preining）
毎週火曜日1時限及び金曜日1時限

備考

各科目の実施場所を記載した授業時間割は、証明書自動発行機横の掲示板及び本学ホームページ（教育→履修関係→授業時間割）にて公開します。

平成31年度授業時間割（石川キャンパス）

2の1期：授業期間10月10日～12月2日（4、5限）
定期試験期間12月3日～12月5日

振替授業	11月28日（木）：月曜時間割
	11月29日（金）：火曜時間割

	4 15:20～17:00	5 17:10～18:50
月	E111 テクニカル英語導入1（Chassen） E212A テクニカル英語基礎2（Holden） J001A 日本語ピアラーニングワークショップ（本田） J111 テクニカル日本語導入1（山口(実)） G212 言語表現技術（辻） N001 ナノデバイス加工論（赤堀・鈴木(寿)）	E011 Interaction Seminar 1（Chassen） E212B テクニカル英語基礎2（Holden） J001B 日本語ピアラーニングワークショップ（本田） G213E 日本事情（川西・元山） N001 ナノデバイス加工論（赤堀・鈴木(寿)）
火	E112 テクニカル英語導入2（Chassen） E411A テクニカル英語発展1（Holden） J011A テクニカル日本語入門1（筒井(昌)） J211 テクニカル日本語基礎1（堀口） J411 テクニカル日本語発展1（本田） M231 生物有機化学特論（藤本・芳坂） N002 ナノバイオテクノロジー論（芳坂・渡邊・高村(禪)）	E021 Interaction Seminar 2（Chassen） E411B テクニカル英語発展1（Holden） J011B テクニカル日本語入門1（筒井(昌)） J001C 日本語ピアラーニングワークショップ（本田） N002 ナノバイオテクノロジー論（芳坂・渡邊・高村(禪)）
水	E111 テクニカル英語導入1（Chassen） E212A テクニカル英語基礎2（Holden） J001A 日本語ピアラーニングワークショップ（本田） J111 テクニカル日本語導入1（山口(実)） G212 言語表現技術（辻） N003 ナノ分子解析論（大木・松村・山口(拓)）	E011 Interaction Seminar 1（Chassen） E212B テクニカル英語基礎2（Holden） J001B 日本語ピアラーニングワークショップ（本田） G213E 日本事情（川西・元山） N003 ナノ分子解析論（大木・松村・山口(拓)）
木	E112 テクニカル英語導入2（Chassen） E411A テクニカル英語発展1（Holden） J011A テクニカル日本語入門1（筒井(昌)） J211 テクニカル日本語基礎1（堀口） J411 テクニカル日本語発展1（本田） M231 生物有機化学特論（藤本・芳坂） N004 ナノ固体解析論（前之園・富取）	E021 Interaction Seminar 2（Chassen） E411B テクニカル英語発展1（Holden） J011B テクニカル日本語入門1（筒井(昌)） J001C 日本語ピアラーニングワークショップ（本田） N004 ナノ固体解析論（前之園・富取）
金	S101 人間力イノベーション論（神田ほか） S102 創出力イノベーション論（神田ほか） ※ S102はS101の7回の講義終了後に開講します。 S503 人間力・創出力イノベーション論（神田ほか） N005 ナノ材料分析論（篠原・金子(達)・山本(裕)・桶葺）	S101 人間力イノベーション論（神田ほか） S102 創出力イノベーション論（神田ほか） ※ S102はS101の7回の講義終了後に開講します。 S503 人間力・創出力イノベーション論（神田ほか） I466 国際標準化概論（山口(典)ほか） N005 ナノ材料分析論（篠原・金子(達)・山本(裕)・桶葺）

平成31年度授業時間割（石川キャンパス）

2の2期：授業期間12月9日～2月5日（1、2、3限）
定期試験期間2月6日、2月7日

振替授業	2月4日（火）：木曜時間割
	2月5日（水）：金曜時間割

	1 9:00～10:40	2 10:50～12:30	3
月	K114E 実践的社会調査法（Javed） I232E 情報理論（松本・Kurkoski） I413 理論計算機科学（石原） I628E 情報処理論（上原・緒方・Siritanawan・河井・Viglietta） M282E 物質デザイン・創出特論（山口(政)・山本(裕)・桶菰・Enta）	K213E システム科学方法論（Huynh） I239E 機械学習（Nguyen） I482 高信頼組込みシステム開発プロセス設計（鈴木(正)・青木） M281E 固体電子物性・デバイス特論Ⅰ（水田・村田・安・Muruganathan）	チ ュ ー ト リ ア ル ア フ ー （ 1 3 ： 3 0 ～ 1 5 ： 1 0 ）
火	K214E 知識メディア方法論（金井） I213E 離散信号処理特論（Chong） I219E ソフトウェア設計論（緒方） M212 統計力学特論（小矢野） E213 サイエнтиフィック・ディスカッションⅠ（Preining）	K464EJ 認知科学（藤波・日高・鳥居） I218 計算機アーキテクチャ特論（田中(清)） I238E 計算論（石原） M222 物質計算科学特論（谷池・Dam・宮田(全)）	
水	K411E 知識経営論（Zelaya・Kim） K414 複雑系解析論（橋本・小林） I226E コンピュータネットワーク特論（リム） I450 ネットワーク設計演習（丹・知念） M283E バイオ機能・組織化特論（高木・塚原・高村(禪)・大木・下川） M420 固体物理学特論Ⅱ（赤堀）	K114E 実践的社会調査法（Javed） I232E 情報理論（松本・Kurkoski） I413 理論計算機科学（石原） I628E 情報処理論（上原・緒方・Siritanawan・河井・Viglietta） M282E 物質デザイン・創出特論（山口(政)・山本(裕)・桶菰・Enta）	
木	K464EJ 認知科学（藤波・日高・鳥居） I218 計算機アーキテクチャ特論（田中(清)） I238E 計算論（石原） M222 物質計算科学特論（谷池・Dam・宮田(全)）	K214E 知識メディア方法論（金井） I213E 離散信号処理特論（Chong） I219E ソフトウェア設計論（緒方） M212 統計力学特論（小矢野）	
金	K213E システム科学方法論（Huynh） I239E 機械学習（Nguyen） I482 高信頼組込みシステム開発プロセス設計（鈴木(正)・青木） M281E 固体電子物性・デバイス特論Ⅰ（水田・村田・安・Muruganathan） E213 サイエнтиフィック・ディスカッションⅠ（Preining）	K411E 知識経営論（Zelaya・Kim） K414 複雑系解析論（橋本・小林） I226E コンピュータネットワーク特論（リム） I450 ネットワーク設計演習（丹・知念） M283E バイオ機能・組織化特論（高木・塚原・高村(禪)・大木・下川） M420 固体物理学特論Ⅱ（赤堀）	

変則時間割授業

- I466 国際標準化概論（山口(典)ほか）
2の1期及び2の2期の毎週金曜日5時限
I466S 最新情報セキュリティ理論と応用（宮地・河内）
2の1期及び2の2期の毎週水曜日16:20～17:50及び18:00～19:30

- E213 サイエнтиフィック・ディスカッションⅠ（Preining）
毎週火曜日1時限及び金曜日1時限

備 考

各科目の実施場所を記載した授業時間割は、証明書自動発行機横の掲示板及び本学ホームページ（教育→履修関係→授業時間割）にて公開します。

平成31年度授業時間割（石川キャンパス）

2の2期：授業期間12月9日～2月5日（4、5限）
定期試験期間2月6日、2月7日

振替授業 2月4日（火）：木曜時間割
2月5日（水）：金曜時間割

	4 15:20～17:00	5 17:10～18:50
月	E111 テクニカル英語導入1（Chassen） E113A テクニカル英語導入3（Holden） J112 テクニカル日本語導入2（山口（実））	E011 Interaction Seminar 1（Chassen） E113B テクニカル英語導入3（Holden） G214E Diversity Studies（元山・川西）
火	E112 テクニカル英語導入2（Chassen） E211A テクニカル英語基礎1（Holden） J012A テクニカル日本語入門2（筒井（昌）） J212 テクニカル日本語基礎2（堀口） J412 テクニカル日本語発展2（本田） M414 デバイス物理特論（徳光） M415 医用生体材料特論（塚原）	E021 Interaction Seminar 2（Chassen） E211B テクニカル英語基礎1（Holden） J012B テクニカル日本語入門2（筒井（昌））
水	E111 テクニカル英語導入1（Chassen） E113A テクニカル英語導入3（Holden） J112 テクニカル日本語導入2（山口（実））	E011 Interaction Seminar 1（Chassen） E113B テクニカル英語導入3（Holden） G214E Diversity Studies（元山・川西）
木	E112 テクニカル英語導入2（Chassen） E211A テクニカル英語基礎1（Holden） J012A テクニカル日本語入門2（筒井（昌）） J212 テクニカル日本語基礎2（堀口） J412 テクニカル日本語発展2（本田） M414 デバイス物理特論（徳光） M415 医用生体材料特論（塚原）	E021 Interaction Seminar 2（Chassen） E211B テクニカル英語基礎1（Holden） J012B テクニカル日本語入門2（筒井（昌））
金		I466 国際標準化概論（山口（典）ほか）

4 平成31年度定期試験期間の時間割（石川キャンパス）

【1の1期】

	1 限 9:00-10:40	2 限 10:50-12:30	3 限 13:30-15:10	4 限 15:20-17:00	5 限 17:10-18:50
6/10(月)	月曜 1 限の 試験	月曜 2 限の 試験	水曜 1 限の 試験	月曜 4 限の 試験	月曜 5 限の 試験
6/11(火)	火曜 1 限の 試験	火曜 2 限の 試験		火曜 4 限の 試験	火曜 5 限の 試験
6/12(水)	S102「創出カイノベーション論」、S503「人間力・創出カイノベーション論」の補講及び最終試験（発表会）				

【1の2期】

	1 限 9:00-10:40	2 限 10:50-12:30	3 限 13:30-15:10	4 限 15:20-17:00	5 限 17:10-18:50
8/6(火)	火曜 1 限の 試験	火曜 2 限の 試験		火曜 4 限の 試験	火曜 5 限の 試験
8/7(水)	水曜 1 限の 試験	月曜 1 限の 試験	月曜 2 限の 試験	月曜 4 限の 試験	月曜 5 限の 試験

【2の1期】

	1 限 9:00-10:40	2 限 10:50-12:30	3 限 13:30-15:10	4 限 15:20-17:00	5 限 17:10-18:50
12/3(火)	火曜 1 限の 試験	火曜 2 限の 試験		火曜 4 限の 試験	火曜 5 限の 試験
12/4(水)	水曜 1 限の 試験	月曜 1 限の 試験	月曜 2 限の 試験	月曜 4 限の 試験	月曜 5 限の 試験
12/5(木)	S102「創出カイノベーション論」、S503「人間力・創出カイノベーション論」の補講及び最終試験（発表会）				

【2の2期】

	1 限 9:00-10:40	2 限 10:50-12:30	3 限 13:30-15:10	4 限 15:20-17:00	5 限 17:10-18:50
2/6(木)	火曜 2 限の 試験	火曜 1 限の 試験		火曜 4 限の 試験	火曜 5 限の 試験
2/7(金)	月曜 2 限の 試験	水曜 1 限の 試験	月曜 1 限の 試験	月曜 4 限の 試験	月曜 5 限の 試験

5 平成31年度授業科目（東京サテライト）

5.1 必修科目（Sxxx科目（東京））

○ 博士前期課程科目

科目番号	学位(修士)		学位(博士)		授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考
	知識	情報	知識	情報			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)		
必修A科目										
S201	基幹	基幹			科学技術研究論文				主指導教員	8単位 選択必修
S202	基幹	基幹			科学技術課題研究				主指導教員	2単位 選択必修
必修B科目										
S101	広域	広域			人間力イノベーション論	J	I	Ⅲ	神田ほか	1単位 必修
S102	導入	導入			創出力イノベーション論	J	I	Ⅲ	神田ほか	1単位 必修
S401	展開	展開			科学技術副テーマ研究				副テーマ指導教員	2単位 必修

（注）S101及びS102は、平成27年度以前の入学者の履修を認めない。

○ 博士後期課程科目

科目番号	学位(修士)		学位(博士)		授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備 考
	知識	情報	知識	情報			第 1 学期 (4-9月)	第 2 学期 (10-3月)		
必修 A 科目										
S601			先端	先端	先端科学技術研究論文				主指導教員	6 単位 必修
必修 B 科目										
S501			発展	発展	先端科学技術副テーマ研究				副テーマ指導教員	2 単位 必修
S503			発展	発展	人間力・創出力イノベーション論	J	I	Ⅲ	神田ほか	1 単位 必修

（注）S503は、平成27年度以前の入学者の履修を認めない。

5.2 知識科学系科目（Kxxx科目（東京））

○ K1xx科目

科目番号	学位(修士)		学位(博士)		授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考	分野
	知識	情報	知識	情報			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)			
K114	導入	広域	自由	自由	実践的社会調査法	J	I		佐々木		一般
K122	導入	広域	自由	自由	医療サービスサイエンス基礎	J	I		佐藤・池田(満)		サービス
K124	導入	広域	自由	自由	プロジェクトマネジメント実践論	J	I		光藤		一般

○ K2xx科目

科目番号	学位(修士)		学位(博士)		授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考	分野
	知識	情報	知識	情報			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)			
K211	基幹	広域	先端	発展	社会科学方法論	J	I		伊藤		知識
K213	基幹	広域	先端	発展	システム科学方法論	J	II		林(幸)		知識
K215	基幹	広域	先端	発展	イノベーションマネジメント概論	J		III	内平		技術
K234	基幹	広域	先端	発展	医療サービスサイエンス I	J	I		池田(満)・香月・荒木・鈴木(斎)	1単位	サービス
K235	基幹	広域	先端	発展	医療サービスサイエンス II	J		III	佐藤・池田(満)・橋田・和泉	1単位	サービス
K239	基幹	広域	先端	発展	社会科学実践的方法論	EJ		III	Kim		知識

(注) 平成24年度以前の入学者がK231を修得済の場合、K234及びK235の履修を認めない。

○ K4xx科目

科目番号	学位(修士)		学位(博士)		授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考	分野
	知識	情報	知識	情報			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)			
K411	展開	広域	発展	自由	知識経営論	J	II		遠山		知識
K413	展開	広域	発展	自由	比較知識制度論	J	※	※	永田	隔年開講	知識
K420	基幹	広域	先端	自由	研究・新事業開発における知識創造・活用マネジメント	J		III	小坂		技術
K422	展開	広域	発展	自由	知的財産マネジメント論	J	I		外川		技術
K425	基幹	広域	先端	自由	戦略ロードマッピング論	E	II		白肌・Phaal	隔年開講	技術
K432	展開	広域	発展	自由	研究・イノベーション政策論	J	II		平澤		知識
K433	展開	広域	発展	自由	技術経営改革実践論	J	II		野元		技術
K440	基幹	基幹	先端	先端	マーケティング論	J		IV	白肌		注2参照
K442	展開	広域	発展	自由	技術・サービス経営特論	J			内平ほか	随時開講 1単位	技術
K443	展開	広域	発展	自由	経営戦略論	J		IV	遠山		技術
K448	基幹	基幹	先端	先端	サービスイノベーション論	J	I		小坂		サービス
K452	基幹	基幹	先端	先端	サービスサイエンス論	J		IV	神田・杉山		サービス

科目番号	学位(修士)		学位(博士)		授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考	分野
	知識	情報	知識	情報			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)			
K457	基幹	基幹	先端	先端	デザイン戦略論	J	Ⅱ		永井		注2 参照
K458	基幹	基幹	先端	先端	ビジネスエスノグラフィ	J	Ⅱ		伊藤		注2 参照
K465	展開	広域	発展	自由	オープンイノベーション論	J	I		安永		技術
K470	基幹	広域	先端	自由	知識創造論	J		Ⅲ	由井 薫・國藤		知識
K475	展開	広域	発展	自由	ベンチャー・ビジネス・マネジメント	J	※	※	姜	隔年開講	技術
K476	展開	広域	発展	自由	科学技術の哲学と倫理	J	I		水本・山田		一般
K477	基幹	広域	先端	自由	医療サービス情報経営論	J	※	※	鈴木(斎)・池田(満)・荒木	隔年開講	サービス
K478	基幹	広域	先端	自由	医療サービス知識経営論	J		Ⅳ	中村・池田(満)	隔年開講	サービス
K489	展開	広域	発展	自由	観光地域サービス論	J		Ⅲ	敷田・坂村		サービス
K490	展開	展開	発展	先端	データサイエンス論	J		Ⅳ	Dam・磯貝		サービス
K491	展開	広域	発展	自由	IoTイノベーションデザイン	J	I		内平・位野木	1単位	サービス
K492	展開	広域	発展	自由	アントレプレヌールシップとイノベーション	J		Ⅲ	姜・山本(正)	隔年開講	技術
K493	展開	展開	先端	先端	ビジネス分析のためのデータサイエンス	E		Ⅲ	Huynh	2単位	サービス

(注1) ※印は、平成31年度非開講を表す。

(注2) K440、K457、K458の3科目について、MOT、MOS、MSSの各プログラムでは所属する分野によって単位を修得したときの扱いが異なる。MOSプログラム、MSSプログラムでは、これらの3科目はサービス経営中核講義とみなすが、MOTプログラムでは、それぞれ、技術経営・知識科学一般講義(K440)、技術経営中核講義(K457)、知識科学中核講義(K458)とみなす。

(注3) 平成24年度以前の入学者がK477を修得した場合、K468として扱う。既にK468又はK233を修得済の場合は、履修を認めない。

(注4) 平成24年度以前の入学者がK478を修得した場合、K232として扱う。既にK232を修得済の場合は、履修を認めない。

(注5) 以下、平成27年度以前の入学者で、情報科学研究科の学生が修得した場合の取扱いとし、履修にあたっては他研究科授業科目の履修申請書の提出は不要とする。

- ・K440を修得した場合、I466Hとして扱う。既にI466Hを修得済の場合は、履修を認めない。
- ・K448を修得した場合、I450Hとして扱う。既にI450Hを修得済の場合は、履修を認めない。
- ・K452を修得した場合、I454Hとして扱う。既にI454Hを修得済の場合は、履修を認めない。
- ・K457を修得した場合、I459Hとして扱う。既にI459Hを修得済の場合は、履修を認めない。
- ・K458を修得した場合、I460Hとして扱う。既にI460Hを修得済の場合は、履修を認めない。

○ K6xx科目

科目番号	学位(修士)		学位(博士)		授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考	分野
	知識	情報	知識	情報			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)			
K620	基幹	広域	先端	自由	先端知識科学特論	J		Ⅲ	橋本・郷右近・小林		一般
K623	基幹	広域	先端	自由	次世代知識科学特論	J		Ⅲ	西本・金井・宮田・林(幸)・藤波・日高・吉高		一般
K627	基幹	広域	先端	自由	先端医療・介護サービス知識科学特論	J	Ⅱ		池田(満)・伊藤・金井・高木(理)・藤波・内平	隔年開講	サービス
K628	基幹	広域	先端	自由	次世代技術イノベーション・マネジメント	E	※	※	未定	隔年開講 1単位	技術
K629	基幹	展開	先端	先端	IoT・AIイノベーション特論	J	I		内平・平石・東条	1単位	サービス

(注1) ※印は、平成31年度非開講を表す。

(注2) 平成24年度以前の入学者がK627を修得した場合、K467として扱う。既にK467を修得済の場合は、履修を認めない。

(注3) 平成27年度以前の入学者がK621又はK622を修得済の場合、K620の履修を認めない。

(注4) 平成27年度以前の入学者がK624又はK625を修得済の場合、K623の履修を認めない。

5.3 情報科学系科目（Ixxx科目（東京））

○ I2xx科目

科目番号	学位(修士)		学位(博士)		授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考	開講形態
	知識	情報	知識	情報			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)			
I211	展開	基幹	発展	発展	数理論理学	J		Ⅲ	小川	隔年開講	毎週 2コマ
I212	展開	基幹	発展	発展	情報解析学特論	J		Ⅲ	吉高	隔年開講	隔週 4コマ
I213	展開	基幹	発展	発展	離散信号処理特論	J	I		浅野	隔年開講	毎週 4コマ
I214	展開	基幹	発展	発展	システム最適化	J	※	※	平石・金子(峰)	隔年開講	
I217	展開	基幹	発展	発展	関数プログラミング	J	※	※	緒方	隔年開講	
I218	展開	基幹	発展	発展	計算機アーキテクチャ特論	J	※	※	井口	隔年開講	
I219	展開	基幹	発展	発展	ソフトウェア設計論	J	※	※	緒方	隔年開講	
I223	展開	基幹	発展	発展	自然言語処理論 I	J	※	※	白井	隔年開講	
I225	展開	基幹	発展	発展	統計的信号処理特論	J	※	※	鶴木	隔年開講	
I226	展開	基幹	発展	発展	コンピュータネットワーク 特論	J	Ⅱ		丹	隔年開講	隔週 4コマ
I232	展開	基幹	発展	発展	情報理論	J		Ⅲ	松本	隔年開講	毎週 2コマ
I233	展開	基幹	発展	発展	オペレーティングシステム 特論	J	※	※	田中(清)	隔年開講	
I235	展開	基幹	発展	発展	ゲーム情報学特論	J	I		飯田・池田(心)	隔年開講	隔週 4コマ
I239	展開	基幹	発展	発展	機械学習	J	Ⅱ		岡田(将)・長谷川	隔年開講	隔週 4コマ

(注1) ※印は、平成31年度非開講を表す。
(注2) 平成24年度以前の入学者がI215を修得済の場合、I235の履修を認めない。

○ I4xx科目

科目番号	学位(修士)		学位(博士)		授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考	開講形態
	知識	情報	知識	情報			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)			
I411	展開	展開	自由	先端	認識処理工学特論	J	I		小谷	隔年開講	毎週 2コマ
I413	展開	展開	自由	先端	理論計算機科学	J	※	※	石原	隔年開講	
I416	展開	展開	自由	先端	並列処理	J	Ⅱ		井口	隔年開講	隔週 4コマ
I419	展開	展開	自由	先端	画像情報処理特論	J	※	※	吉高	隔年開講	
I427	展開	展開	自由	先端	システム制御理論	J	※	※	浅野	隔年開講	
I432	展開	展開	自由	先端	離散状態システムの理論	J	※	※	平石	隔年開講	
I439	展開	展開	自由	先端	音声情報処理特論	J	※	※	赤木・党	隔年開講	
I441	展開	展開	自由	先端	高機能コンピュータネット ワーク	J	※	※	篠田	隔年開講	
I443	展開	展開	自由	先端	ソフトウェア検証論	J	I		青木	隔年開講	毎週 2コマ
I448	展開	展開	自由	先端	遠隔教育システム工学	J	※	※	長谷川	隔年開講	
I466	展開	展開	自由	先端	国際標準化概論	J		Ⅲ	山口(典)ほか		毎週 1コマ

科目番号	学位(修士)		学位(博士)		授 業 科 目 名	使用言語	開講時期		担 当 者	備考	開講形態
	知識	情報	知識	情報			第1学期 (4-9月)	第2学期 (10-3月)			
I468	展開	展開	自由	先端	ダイナミクスのモデリング	J		IV	前園	隔年開講	隔週 4コマ
I471	展開	展開	自由	先端	実践的IoTシステムアーキテクチャ論	J		IV	鈴木(正)	隔年開講	隔週 4コマ
I472	展開	展開	自由	先端	IoT技術特論	J	※	※	丹	隔年開講 1単位	
I470F	展開	展開	自由	先端	統合アーキテクチャ	J	I		田中(清)	1単位	毎週 2コマ
I472F	展開	展開	自由	先端	コデザイン	J		IV	若林	1単位	集中講義
I473F	展開	展開	自由	先端	集積回路特論	J		IV	金子(峰)	隔年開講	隔週 4コマ
I478F	展開	展開	自由	先端	プロジェクトマネジメント	J		IV	井澤	1単位	集中講義
I484F	展開	展開	自由	先端	ロボティクス	J	※	※	Chong	隔年開講	
I485F	展開	展開	自由	先端	知覚情報処理特論	J	I		鵜木	隔年開講	隔週 4コマ

(注1) ※印は、平成31年度非開講を表す。
(注2) 平成29年度以前の入学者がI435を修得済の場合、I471の履修を認めない。

6 平成31年度授業日程表（東京サテライト）
○ 必修科目（人間力、創出カイノベーション論）

※詳細な時間割は以下のHPから確認すること。
本学HP→教育→履修関係→授業時間割

開講期	科目番号	授業科目名	担当教員	日程
Ⅰ期	S101	人間カイノベーション論	神田ほか	4月 7日（日） 、 4月13日（土）
	S102	創出カイノベーション論	神田ほか	4月13日（土） 、 4月14日（日）
	S503	人間力・創出カイノベーション論	神田ほか	4月 7日（日） ～ 4月14日（日）
Ⅲ期	S101	人間カイノベーション論	神田ほか	10月 6日（日） 、 10月19日（土）
	S102	創出カイノベーション論	神田ほか	10月19日（土） 、 10月20日（日）
	S503	人間力・創出カイノベーション論	神田ほか	10月 6日（日） ～ 10月20日（日）

平成31年度授業日程表（東京サテライト）

○ 知識科学系科目（Kxxx科目）

※詳細な時間割は以下のHPから確認すること。日程未定の講義は日程が確定次第、HPに掲載します。

本学HP→教育→履修関係→授業時間割

開講期	科目番号	授業科目名	担当教員	日程	分野
Ⅰ期	K122	医療サービスサイエンス基礎	佐藤・池田(満)	4月 8日（月） ～ 6月 3日（月）	サービス
	K234	医療サービスサイエンスⅠ	池田(満)・香月・荒木・鈴木(斎)	4月 8日（月） ～ 6月 3日（月）	サービス
	K211	社会科学方法論	伊藤	4月28日（日） ～ 9月 8日（日）	知識
	K491	IoTイノベーションデザイン	内平・位野木	5月12日（日） ～ 5月19日（日）	サービス
	K448	サービスイノベーション論	小坂	5月13日（月） ～ 5月18日（土）	サービス
	K422	知的財産マネジメント論	外川	5月25日（土） ～ 6月22日（土）	技術
	K629	IoT・AIイノベーション特論	内平・平石・東条	6月 2日（日） ～ 11月30日（土）	サービス
	K476	科学技術の哲学と倫理	水本・山田	6月 8日（土） ～ 9月15日（日）	一般
	K124	プロジェクトマネジメント実践論	光藤	6月11日（火） ～ 6月17日（月）	一般
	K465	オープンイノベーション論	安永	6月20日（木） ～ 7月20日（土）	技術
	K114	実践的社会調査法	佐々木	6月24日（月） ～ 6月29日（土）	一般
Ⅱ期	K213	システム科学方法論	林(幸)	7月12日（金） ～ 7月27日（土）	知識
	K411	知識経営論	遠山	7月15日（月） ～ 7月28日（日）	知識
	K627	先端医療・介護サービス知識科学特論	池田(満)・伊藤・金井・高木(理)・藤波・内平	8月 1日（木） ～ 9月20日（金）	サービス
	K457	デザイン戦略論	永井	8月 3日（土） ～ 8月12日（月）	サービス※
	K432	研究・イノベーション政策論	平澤	8月26日（月） ～ 8月31日（土）	知識
	K458	ビジネスエスノグラフィ	伊藤	9月 2日（月） ～ 9月 7日（土）	サービス※
	K433	技術経営改革実践論	野元	9月 9日（月） ～ 9月14日（土）	技術
	K425E	戦略ロードマッピング論	白肌・Phaal	9月16日（月） ～ 9月21日（土）	技術
Ⅲ期	K235	医療サービスサイエンスⅡ	佐藤・池田(満)・橋田・和泉	10月 9日（水） ～ 12月16日（月）	サービス
	K623	次世代知識科学特論	西本・金井・宮田・林(幸)・藤波・日高・吉高	10月10日（木） ～ 11月22日（金）	一般
	K215	イノベーションマネジメント概論	内平	10月21日（月） ～ 10月26日（土）	技術
	K492	アントレプレヌールシップとイノベーション	姜・山本(正)	10月27日（日） ～ 11月24日（日）	技術
	K239EJ	社会科学実践的方法論	Kim	11月 3日（日） ～ 2月23日（日）	知識
	K420	研究・新事業開発における知識創造・活用マネジメント	小坂	11月 4日（月） ～ 11月 9日（土）	技術
	K493E	ビジネス分析のためのデータサイエンス	Huynh	11月11日（月） ～ 11月16日（土）	サービス
	K620	先端知識科学特論	橋本・郷右近・小林	11月18日（月） ～ 3月 4日（水）	一般
	K489	観光地域サービス論	敷田・坂村	12月 2日（月） ～ 12月 7日（土）	サービス
	K470	知識創造論	由井蘭・國藤	12月 9日（月） ～ 12月14日（土）	知識
Ⅳ期	K443	経営戦略論	遠山	1月 9日（木） ～ 2月 2日（日）	技術
	K478	医療サービス知識経営論	中村・池田(満)	1月10日（金） ～ 3月18日（水）	サービス
	K452	サービスサイエンス論	神田・杉山	1月27日（月） ～ 2月 1日（土）	サービス
	K490	データサイエンス論	Dam・磯貝	2月18日（火） ～ 3月21日（土）	サービス
	K440	マーケティング論	白肌	3月 5日（木） ～ 3月13日（金）	サービス※

※ 技術経営（MOT）プログラムでは、K440は技術経営・知識科学一般講義、K457は技術経営中核講義、K458は知識科学中核講義とみなす。

平成31年度授業日程表（東京サテライト）

○ 情報科学系科目（Ixxx科目）

※詳細な時間割は以下のHPから確認すること。日程未定の講義は日程が確定次第、HPに掲載します。

本学HP→教育→履修関係→授業時間割

開講期	科目番号	授業科目名	担当教員	日程
Ⅰ期	I213	離散信号処理特論	浅野	4月20日（土）～ 6月15日（土）
	I470F	統合アーキテクチャ	田中(清)	5月25日（土）～ 6月22日（土）
	I485F	知覚情報処理特論	鵜木	5月25日（土）～ 6月30日（日）
	I235	ゲーム情報学特論	飯田・池田(心)	6月 1日（土）～ 7月28日（日）
	I411	認識処理工学特論	小谷	6月 8日（土）～ 8月31日（土）
	I443	ソフトウェア検証論	青木	6月 9日（日）～ 9月 1日（日）
Ⅱ期	I239	機械学習	岡田(将)・長谷川	7月13日（土）～ 9月21日（土）
	I226	コンピュータネットワーク特論	丹	9月 1日（日）～ 11月 2日（土）
	I416	並列処理	井口	9月 7日（土）～ 12月22日（日）
Ⅲ期	I466	国際標準化概論	山口(典)ほか	10月11日（金）～ 2月 7日（金）
	I211	数理論理学	小川	10月26日（土）～ 1月18日（土）
	I212	情報解析学特論	吉高	11月 2日（土）～ 12月21日（土）
	I232	情報理論	松本	12月 8日（日）～ 2月23日（日）
Ⅳ期	I471	実践的IoTシステムアーキテクチャ論	鈴木(正)	1月18日（土）～ 3月21日（土）
	I473F	集積回路特論	金子(峰)	1月18日（土）～ 3月28日（土）
	I468	ダイナミクスのモデリング	前園	1月25日（土）～ 3月28日（土）
	I478F	プロジェクトマネジメント	井澤	1月25日（土）～ 1月26日（日）
	I472F	コデザイン	若林	2月1日（土）～ 2月 2日（日）

学 修 プ ロ グ ラ ム

学修プログラム

1 学修プログラムの概要

教育内容により区分した教育課程として次の学修プログラムを置く。プログラム修了に必要な要件を満たした場合には、プログラム修了証を発行する。次頁より、各学修プログラムの詳細を記載する。

区分	課程	学修プログラム
石川	博士前期	◇データ分析学リーダー育成プログラム ◇高信頼 IoT 技術者育成プログラム ◇情報セキュリティプログラム ◇ナノマテリアルテクノロジープログラム
	博士後期	◇データ分析学リーダー育成プログラム ◇ナノマテリアルテクノロジープログラム
東京	博士前期	◇技術経営 (MOT) プログラム ◇サービス経営 (MOS) プログラム ◇IoT イノベーションプログラム
	博士後期	◇先端知識科学プログラム ◇先端情報科学プログラム

1. 1 履修対象

石川の学生：学修プログラムの履修は任意とする。

東京の学生：学修プログラムの履修は必須とする。

1. 2 履修手続き

学修プログラムの履修希望学生は、所定の学修プログラム履修申請書を、原則として4月入学者は4月中旬までに、10月入学者は10月中旬までに教務係に提出する。履修申請書の提出のあった者について教授会で審議し、履修の可否を決定するが、プログラムによっては事前に筆記試験及び面接試験を課すこともある。詳細はオリエンテーションや選考時に案内する。学修プログラムは各課程につき1つのみ履修することができるが、ナノマテリアルテクノロジープログラムは重複して履修することが可能である。

なお、学修プログラムの途中変更は認めないこととし、石川キャンパスの学生でプログラムの履修を取り止める場合は、教務係まで届け出ること。

また、学修プログラムのために設けられたプログラム専門科目は、開講時期・日程が通常の講義科目と異なる場合や、受講条件を設ける場合があるため、詳細は各プログラムの項やシラバス、時間割にて確認すること。

1. 3 学修プログラム修了証

学修プログラムの修了要件を満たした上で課程を修了する者には、学位授与時に学修プログラム修了証を授与する。

なお、学位申請書提出時に各プログラムの修了要件を満たしておらず、通常の博士前期・後期課程の修了要件を満たしている場合は、通常の博士前期・後期課程として修了することができる。

2 学修プログラム（石川キャンパス）

◇ データ分析学リーダー育成プログラム（石川：博士前期課程・博士後期課程）

データ駆動型アプローチが各種の科学分野だけでなく社会問題を解決するための重要な役割を示すことから、データ分析学リーダーの育成が社会から大きく求められている。このような社会のニーズに応え、知識科学をベースにしたデータ分析学に特化するプログラムを提供する。

本プログラムは、社会やビジネスのニーズを把握し、各専門家と協働しながらデータを駆使して各種社会問題を解決し、さらに、協働をコーディネートする能力を育成することで、企業・シンクタンク・官公庁・NPO・NGO・研究所等の即戦力となる優秀な人材の輩出を目的とする。

○ 修了要件

以下の要件を満たした上で課程を修了することにより、本プログラムを修了したものとする。

（１）博士前期課程

別表に示す授業科目のうち、３科目６単位以上を修得すること。

（２）博士後期課程

別表に示す授業科目のうち、K236、K417、K619の３科目６単位を修得すること。

別表

科目番号	授業科目名
I119	データ分析のための情報統計学
K236	データ分析学基礎
K417	データ分析学
K619	データ分析学特論

◇ 高信頼 IoT 技術者育成プログラム（石川：博士前期課程）

社会のいたるところにコンピュータが組み込まれネットワーク化された電子社会が到来し、あらゆる社会活動がそれへの依存度を増してきている。こうした電子社会を支えるには、ネットワーク機能を備えた組込みシステムと高度な知的処理を組み合わせることで様々なサービスを実現する IoT システムの信頼性や運用性、保守性が重要となってきた。本プログラムは、安心・安全な IoT システム構築技術を修得した高度専門技術者を組織的に育成することによって、わが国産業の開発力・生産性の向上を図り、今後の国際競争力の強化に資することを目的とする。

このため、IoT システム設計・検証に係る基礎から応用までの教育科目を整備すると共に、実際の IoT 機器及びシステムの設計と評価を行う演習・実習のための環境・設備を整備し、IoT システムの様々な課題に対応できる人材を育成する。

○ 修了要件

以下の要件を全て満たした上で課程を修了することにより、本プログラムを修了したものとする。

- (1) プログラム専門科目のうち、プログラム先進科目を 1 科目 2 単位以上修得すること。
- (2) プログラム専門科目のうち、プログラム実践科目を 3 科目 6 単位修得すること。

○ プログラム専門科目等について

本プログラムのために設けられたプログラム専門科目については、「授業科目・授業時間割」の章を参照すること。プログラム専門科目は日本語で実施するため、本プログラムの修了には日本語能力が必要である。また、別表に示す授業科目は本プログラムに強く関連したものであり、これらの中から複数科目を履修することを推奨する。

プログラム先進科目の I473「ハード・ソフト・コデザイン」、I478「システム開発管理」は本プログラムのため特別に外部から招聘された講師が担当するもので、組込みシステム開発・設計の現場における実践的かつ先端的なシステム設計手法、システム開発管理手法を知る貴重な機会である。

一方、プログラム実践科目の I481「高信頼組込みシステム開発演習」、I482「高信頼組込みシステム開発プロセス設計」及び I483「スマート組込みシステム開発演習」は、実社会の問題を最先端の知識と技術を活用して解決する興味深い課題である。なお、I481 と I482 を履修するためには I217、I219 を履修済、またはその内容と同等の知識を持っていることを強く推奨する。これらは、I481 又は I482 と同一の学期に履修しても差し支えない。また、I483 を履修するためには I219、I226 を履修済、またはその内容と同等の知識を持っていることを強く推奨する。

別表

科目番号	授業科目名	科目番号	授業科目名
I217	関数プログラミング	I218	計算機アーキテクチャ特論
I219	ソフトウェア設計論	I226	コンピュータネットワーク特論
I233	オペレーティングシステム特論	I440	高機能オペレーティングシステム
I441	高機能コンピュータネットワーク	I442	システムソフトウェア特論
I443	ソフトウェア検証論	I467	プロセッサ設計演習
I471	実践的IoTシステムアーキテクチャ論		

◇ 情報セキュリティプログラム（石川：博士前期課程）

本プログラムは、暗号技術、情報セキュリティ技術、情報ネットワーク技術を学ぶことで将来の暗号、情報セキュリティ、情報ネットワークの分野で活躍できる研究者及び技術者を育成することを目的とするプログラムである。

○ 修了要件

以下の要件を全て満たした上で課程を修了することにより、本プログラムを修了したものとする。

- (1) 別表 1 及び別表 2 に示す授業科目のうち、それぞれ 1 科目 2 単位以上を修得すること。
- (2) プログラム専門科目のうち、プログラム先進科目を 2 科目 4 単位及びプログラム実践科目を 1 科目 2 単位修得すること。

別表 1

科目番号	授業科目名
I232	情報理論
I238	計算論
I240	暗号理論
I437	符号理論

別表 2

科目番号	授業科目名
I219	ソフトウェア設計論
I226	コンピュータネットワーク特論
I233	オペレーティングシステム特論
I441	高機能コンピュータネットワーク
I442	システムソフトウェア特論

(注) 平成 30 年度の情報セキュリティプログラム履修者は、I240「暗号理論」及び I437「符号理論」を入学年度の履修案内における別表 1 の授業科目に追加し、I219「ソフトウェア設計論」、I233「オペレーティングシステム特論」及び I442「システムソフトウェア特論」を入学年度の履修案内における別表 2 の授業科目に追加する。

○ プログラム専門科目等について

本プログラムのために設けられたプログラム専門科目については、「授業科目・授業時間割」の章を参照すること。プログラム専門科目は日本語で実施するため、本プログラムの修了には日本語能力が必要である。

I466S「最新情報セキュリティ理論と応用」は、他大学大学院で開講する科目を本学へ遠隔配信する講義形態により実施する科目である。この科目の開講日は、本学の通常の授業科目の開講日と異なるため、詳細は授業時間割で確認すること。

なお、プログラム先進科目である I486S「暗号プロトコル理論」を履修するためには、学部相当の数学の知識を持っていることが望ましい。また、プログラム実践科目である I466S「最新情報セキュリティ理論と応用」を履修するためには、学部相当の数学の知識、プログラミングの知識を持っていることが望ましい。

情報セキュリティプログラムの修了要件に示す授業科目において、I437、I441、I486S は隔年開講であるので注意すること。10 月入学者の履修については別途指導教員より指示を受けること。

◇ ナノマテリアルテクノロジープログラム（石川：博士前期課程・博士後期課程）

ナノマテリアルテクノロジーセンターで開設するナノマテリアルテクノロジープログラムは、ナノテクノロジーの高度な専門知識と実験技術を広範囲に修得させることにより、企業・研究所等で中核となる優秀な人材を育成することを目的としている。

○ 修了要件

実習付き講義であるプログラム専門科目のうち1科目2単位以上、別表に示す授業科目のうち1科目2単位以上を含む、計4科目8単位以上を修得すること。

別表

科目番号	授業科目名
M413	機能性ナノ材料特論
M414	デバイス物理特論
M415	医用生体材料特論
M420	固体物理学特論Ⅱ
M421	エレクトロニクス特論

○ プログラム専門科目等について

本プログラムのために設けられたプログラム専門科目については、「授業科目・授業時間割」の章を参照すること。プログラム専門科目は日本語で実施するため、本プログラムの修了には日本語能力が必要である。

プログラム専門科目は、講義内容の理解を深めてその内容を実践できるように実習が付いていることを特徴としており、原則として欠席は許さない。実習時間の割り振り等は講義の進捗に合わせて変更する場合がある。主に午前中に行われる講義を優先し、余裕がある場合にのみ履修すること。各科目の定員は5名程度とし、事前の履修希望調査に基づく履修人数の調整を行う場合がある。座学を経たのち本講義を履修することによって実習を有意義なものとするため、原則として本学在籍年数が長い者の履修を優先する。

N001 ナノデバイス加工論（実習付）

実習内容：リソグラフィー（UV、EB）、ナノデバイス計測

N002 ナノバイオテクノロジー論（実習付）

実習内容：遺伝子増幅、電気泳動、タンパク質解析、ナノバイオデバイス

N003 ナノ分子解析論（実習付）

実習内容：NMR、高分子の構造・力学解析・熱分析、分子グラフィックス

N004 ナノ固体解析論（実習付）

実習内容：XRD、TEM、SPM

N005 ナノ材料分析論（実習付）

実習内容：高分子鎖一本の直接観測、高分子の熱物性評価、銀ナノ粒子を用いた表面増強ラマン散乱測定、ゲルの光学顕微鏡観察

3 学修プログラム（東京サテライト）

◇ 技術経営（MOT）プログラム（東京：博士前期課程）

技術経営（MOT：Management of Technology）は、技術を活用してイノベーションを実現することで企業の競争力とする経営のことを指す。技術経営プログラムは、こうした経営ができる人材の育成、即ち「技術の分かる経営者、経営の分かる技術者」の育成を図る。本プログラムでは、従来のMBAやMOTとは異なり、知識科学を基盤としたMOT、即ち技術やアイデアをシステムとして実現し価値を創造する人間の「知識」を経営リソースとして活用するマネジメント、技術とサービスの統合によるイノベーション・マネジメントに重点を置いている。

○ 修了要件

以下の要件を全て満たした上で課程を修了することにより、本プログラムを修了したものとする。

- （１）技術経営中核講義のうち、６科目 12 単位以上を修得すること。
- （２）知識科学中核講義のうち、２科目 4 単位以上を修得すること。

◇ サービス経営（MOS）プログラム（東京：博士前期課程）

知識科学とサービス科学を基礎に社会・地域・組織の諸課題をサービス経営の視点で捉え、医療・福祉・教育・観光サービスおよび組織のイノベーションで価値を創造する人材を育成する。少子高齢化が進み地域の活性化が課題になっている我が国において、医療・福祉（看護、介護を含む）、教育、観光サービスの重要性は益々高まってきている。また、これらのサービスは独立ではなく、地域の中で互いに絡み合っており、それらを統合的に考えることがイノベーションの可能性を高める。また、組織の様々な業務をサービス経営の視点で捉えることで諸課題を解決する研究・実践も進んでいる。サービス経営（MOS：Management of Service）プログラムでは、サービス経営全般の知識を習得しながら、知識科学とサービス科学を基礎にした医療・福祉・教育・観光サービスおよびサービス視点での組織のイノベーション研究を、本分野で最前線の研究を行っている教員と一緒にを行い、これを業務や経営で実践することのできる人材の育成を図る。

○ 修了要件

以下の要件を全て満たした上で課程を修了することにより、本プログラムを修了したものとする。

- （１）サービス経営中核講義のうち、４科目 8 単位以上を修得すること。
- （２）知識科学中核講義及び技術経営中核講義のうち、４科目 8 単位以上を修得すること。

◇ IoT イノベーションプログラム（東京：博士前期課程）

IoT（Internet of Things）／クラウド／人工知能／CPS（Cyber-Physical System）などの情報通信分野の新技術の進展と普及により、従来なかったビジネスおよびビジネスエコシステムが登場し、社会に大きな変革（第4次産業革命、スマートインフラ、スマートカー、スマートシティ）をもたらしつつある。この変革は、産業界にとってイノベーション創出の大きな機会だが、その実現は容易ではなく、困難を克服し機会を生かすイノベーション・マネジメントが求められている。本プログラムでは、本学が得意とする最先端の情報技術と技術・サービス経営の研究・教育の実績に基づき、最近の付加価値や競争力の源泉である IoT／クラウド／人工知能／CPS などの情報技術の習得とともに、いかにしてイノベーションを起こすかにも焦点を当て、IoT イノベーションを先導する人材を育成する。

○ 修了要件

以下の要件を全て満たした上で課程を修了することにより、本プログラムを修了したものとする。

- （１）技術経営中核講義及びサービス経営中核講義のうち、２科目４単位以上を修得すること。
- （２）別表に示す情報科学中核講義のうち、２科目４単位以上を修得すること。

別表

科目番号	授業科目名	科目番号	授業科目名
I214	システム最適化	I219	ソフトウェア設計論
I225	統計的信号処理特論	I226	コンピュータネットワーク特論
I232	情報理論	I239	機械学習
I441	高機能コンピュータネットワーク	I466	国際標準化概論
I471	実践的 IoT システムアーキテクチャ論	I472	IoT 技術特論

◇ 先端知識科学プログラム（東京：博士後期課程）

知識科学とは、「知」をキーワードとし、個人、組織、社会、自然における「知」の創造、蓄積、活用のメカニズムと体系化を探究する新しい学問であり、本学では、社会科学・情報科学・メディア科学・システム科学・サービス科学分野の諸学問を融合し、社会からの多様なニーズに応えることを目指しています。東京社会人コースでは、博士前期課程プログラムとして技術・サービス経営に関する複数のプログラムを用意し、実践現場での「知」を学術的に取り扱い、「知」の創造・蓄積・活用を促進するための教育・研究活動を展開しています。これらを基盤としつつ、先端知識科学プログラムは東京サテライトに設置する博士後期課程プログラムとして、技術・サービス経営を含む知識科学全般にわたる高度な専門知識・技術を教授するとともに、高度な研究能力と実践力を持つ専門職および知識科学研究者の育成を目指す。

○ 修了要件

修了要件は博士後期課程の修了要件と同一である。詳細はⅥ－３．２を参照すること。

◇ 先端情報科学プログラム（東京：博士後期課程）

本プログラムでは、様々な分野の社会人を対象として、情報科学的思考法、情報科学分野の先端知識とその基礎となる諸理論・技術を講義し、適切な演習により知識の応用力を養成する。さらに博士論文研究を通じて、情報科学に関する先端的な技術や方法を実践的な課題解決に応用する能力を身につける。これらのカリキュラムにより、情報科学に関わる分野の広がりや常最新の研究をもとに俯瞰でき、さらに技術イノベーションを自ら生み出すことのできる先端情報科学人材を養成する。

本プログラムが提供する講義群としては、情報科学を広範囲にカバーする講義群と各分野の先端的内容に関する講義群に加え、社会的需要が特に大きい組込みシステムに関する講義群がある。

○ 修了要件

修了要件は博士後期課程の修了要件と同一である。詳細はⅥ－３．２を参照すること。

学 則 ・ 諸 規 則 等

目次

第1章 総則

第1節 目的等（第1条～第1条の3）

第2節 教育研究組織等（第2条～第5条の3）

第3節 職員（第6条）

第4節 教授会等（第8条・第8条の2）

第2章 研究科

第1節 目的、課程、修業年限及び在学年限（第9条～第12条）

第2節 専攻及び収容定員（第13条）

第3節 学系及び領域（第14条・第14条の2）

第4節 学年、学期及び休業日（第15条～第17条）

第5節 入学、進学、再入学、転入学及び転専攻（第18条～第26条）

第6節 休学及び復学（第27条）

第7節 転学及び退学（第28条・第29条）

第8節 教育方法、履修方法等（第30条～第31条の2）

第9節 他の大学院等における修学、留学等（第32条～第35条）

第10節 修了の要件及び学位授与（第36条～第41条）

第11節 懲戒及び除籍（第42条・第43条）

第12節 検定料、入学料、授業料及び寄宿料（第44条～第50条）

第3章 科目等履修生、特別聴講学生、研究生、特別研究学生、特別学修生及び外国人留学生

第1節 科目等履修生（第51条）

第2節 特別聴講学生（第52条）

第3節 研究生（第53条）

第4節 特別研究学生（第54条）

第5節 特別学修生（第55条）

第6節 外国人留学生（第56条）

第4章 学生寄宿舍、国際交流会館及びJAIST HOUSE（第57条～第58条の2）

第5章 公開講座（第59条）

第6章 特別の課程（第60条）

附則

第1章 総則

第1節 目的等
(目的等)

第1条 北陸先端科学技術大学院大学（以下「本学」という。）は、先端科学技術分野に関する理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめもって文化の進展に寄与することを目的とする。

2 本学は、前項の目的を達成するため、研究科その他の組織の一体的な運営により、その機能を総合的に発揮するものとする。

（自己点検・評価等）

第1条の2 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条第1項に掲げる目的及び社会的使命を達成するため、学校教育法（昭和22年法律第26号。以下「法」という。）第109条第1項の規定により、本学における教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（以下第3項において「教育研究等」という。）の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

2 本学は、前項の点検及び評価の結果について、国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学の役員及び職員以外の者による検証を行う。

3 本学は、前2項の措置に加え、教育研究等の総合的な状況について、法第109条第2項に規定する文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受ける。

4 第1項の点検及び評価、第2項の検証並びに前項の評価に関する事項は、別に定める。

（教育研究等の状況の公表）

第1条の3 本学は、教育課程その他教育及び研究の状況並びに組織及び運営の状況を、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって公表するものとする。

第2節 教育研究組織等

（研究科）

第2条 大学院に、先端科学技術研究科を置く。

2 前項の研究科に、研究科長を置く。

3 研究科長は、研究科に関する校務を掌理する。

（附属図書館）

第3条 本学に、附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する事項は、別に定める。

（産学官連携本部）

第3条の2 本学に、産学官連携本部を置く。

2 産学官連携本部に、次に掲げる組織を置く。

一 産学官連携推進センター

二 地域連携推進センター

3 産学官連携本部、産学官連携推進センター及び地域連携推進センターに関する事項は別に定める。

（国際連携本部）

第3条の3 本学に、国際連携本部を置く。

- 2 国際連携本部に、次に掲げる組織を置く。
 - 一 留学支援センター
 - 二 グローバルコミュニケーションセンター
- 3 国際連携本部、留学支援センター及びグローバルコミュニケーションセンターに関する事項は別に定める。
(エクセレントコア推進本部)

第3条の4 本学に、エクセレントコア推進本部を置く。

- 2 エクセレントコア推進本部に、特定の研究領域について国内外から第一線の研究者が集まる高い研究水準を誇り、最先端の研究設備及び研究環境を有する国際的研究拠点であり自ら研究活動を展開するための施設として、次に掲げるエクセレントコアを置く。
 - 一 シングルナノイノベーティブデバイス研究拠点
 - 二 高性能天然由来マテリアル開発拠点
 - 三 高信頼 IoT 社会基盤研究拠点
- 3 エクセレントコア推進本部及びエクセレントコアに関する事項は、別に定める。
(化学物質等総合安全管理推進本部)

第3条の5 本学に、化学物質等総合安全管理推進本部を置く。

- 2 化学物質等総合安全管理推進本部に関する事項は、別に定める。
(共同教育研究施設)

第4条 本学に、本学の教員その他の者が共同して教育若しくは研究を行う施設又は教育若しくは研究のため共用する施設として次の共同教育研究施設を置く。

- 一 情報社会基盤研究センター
 - 二 ナノマテリアルテクノロジーセンター
- 2 共同教育研究施設に関する事項は、別に定める。
(研究施設)

第4条の2 本学に、特定の研究領域について自ら研究活動を展開するための施設として次の研究施設を置く。

- 一 イノベーションデザイン国際研究センター
 - 二 サービスサイエンス研究センター
 - 三 理論計算機科学センター
 - 四 エンタテインメント科学センター
- 2 研究施設に関する事項は、別に定める。
(事務局)

第5条 本学に、事務局を置く。

- 2 事務局に関する事項は、別に定める。
(保健管理センター)

第5条の2 本学に、保健管理センターを置く。

- 2 保健管理センターに関する事項は、別に定める。

(J A I S Tイノベーションプラザ)

第5条の3 本学に、J A I S Tイノベーションプラザを置く。

2 J A I S Tイノベーションプラザに関する事項は、別に定める。

第3節 職員

(職員)

第6条 本学に、学長及び次に掲げる職員を置く。

副学長

教授

准教授

講師

助教

助手

事務職員

技術職員

2 前項に掲げる者のほか、大学の運営上必要な職員を置くことができる。

第4節 教授会等

第7条 削除

(教授会)

第8条 研究科に、教授会を置く。

2 教授会の組織運営については、別に定める。

(融合科学共同専攻連絡協議会)

第8条の2 第13条第2項に規定する融合科学共同専攻の運営その他の必要な事項について協議するため、融合科学共同専攻連絡協議会（以下「連絡協議会」という。）を置く。

2 連絡協議会の詳細は、別に定める。

第2章 研究科

第1節 目的、課程、修業年限及び在学年限

(目的)

第9条 研究科の教育研究上の目的は、次に掲げるとおりとする。

- 一 先端科学技術の確かな専門性ととも、幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力を持つ、社会や産業界のリーダーを育成すること。
- 二 世界や社会の課題を解決する研究に挑戦し、卓越した研究拠点を形成すると同時に、多様な基礎研究により新たな領域を開拓し、研究成果の社会還元を積極的に行うこと。

(課程)

第10条 研究科の課程は、博士課程とし、これを前期2年の課程（以下「博士前期課程」という。）及び後期3年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分し、博士前期課程は、修士課程として扱うものとする。

2 博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

3 博士後期課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

(標準修業年限)

第11条 博士課程の標準修業年限は5年とし、博士前期課程の標準修業年限は2年、博士後期課程の標準修業年限は3年とする。ただし、教育研究上の必要があると認められる場合には、博士課程の標準修業年限については5年を、博士前期課程については2年を、博士後期課程については3年を超えるものとすることができる。

(長期にわたる教育課程の履修)

第11条の2 学生が、職業を有している等の事情により、前条に規定する標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、別に定めるところにより、その計画的な履修を認めることができる。

(博士後期課程単位修得在学)

第11条の3 学長は、本学の博士後期課程に標準修業年限以上在学し、北陸先端科学技術大学院大学履修規則（以下「履修規則」という。）に定める同課程の修了に必要な単位を修得見込みであり、かつ、必要な研究指導を受けた者であって、次条第1項に規定する在学年限内かつ2年以内に学位の授与を申請することが確実であると研究科長が判断したものについて、2年を限度として、本学の教育研究環境の提供を行わない態様での在学（以下「博士後期課程単位修得在学」という。）を認めることができる。

2 この学則に定めるもののほか、博士後期課程単位修得在学に関し必要な事項は、別に定める。

(在学年限)

第12条 学生が研究科に在学することのできる年限は、博士前期課程については4年、博士後期課程については6年とする。

2 前項の規定にかかわらず、前条の規定により博士後期課程単位修得在学を認められた学生（以下「博士後期課程単位修得在学者」という。）は、当該許可期間を超えて在学することができない。

第2節 専攻及び収容定員

(専攻及び収容定員)

第13条 研究科に置く専攻及びその収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

研究科名	専攻名	入学定員		収容定員
		博士前期課程	博士後期課程	

先端科学技術研究科	先端科学技術専攻	282人	90人	834人
	融合科学共同専攻	10人 (24人)		20人 (48人)
合 計		292人	90人	854人

備考 融合科学共同専攻に係る入学定員、収容定員欄の（）内の数字は金沢大学大学院新学術創成研究科融合科学共同専攻を含む全体の入学定員及び収容定員を外数で表している。

2 融合科学共同専攻は、金沢大学大学院新学術創成研究科融合科学共同専攻と共同で実施する。

3 第1項の専攻に、必要に応じ、専攻長を置くことができる。

第3節 学系及び領域

(学系)

第14条 先端科学技術研究科の各専攻に、次の表に掲げるとおり学系を置く。

専攻名	学系
先端科学技術専攻	知識科学系、情報科学系、マテリアルサイエンス系
融合科学共同専攻	融合科学系

2 前項の学系に、学系長を置く。

(領域)

第14条の2 先端科学技術研究科に、次の領域を置く。

ヒューマンライフデザイン

知識マネジメント

セキュリティ・ネットワーク

知能ロボティクス

ゲーム・エンタテインメント

環境・エネルギー

物質化学

応用物理学

生命機能工学

第4節 学年、学期及び休業日

(学年)

第15条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第16条 学年を分けて、次の2学期4区分とする。

学期の区分		期 間
第1学期	春期	4月1日から6月30日まで
	夏期	7月1日から9月30日まで

第2学期	秋期	10月1日から12月31日まで
	冬期	翌年1月1日から3月31日まで

(休業日)

第17条 休業日は、次のとおりとする。

- 一 日曜日及び土曜日
- 二 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- 三 創立記念日 10月1日
- 四 春期、夏期及び冬期の休業日

2 前項第4号の休業日は、別に定める。

3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第5節 入学、進学、再入学及び転入学

(入学の時期)

第18条 入学の時期は、学年又は第2学期の始めとする。ただし、融合科学共同専攻においては、学年の始めとする。

2 前項の規定にかかわらず、研究科において特別な必要があり、かつ、教育上支障がないと学長が認める場合は、入学又は転入学の時期を各学期の各区分の始めとすることができる。

(博士前期課程の入学資格)

第19条 博士前期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 大学を卒業した者
- 二 法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- 三 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- 四 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- 五 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
- 六 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- 七 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が

定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

八 文部科学大臣の指定した者

九 次に掲げる者であって、本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたものの

イ 大学に3年以上在学した者

ロ 外国において学校教育における15年の課程を修了した者

ハ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者

ニ 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者

十 法第102条第2項の規定により本学以外の大学院に入学した者であって、本学において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

十一 本学において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの

(博士後期課程の入学資格)

第20条 博士後期課程に入学又は進学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 修士の学位を有する者又は専門職学位(法第104条第1項の規定に基づき学位規則(昭和28年文部省令第9号)第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下同じ。)を有する者

二 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

三 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

四 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

五 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学(次号において「国際連合大学」という。)の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

六 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

七 文部科学大臣の指定した者

八 本学において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの
(博士後期課程への進学)

第21条 本学の博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学することを願
い出た者に対しては、別に定めるところにより、選考の上、進学を許可する。
(再入学)

第22条 本学の大学院を退学した者又は除籍された者が、再入学を願い出た場合に
は、教育研究に支障がない場合に限り、選考の上、入学を許可することができる。
2 再入学した者が在学すべき年数及び修得すべき単位数については、教授会の議を
経て、学長が定める。

(転入学)

第23条 他の大学の大学院（以下「他の大学院」という。）に在学している者が、
本学に転入学を願い出た場合には、教育研究に支障がない場合に限り、選考の上、
入学を許可することができる。

2 転入学した者が在学すべき年数及び修得すべき単位数については、教授会の議を
経て、学長が定める。

(転専攻)

第23条の2 学生が研究科内の他の専攻に転専攻を願い出た場合には、別に定め
るところにより、選考の上、転専攻を許可することができる。

2 転専攻した者が在学すべき年数及び修得すべき単位数については、教授会の議を
経て、学長が定める。

(出願)

第24条 入学、進学、再入学又は転入学を志願する者は、それぞれ所定の期日ま
でに、願書を提出しなければならない。

2 入学、再入学又は転入学を志願する者は、願書に添えて、所定の検定料を納入し
なければならない。

(選抜)

第25条 本学に入学、再入学及び転入学を志願する者については、別に定めると
ころにより入学者の選抜を行う。

(入学手続及び入学許可)

第26条 前条の選抜の結果に基づき合格の通知を受け、入学、再入学及び転入学を
しようとする者は、所定の書類を提出するとともに、所定の入学料を納入しなけ
ればならない。

2 学長は、前項の手続を完了した者に入学を許可する。

第6節 休学及び復学

(休学等)

第27条 病気その他特別の理由により、引き続き2月以上修学することができない

者（博士後期課程単位修得在学者を除く。）は、学長の許可を得て休学することができる。

2 病気のため、修学することが不適當と認められる者（博士後期課程単位修得在学者を除く。）に対して、学長は、休学を命ずることができる。

3 休学の理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

4 休学期間は、博士前期課程又は博士後期課程ごとに通算して1年を超えることができない。ただし、特別の理由がある場合は、それぞれ1年を限度として、延長を認めることができる。

5 休学期間は、第11条に規定する標準修業年限及び第12条に規定する在学年限に算入しない。

第7節 転学及び退学

（転学）

第28条 他の大学院に転学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

（退学）

第29条 病気その他やむを得ない理由がある者は、学長の許可を受けて退学することができる。

第8節 教育方法、履修方法等

（教育方法）

第30条 研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行う。

2 前項の授業は、大学設置基準第25条第2項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件（平成13年文部科学省告示第51号）の定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業の一部は、大学が授業の一部を校舎及び附属施設以外の場所で行う場合について定める件（平成15年文部科学省告示第43号）の定めるところにより、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

（教育方法の特例）

第30条の2 研究科の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

（教育内容の改善のための組織的な研修等）

第30条の3 本学は、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るため、組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（教育プログラム）

第30条の4 本学に、学生の履修上の区分として次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める教育プログラムを置く。

一 博士前期課程 次に定める教育プログラム

イ Mプログラム

ロ Mαプログラム

二 博士後期課程 3Dプログラム

三 博士前期課程及び博士後期課程を通じた一貫的な教育を行うもの 次に定める教育プログラム

イ SDプログラム

ロ 5Dプログラム

2 教育プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(授業科目、単位数及び履修方法等)

第31条 授業科目、単位数及び履修方法等については、別に定める。

(共同教育研究施設授業科目)

第31条の2 前条に規定する授業科目のほか、共同教育研究施設において、学生を対象とした授業科目（以下「共同教育研究施設授業科目」という。）を開講する。

2 研究科において、教育上有益と認めるときは、学生に共同教育研究施設授業科目を履修させることができる。

3 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位の取扱いについては、研究科の定めるところによる。

4 前2項に定めるもののほか、共同教育研究施設授業科目に関し必要な事項は、別に定める。

第9節 他の大学院等における修学、留学等

(授業科目の履修)

第32条 学生が他の大学又は他の大学院の授業科目を履修することが教育上有益であると教授会において認めるときは、あらかじめ、当該他の大学又は他の大学院と協議の上、当該他の大学又は他の大学院の授業科目を履修することを認めることができる。

(研究指導)

第33条 学生が他の大学院又は研究所等（以下「他の大学院等」という。）において研究指導を受けることが教育上有益であると教授会において認めるときは、あらかじめ、当該他の大学院等と協議の上、当該他の大学院等において研究指導の一部を受けることを認めることができる。この場合において、博士前期課程の学生が当該研究指導を受けることができる期間は、1年を超えないものとする。

(留学)

第34条 学生が外国の大学若しくは外国の大学の大学院又はこれに相当する高等教育機関等（以下「外国の大学院等」という。）において修学することが教育上有益であると教授会の議を経て学長が認めるときは、当該外国の大学院等と協議の上、当該外国の大学院等において留学することを認めることができる。

2 前項の規定にかかわらず、特別の事情があると教授会の議を経て学長が認めるときは、当該外国の大学院等との協議を欠くことができる。

3 留学の期間は、在学年数に算入する。

(単位の認定)

第35条 第32条の規定により履修した授業科目について修得した単位、第33条の規定により受けた研究指導及び前条第1項により留学して得た修学の成果は、履修規則の定めるところにより、本学において修得した単位又は受けた研究指導とみなす。

2 学生が本学に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位(大学院設置基準第15条に規定する科目等履修生により修得した単位を含む。)は、履修規則の定めるところにより、本学に入学した後に本学において修得した単位とみなす。

3 前2項の規定により修得したとみなすことができる単位数については、別に定める。

第10節 修了の要件及び学位授与

(博士前期課程の修了の要件)

第36条 博士前期課程の修了の要件は、当該課程に2年(第11条ただし書の規定により2年を超える標準修業年限を定める場合にあつては、当該標準修業年限)以上在学し、履修規則に定めるところにより、授業科目について32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者と教授会において認めた場合には、1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項の規定にかかわらず、第30条の4第1項第3号に規定する教育プログラムを履修する者の博士前期課程の修了の要件は、当該博士課程の目的を達成するために必要と認められる場合には、前項に規定する修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することに代えて、次に掲げる試験及び審査に合格することとすることができる。

一 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養であつて当該前期課程において修得し、又は涵養すべきものについての試験

二 博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力であつて当該前期課程において修得すべきものについての審査

3 第1項に定めるもののほか、融合科学共同専攻においては、第1項に規定する32単位のうち10単位以上を当該共同専攻を構成するそれぞれの構成大学院において履修しなければならない

(博士課程の修了の要件)

第37条 博士課程の修了の要件は、大学院に5年(5年を超える標準修業年限を定める場合にあつては、当該標準修業年限とし、博士前期課程に2年(2年を超える標準修業年限を定める場合にあつては、当該標準修業年限。以下この条本文におい

て同じ。)以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、履修規則の定めるところにより、授業科目について32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者と教授会において認めた場合には、3年(博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

- 2 前条第1項ただし書の規定による在学期間をもって博士前期課程を修了した者の博士課程の修了の要件については、前項中「5年(5年を超える標準修業年限を定める場合にあつては、当該標準修業年限とし、博士前期課程に2年(2年を超える標準修業年限を定める場合にあつては、当該標準修業年限。以下この条本文において同じ。)以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)」とあるのは「博士前期課程における在学期間に3年(第11条ただし書の規定により博士後期課程について3年を超える標準修業年限を定める場合にあつては、当該標準修業年限)を加えた期間」と、「3年(博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)」とあるのは「3年(前条ただし書の規定による在学期間をもって博士前期課程を修了した者にあつては、当該課程における在学期間(2年を限度とする。)を含む。)」と読み替えて、同項の規定を適用する。

3 前2項の規定にかかわらず、修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第156条の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士後期課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は、大学院(専門職大学院を除く。)に3年(第11条ただし書の規定により博士後期課程について3年を超える標準修業年限を定める場合にあつては、当該標準修業年限とし、専門職大学院設置基準(平成15年文部科学省令第16号)第18条第1項の法科大学院の課程を修了した者にあつては、2年(第11条ただし書の規定により博士後期課程について3年を超える標準修業年限を定める場合にあつては、当該標準修業年限から1年の期間を減じた期間)とする。)以上在学し、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者と教授会において認めた場合には、1年(標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程又は博士前期課程を修了した者及び専門職大学院設置基準第2条第2項の規定により標準修業年限を1年以上2年未満とした専門職学位課程を修了した者にあつては、3年から当該1年以上2年未満の期間を減じた期間とし、大学院設置基準第16条ただし書の規定による在学期間をもって他の大学院の修士課程又は博士前期課程を修了した者にあつては、3年から当該課程における在学期間(2年を限度とする。)を減じた期間とする。)以上在学すれば足りるものとする。(修了の認定)

第38条 修了の認定は、教授会の議を経て、学長が決定する。

(学位授与)

第39条 研究科の課程を修了した者には、次の区分により学位を授与する。

博士前期課程 修士

博士後期課程 博士

(論文博士)

第40条 前条に定めるもののほか、博士の学位は、本学に博士論文の申請をしてその審査に合格し、かつ、本学の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者に授与することができる。

(学位に関する規則)

第41条 学位の授与に関し必要な事項は、北陸先端科学技術大学院大学学位規則に定める。

第11節 懲戒及び除籍

(懲戒)

第42条 学長は、教育上必要があると認めるときは、教育研究評議会の議を経て、学生に懲戒を加えることができる。

2 前項に規定する懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項に規定する退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

二 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者

三 正当な理由がなくて出席常でない者

四 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

4 学生の懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

(除籍)

第43条 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

一 在学期間が第12条に規定する在学年限を超えた者

二 休学期間が第27条第4項に規定する期間を超えた者

三 入学料の免除若しくは徴収猶予を許可されなかった者、半額の免除若しくは徴収猶予を許可された者又は免除若しくは徴収猶予の許可を取り消された者で、その納入すべき入学料を所定の期日までに納入しなかった者

四 授業料の納入を怠り、督促してもなお納入しなかった者

第12節 検定料、入学料、授業料及び寄宿料

(検定料等の額)

第44条 検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額は、学長が別に定める。

(授業料の徴収)

第45条 授業料は、次の2期に分けて徴収するものとし、それぞれの期における額は、授業料の年額の2分の1に相当する額とする。

区 分	納 入 時 期
-----	---------

前期（４月１日から９月３０日まで）	４月１日から４月３０日まで
後期（１０月１日から翌年３月３１日まで）	１０月１日から１０月３１日まで

２ 前項の規定にかかわらず、学生の申出があった場合は、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収する。

３ 入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、前項の規定にかかわらず、入学、再入学及び転入学を許可される者の申出があった場合は、入学を許可するときに徴収する。

（期の中で入学又は転入学した場合の授業料）

第４５条の２ 前期又は後期の中で入学又は転入学した者に係る当該期の授業料は、授業料の年額の１２分の１に相当する額（以下「月割計算額」という。）に、入学又は転入学した月から当該期末までの月数を乗じて得た額の当該期の授業料を入学又は転入学した月に徴収する。

２ 前期の中で入学した者の申出があった場合は、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収する。

（検定料等の返還）

第４６条 納入した検定料、入学料及び授業料は返還しない。

２ 前項の規定にかかわらず、第４５条第２項若しくは第３項又は前条第２項の規定により前期及び後期に係る授業料を併せて納入した者が、後期に係る授業料の納入時期前に休学し、又は退学した場合には、その者の申出により後期に係る授業料相当額を返還する。

３ 第１項の規定にかかわらず、第４５条第３項の規定により授業料を納入した者が、３月３１日までに入学を辞退した場合には、その者の申出により当該授業料相当額を返還する。

（休学及び復学の場合の授業料）

第４７条 休学を許可され、又は命ぜられた者の授業料は、休学した月の翌月から復学した月の前月までの額はこれを徴収しない。

２ 前期又は後期の中で復学した者の授業料は、月割計算額に、復学した月から当該期末までの月数を乗じて得た額の当該期の授業料を復学した月に徴収する。

（中途修了の場合の授業料）

第４８条 学年の中で修了する見込みの者は、月割計算額に、修了する見込みの月までの月数を乗じて得た額を、前期又は後期の区分に応じて、４月又は１０月に徴収する。

（退学等の場合の授業料）

第４９条 前期又は後期の中で退学し、転学し、除籍され、又は退学を命ぜられた者の授業料は、当該期分を徴収する。

２ 停学期間中の授業料は、これを徴収する。

（入学料、授業料及び寄宿料の免除又は徴収猶予）

第50条 入学料は、別に定めるところにより、免除又は徴収猶予することができる。

2 授業料は、別に定めるところにより、免除することができる。

3 寄宿料は、別に定めるところにより、免除することができる。

第3章 科目等履修生、特別聴講学生、研究生、特別研究学生、特別学修生及び外国人留学生

第1節 科目等履修生

(科目等履修生)

第51条 本学の学生以外の者で本学の授業科目のうち一又は複数の授業科目を履修し、単位を修得することを志願する者があるときは、研究科その他の組織（以下「研究科等」という。）の教育研究に支障がない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

第2節 特別聴講学生

(特別聴講学生)

第52条 他の大学院又は外国の大学院等の学生で、本学の授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他の大学院又は外国の大学院等との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

第3節 研究生

(研究生)

第53条 本学において、特定の事項について研究することを志願する者があるときは、研究科等の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

第4節 特別研究学生

(特別研究学生)

第54条 他の大学院又は外国の大学院等の学生で、本学において研究指導を受けることを志願する者があるときは、当該他の大学院又は外国の大学院等との協議に基づき、特別研究学生として入学を許可することができる。

2 特別研究学生に関し必要な事項は、別に定める。

第5節 特別学修生

(特別学修生)

第55条 第19条各号又は第20条各号に規定する入学資格を有しない者で、本学において学修指導を受けることを志願する者があるときは、当該者が所属する他の教育機関等との協議に基づき、又は研究科等の教育研究に支障がない場合に限り選考の上、特別学修生として入学を許可することができる。

2 特別学修生に関し必要な事項は、別に定める。

第6節 外国人留学生

(外国人留学生)

第56条 日本国以外の国籍を有する者で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第4章 学生寄宿舍、国際交流会館及びJAIST HOUSE

(学生寄宿舍)

第57条 本学に、学生寄宿舍を置く。

2 学生寄宿舍に関する事項は、別に定める。

(国際交流会館)

第58条 本学に、国際交流会館を置く。

2 国際交流会館に関する事項は、別に定める。

(JAIST HOUSE)

第58条の2 本学に、JAIST HOUSEを置く。

2 JAIST HOUSEに関する事項は、別に定める。

第5章 公開講座

(公開講座)

第59条 社会人の教養を高め文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関し必要な事項は、別に定める。

第6章 特別の課程

(特別の課程)

第60条 本学は、法第105条の規定に基づき、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

附 則

(略)

(趣旨)

第1条 北陸先端科学技術大学院大学（以下「本学」という。）が授与する学位に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

(学位)

第2条 本学において授与する学位及び学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

修士（知識科学）

修士（情報科学）

修士（マテリアルサイエンス）

修士（融合科学）

博士（知識科学）

博士（情報科学）

博士（マテリアルサイエンス）

(修士の学位授与の要件)

第3条 修士の学位は、本学の博士前期課程又は修士課程を修了した者に授与する。

(博士の学位授与の要件)

第4条 博士の学位は、本学の博士後期課程を修了した者に授与する。

- 2 前項に規定する以外の者が論文を提出して、その審査に合格し、かつ、本学の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有するものと確認された場合には、同項の規定にかかわらず、博士の学位を授与することができる。

(学位の申請)

第5条 学位の授与を申請する本学の学生は、学位申請書及び論文（博士前期課程又は修士課程にあっては、特定の課題についての研究の成果に係る報告書を含む。以下同じ。）を学長に提出するものとする。ただし、第10条の2に規定する審査を受ける者については、論文の提出を要しない。

- 2 前条第2項の規定により学位の授与を申請する者は、学位申請書に論文、履歴書、論文目録、論文内容要旨及び学長が別に定める額の学位論文審査手数料を添えて学長に提出するものとする。

- 3 論文審査のために必要があるときは、参考資料を提出させることがある。

- 4 提出した論文及び納入した学位論文審査手数料は、返還しない。

(審査の付託)

第6条 学長は、前条第1項に規定する学位申請書及び同条第2項に規定する論文を受理したときは、研究科長に審査を付託するものとする。

- 2 研究科長は前項に規定する論文の審査の付託を受けたときは、教授会の審査に付さなければならない。

(審査委員の指名)

第7条 教授会は、論文審査及び最終試験又は学力の確認を行うため、修士の学位の審査にあつては4名以上（ただし、融合科学共同専攻にあつては、相手大学の教員から1名以上を含めた3名以上）、博士の学位の審査にあつては5名以上の審査委員を指名し、それぞれ、そのうちの1名を主査に指名する。

2 研究科長は、主査が必要と認めたときは、教授会の議を経て、他の大学の大学院又は研究所等の教員等を審査委員に委嘱することができる。

(審査期間)

第8条 第5条第1項の規定により申請のあった者の論文審査及び最終試験は、原則として申請者が在学すべき所定の期間内に終了するものとする。

2 第5条第2項の規定により申請のあった者の論文審査及び学力の確認は、1年以内に終了するものとする。ただし、特別の事情があるときは、教授会の議を経て審査期間を延長することができる。

(最終試験及び学力の確認)

第9条 北陸先端科学技術大学院大学学則（以下「学則」という。）第36条及び第37条の規定による最終試験は、論文に関連する科目及び外国語について、筆記又は口述により行うものとする。

2 第4条第2項に規定する学力の確認は、論文に関連する専門分野及び外国語について、筆記又は口述により行うものとする。

(審査結果の報告)

第10条 主査は、第5条第1項の規定により申請のあった者については、論文審査及び最終試験の結果を、同条第2項の規定により申請のあった者については、論文審査及び学力の確認の結果を教授会に報告しなければならない。

(博士論文研究基礎力審査)

第10条の2 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に代えて、学則第36条第2項に規定する試験及び審査（以下「博士論文研究基礎力審査」という。）を行う場合については、第7条、第8条第1項及び前条の規定を準用する。この場合において、第7条第1項、第8条第1項及び前条中「論文審査及び最終試験」とあるのは「博士論文研究基礎力審査」と読み替えるものとする。

2 前項に定めるもののほか、博士論文研究基礎力審査の内容、方法等については、当該博士課程の目的に応じ、研究科において別に定めるものとする。

(学位授与の審議)

第11条 教授会は、第10条（前条第1項において準用する場合を含む。）の規定による報告に基づき、学位授与の可否を審議するものとする。

2 前項に規定する審議を行う場合には、教授会の出席者の3分の2以上の多数をもって議決するものとする。

(審議結果の報告)

第12条 研究科長は、学位授与に関する教授会の審議結果を学長に報告するものと

する。

(学位記の交付)

第13条 学長は、前条の報告に基づき学位の授与を決定した者に学位記を交付する。

2 学位記の様式は、別紙のとおりとする。

3 学長は、学位を授与できないと決定した者には、その旨通知する。

(論文要旨等の公表等)

第14条 学長は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に、文部科学大臣に報告するとともに、その論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表するものとする。

(論文の公表)

第15条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を本学の指定する方法により公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを本学の指定する方法により公表することができる。この場合において、本学は、当該論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 前項の承認を受けた者は、本学がやむを得ない事由が消滅したと判断した場合は、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を本学の指定する方法により公表しなければならない。

(学位の名称)

第16条 学位を授与された者が、当該学位の名称を用いるときは、本学名を付記するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、融合科学共同専攻において学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、授与された学位記に記載された共同専攻を構成する大学院の大学名を付記するものとする。

(学位授与の取消)

第17条 学位を授与された者が、次の各号の一に該当するときは、学長は、教授会の議を経て学位を取消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

一 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき。

二 学位を授与された者がその名誉を汚辱する行為を行ったとき。

(その他)

第18条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

(略)

別紙（第 13 条関係）

様式 1（第 3 条の規定により授与する学位記（融合科学共同専攻修了者を除く。））

修○第	号
学 位 記	
氏	名
年 月	日生
本学大学院○○研究科○○専攻の 博士前期課程を修了したので修士（○○）の 学位を授与する	
年 月 日	
北陸先端科学技術大学院大学 印	

備考 用紙の規格は、日本工業規格 A 4 縦型とする。

Degree Number M○-0000	
Japan Advanced Institute of Science and Technology	
hereby confers upon	
〈 氏 名 〉	
the degree of	
Master of Science in ○ ○ Science	
for satisfactory completion of the prescribed curriculum and dissertation as set forth by	
〈 研 究 科 名 〉	
on this	
〈 学 位 授 与 日 〉	
印 official seal	_____ 〈学長名〉 President Japan Advanced Institute of Science and Technology

備考 用紙の規格は、日本工業規格 A 4 縦型とする。

様式2（第3条の規定により授与する学位記（融合科学共同専攻修了者に限る。））

共修融第		号
学 位 記		
氏 名		
年 月 日		生
北陸先端科学技術大学院大学大学院先端 科学技術研究科及び〇〇大学大学院〇〇研究 科の融合科学共同専攻の修士課程を修了した ので修士（〇〇科学）の学位を授与する		
年 月 日		
北陸先端科学技術大学院大学		印
〇〇大学		印

備考 用紙の規格は、日本工業規格A4縦型とする。

Degree Number MP-0000

Japan Advanced Institute
of
Science and Technology

hereby confers upon

〈 氏 名 〉

the degree of

Master of ○○
in ○○
Sciences

for satisfactory completion of the prescribed curriculum
and dissertation as set forth by

Graduate School of Advanced Science and Technology
Japan Advanced Institute of Science and Technology

〈研究科名〉
〈大学名〉

on this

〈 学 位 授 与 日 〉



official seal

〈学長名〉
President
Japan Advanced Institute of
Science and Technology



official seal

〈学長名〉
President
○○ University

備考 用紙の規格は、日本工業規格A4縦型とする。

様式3（第4条第1項の規定により授与する学位記）

博○第	号
学 位 記	
氏	名
年 月 日	生
本学大学院○○研究科○○専攻の	
博士課程を修了したので博士（○○）の	
学位を授与する	
年 月 日	
北陸先端科学技術大学院大学	印

備考 用紙の規格は、日本工業規格A4縦型とする。

Degree Number D○-0000	
Japan Advanced Institute of Science and Technology	
hereby confers upon	
〈 氏 名 〉	
the degree of	
Doctor of Philosophy in ○ ○ Science	
for satisfactory completion of the prescribed curriculum and dissertation as set forth by	
〈 研 究 科 名 〉	
on this	
〈 学 位 授 与 日 〉	
印	〈学長名〉 President Japan Advanced Institute of Science and Technology
official seal	

備考 用紙の規格は、日本工業規格A4縦型とする。

様式4（第4条第2項の規定により授与する学位記）

○第	号
学 位 記	
氏	名
年 月 日	生
本大学に博士論文を提出し所定の 審査に合格したので博士（○○）の 学位を授与する	
年 月 日	
北陸先端科学技術大学院大学 印	

備考 用紙の規格は、日本工業規格A4縦型とする。

Degree Number ○-0000	
Japan Advanced Institute of Science and Technology	
hereby confers upon	
〈 氏 名 〉	
the degree of	
Doctor of Philosophy in ○ ○ Science	
for satisfactory completion of dissertation	
on this	
〈 学 位 授 与 日 〉	
印 official seal	〈学長名〉 President Japan Advanced Institute of Science and Technology

備考 用紙の規格は、日本工業規格A4縦型とする。

○北陸先端科学技術大学院大学履修規則

〔平成4年2月21日〕
北院大規則第3号

(趣旨)

第1条 北陸先端科学技術大学院大学（以下「本学」という。）の研究科における学生の履修については、北陸先端科学技術大学院大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則によるものとする。

(指導教員)

第2条 授業科目の履修指導及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を行うため、先端科学技術専攻においては学生1人につき3人の指導教員、融合科学共同専攻においては学生1人につき2人の指導教員を定める。

2 先端科学技術専攻においては、3人の指導教員のうち1人を主指導教員とし、主指導教員は、本学の研究科の教授、准教授又は講師とする。

3 融合科学共同専攻においては、本学の研究科の教授、准教授又は講師（融合科学共同専攻の専任教員に限る。）を主任研究指導教員とし、金沢大学大学院新学術創成研究科（以下「金沢大学」という。）の教員を副主任研究指導教員とする。

4 学修上又は研究指導上必要がある場合は、指導教員を変更することができる。

(研究指導)

第3条 研究指導の内容は、学生1人ごとに定められるものとする。

(授業科目等)

第4条 学生は、授業科目について32単位以上（学則第36条第2項に規定する試験及び審査（以下「博士論文研究基礎力審査」という。）を受ける者については、34単位以上）を修得しなければならない。

2 授業科目、単位数及び履修方法は、先端科学技術専攻においては別表第1及び別表第2まで、融合科学共同専攻においては別表第3のとおりとする。

3 前項の授業科目を次の各号に掲げるとおり区分する。

(1) 先端科学技術専攻

イ 自由科目

ロ 学術科目

ハ 広域科目

ニ 導入科目

ホ 基幹科目

ヘ 展開科目

ト 発展科目

チ 先端科目

(2) 融合科学共同専攻

イ 基幹教育科目

ロ 異分野「超」体験科目

ハ 社会実装科目

ニ 専門科目

ホ 研究支援科目

4 前項に規定する科目区分の取扱いについて必要な事項は、別に定める。

(単位の計算方法)

第5条 各授業科目の単位の計算方法は次による。

(1) 講義及び演習は、15時間の授業を含む45時間の学修をもって1単位とする。

(2) 実験及び実習は、30時間の授業を含む45時間の学修をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、別表第1に定める選択必修科目等及び別表第3に定める異分野「超」体験科目、社会実装科目及び研究支援科目等の授業科目については、成果に必要な学修を考慮して単位数を定める。

(学修計画)

第5条の2 学生は、確実な学修の進捗を図るため、学修を計画し、及び記録をして、指導教員の指導を受けなければならない。

(履修手続)

第6条 学生は、前条に規定する学修計画に基づき、所定の期間に当該期において履修しようとする授業科目の申請を行い、履修の許可を得なければならない。

2 履修できる授業科目数及び単位数について、教育上有益と認めるときは、別に定めるところにより上限を定めることができる。

第7条及び第8条 削除

(他の大学院等の授業科目の履修等)

第9条 学則第32条の規定に基づき修得した単位（以下「他大学院等修得単位」という。）及び学生が本学に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（大学院設置基準第15条に規定する科目等履修生により修得した単位を含む。以下「入学前既修得単位」という。）は、教授会の議を経て、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて10単位を超えない範囲で、本学で修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定にかかわらず、転入学の場合については、同項の規定により本学で修得したものとみなすことができる単位は、他大学院等修得単位にあっては10単位、入学前既修得単位のうち本学において修得した単位以外のものにあっては20単位を超えない範囲とする。

3 第1項の規定にかかわらず、学術交流協定に基づく学生の国際連携教育であって学長が認めたものにより入学する場合については、同項の規定により本学で修得したものとみなすことができる単位は、他大学院等修得単位にあっては10単位、入学前既修得単位のうち本学において修得した単位以外のものにあっては8単位を超えない範囲とする。

4 第1項から第3項の規定にかかわらず、融合科学共同専攻の他の大学院等の授業科目の履修等については、別に定める。

5 前4項により修得したものとみなす単位の取扱いは、教授会が定める。

(他の大学院等における研究指導)

第10条 学則第33条及び第34条の規定に基づく研究指導（融合科学共同専攻に係る研究指導を除く。）は、教授会の議を経て、本学において受けた研究指導の一部とみなすことができる。

(履修の認定)

第11条 授業科目履修の認定は、試験又は研究報告（以下「試験等」という。）により行う。ただし、平常の学習活動の評価をもって試験に代えることがある。

2 試験等の成績は、100点を満点とする点数によって達成度を評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

3 前項の規定により合格となった授業科目は、成績証明書等においては、次の区分に従い、優、良又は可をもって表する。

80点以上 優

70点～79点 良

60点～69点 可

4 点数によって評価し難い場合は、教授会の議に基づき指定した授業科目に限り、合格（認定を含む。以下同じ。）又は不合格をもって評価をすることができる。この場合において、合格となった授業科目は、成績証明書等においては、合格又は認定の評語をもって表する。

5 第2項及び前項により合格とされた者には、所定の単位を与える。

6 既修得単位の取消し及び成績の更新は行わない。ただし、入学料又は授業料の未納により除籍された者が当該未納期間に履修した授業科目の登録及び成績の評価は、取り消すものとする。

(試験等における不正行為)

第11条の2 試験等において不正行為があったときは、当該学生が当該学期に修得した単位の全てを無効とする。

2 試験等における不正行為に関する取扱いについて必要な事項は、別に定める。

(研究計画提案書等)

第12条 博士前期課程及び修士課程の学生は、別に定めるところにより、修士論文の作成、特定の課題についての研究（以下「課題研究」という。）又は博士論文研究基礎力審査の受審のいずれかを選択し、所定の研究計画提案書を指導教員の承認を得て、所定の期日までに研究科長に提出しなければならない。

2 博士後期課程の学生は、所定の研究計画書を指導教員の承認を得て、所定の期日までに研究科長に提出しなければならない。

3 第1項の規定により課題研究又は博士論文研究基礎力審査を選択する場合の取扱いに関し必要な事項は、研究科が別に定める。

(成績の指標)

第13条 第11条第2項及び第3項に規定する成績に基づき、一定期間又は累積期間に係る客観的な成績指標を算出し、評価することができる。

(雑則)

第14条 この規則に定めるもののほか、学生の履修に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

(略)

別表第1（第4条関係）

先端科学技術研究科先端科学技術専攻必修科目

授業科目名		単位数
必修科目	人間力イノベーション論	1
	創出力イノベーション論	1
	人間力・創出力イノベーション論	1
選択必修科目	科学技術研究論文	8
	科学技術課題研究	2
	科学技術博士研究計画調査	2
	科学技術副テーマ研究	2
	科学技術インターンシップ	2
	先端科学技術研究論文	6
	先端科学技術副テーマ研究	2
	先端科学技術インターンシップ	2

履修方法

博士前期課程の学生は、次のとおり必修科目及び選択必修科目について修得しなければならない。

- 1 必修科目から人間力イノベーション論1単位及び創出力イノベーション論1単位を修得しなければならない。
- 2 選択必修科目から科学技術研究論文8単位、科学技術課題研究2単位又は科学技術博士研究計画調査2単位に加えて、科学技術副テーマ研究2単位又は科学技術インターンシップ2単位を修得しなければならない。

博士後期課程の学生は、次のとおり必修科目及び選択必修科目について修得しなければならない。

- 1 必修科目から人間力・創出力イノベーション論1単位を修得しなければならない。
- 2 選択必修科目から先端科学技術研究論文6単位に加えて、先端科学技術副テーマ研究2単位又は先端科学技術インターンシップ2単位を修得しなければならない。

別表第2（第4条関係）

先端科学技術研究科先端科学技術専攻選択科目

授業科目名		単位数
知識科学系科目	経営学概論	2
	実践的社会調査法	2
	認知科学概論	2
	医療サービスサイエンス基礎	2
	プロジェクトマネジメント実践論	2
	ウェブシステム開発入門	2
	社会科学方法論	2
	システム科学方法論	2
	知識メディア方法論	2
	イノベーションマネジメント概論	2
	知識科学概論	2
	イノベーションデザイン論	2
	医療サービスサイエンスⅠ	1
	医療サービスサイエンスⅡ	1
	データ分析学基礎	2
	実験哲学概論	2
	社会科学実践的方法論	2
	経営情報学概論	2
	知識経営論	2
	知識人類学	2
	比較知識制度論	2
	複雑系解析論	2
	データ分析学	2
	研究・新事業開発における知識創造・活用マネジメント	2
	システム思考論	2
	知的財産マネジメント論	2
	戦略ロードマッピング論	2
	デザイン創造過程論	2
	研究・イノベーション政策論	2
	技術経営改革実践論	2
	マーケティング論	2
	技術・サービス経営特論	1
	経営戦略論	2
	デザイン認知論	2
	サービスイノベーション論	2

	サービスサイエンス論	2
	デザイン戦略論	2
	ビジネスエスノグラフィ	2
	認知科学	2
	オープンイノベーション論	2
	知識創造支援メディア論	2
	知識創造論	2
	メディア創造論	2
	イノベーション・マネジメント論	2
	ベンチャー・ビジネス・マネジメント	2
	科学技術の哲学と倫理	2
	医療サービス情報経営論	2
	医療サービス知識経営論	2
	サービス経営論	2
	地域創生論	2
	地域経営戦略論	2
	地域経営のための公共哲学	2
	地域経営のための公共経済学	2
	ネットワーク科学論	2
	社会システムエンジニアリング方法論	2
	観光地域サービス論	2
	データサイエンス論	2
	I o Tイノベーションデザイン	1
	アントレプレヌールシップとイノベーション	2
	ビジネス分析のためのデータサイエンス	2
	次世代技術経営特論	2
	次世代知識経営特論	2
	複合システム特論	2
	データ分析学特論	2
	先端知識科学特論	2
	次世代知識科学特論	2
	先端医療・介護サービス知識科学特論	2
	メディアデザイン特論	2
	次世代技術イノベーション・マネジメント	1
	I o T・A Iイノベーション特論	1
情報科学系科目	アルゴリズムとデータ構造	2
	計算機システムリテラシー	2
	基礎情報数学	2
	デジタル論理と計算機構成	2
	プログラミング基礎	2

	データ分析のための情報統計学	2
	基礎論理数学	2
	情報代数	2
	数理論理学	2
	情報解析学特論	2
	離散信号処理特論	2
	システム最適化	2
	関数プログラミング	2
	計算機アーキテクチャ特論	2
	ソフトウェア設計論	2
	自然言語処理論 I	2
	統計的信号処理特論	2
	コンピュータネットワーク特論	2
	情報理論	2
	オペレーティングシステム特論	2
	ゲーム情報学特論	2
	形式言語とオートマトン	2
	計算論	2
	機械学習	2
	暗号理論	2
	認識処理工学特論	2
	理論計算機科学	2
	並列処理	2
	画像情報処理特論	2
	システム制御理論	2
	離散状態システムの理論	2
	符号理論	2
	演習グラフ理論	2
	音声情報処理特論	2
	高機能オペレーティングシステム	2
	高機能コンピュータネットワーク	2
	システムソフトウェア特論	2
	ソフトウェア検証論	2
	遠隔教育システム工学	2
	ネットワーク設計演習	2
	情報科学演習 I	1
	情報科学演習 II	1
	国際標準化概論	2
	プロセッサ設計演習	2
	ダイナミクスのモデリング	2

	実践的アルゴリズム理論	2
	実践的 I o Tシステムアーキテクチャ論	2
	I o T技術特論	1
	ハード・ソフト・コデザイン	2
	システム開発管理	2
	高信頼組込みシステム開発演習	2
	高信頼組込みシステム開発プロセス設計	2
	スマート組込みシステム開発演習	2
	情報セキュリティ運用リテラシー	2
	最新情報セキュリティ理論と応用	2
	暗号プロトコル理論	2
	統合アーキテクチャ	1
	コデザイン	1
	集積回路特論	2
	プロジェクトマネジメント	1
	ロボティクス	2
	知覚情報処理特論	2
	ロボティックス	2
	集積回路特論	2
	知覚情報処理特論	2
	先進無線ネットワーク	2
	現代脳計算論	2
	情報処理論	2
マテリアルサイエンス系 科目	材料物理概論	2
	材料化学概論	2
	生物機能概論	2
	量子力学特論	2
	統計力学特論	2
	応用電磁気学特論	2
	有機分子化学特論	2
	物質計算科学特論	2
	有機材料物性特論	2
	無機材料化学特論	2
	機器分析化学特論	2
	生物有機化学特論	2
	生物物理化学特論	2
	固体物理学特論 I	2
	応用物性数学特論	2
	触媒化学特論	2
	高分子化学特論 I	2

	生体分子機能特論	2
	生体材料分析特論	2
	メカトロニクス	2
	固体電子物性・デバイス特論Ⅰ	2
	物質デザイン・創出特論	2
	バイオ機能・組織化特論	2
	固体電子物性・デバイス特論Ⅱ	2
	生命機能工学特論	2
	機能性ナノ材料特論	2
	デバイス物理特論	2
	医用生体材料特論	2
	固体物理学特論Ⅱ	2
	エレクトロニクス特論	2
	機能性蛋白質特論	2
	高分子科学特論Ⅱ	2
	解析力学特論	2
	固体・表面電子構造特論	2
	光物性特論	2
	量子現象特論	2
	先端デバイス特論	2
	先端生体機能特論	2
	先端生体材料特論	2
	分子設計特論	2
	材料設計特論	2
	材料形態特論	2
	電子機能特論	2
	先端生体分子科学特論	2
	物性評価特論	2
	機能評価特論	2
教養等科目	科学者の倫理	2
	技術経営と知的財産	2
	メディア論	2
	実践英語特別演習	1
	テクニカル英語導入 1	2
	テクニカル英語導入 2	2
	テクニカル英語導入 3	2
	テクニカル英語基礎 1	2
	テクニカル英語基礎 2	2
	サイエンティフィック・ディスカッション 1	2
	テクニカル英語発展 1	2

	テクニカル英語発展 2	2
	サイエンティフィック・ディスカッション 2	2
	実践英語演習	1
	実践日本語特別演習	1
	テクニカル日本語導入 1	2
	テクニカル日本語導入 2	2
	テクニカル日本語基礎 1	2
	テクニカル日本語基礎 2	2
	テクニカル日本語発展 1	2
	テクニカル日本語発展 2	2
	協働形成グローバルコミュニケーション	2
	言語表現技術	2
	日本事情	2
	ダイバーシティスタディーズ	2
	グローバル・リーダーシップ養成演習	1

履修方法

博士前期課程の学生は、次のとおり選択科目について、必修科目及び選択必修科目と合わせて 3 2 単位以上（科学技術博士研究計画調査を履修する場合にあっては、3 4 単位以上）を修得しなければならない。

- 1 科学技術研究論文を履修する場合にあっては、人間力イノベーション論 1 単位、創出力イノベーション論 1 単位並びに科学技術副テーマ研究又は科学技術インターンシップ 2 単位に加え、選択科目から 2 0 単位以上を修得しなければならない。
- 2 科学技術課題研究を履修する場合にあっては、人間力イノベーション論 1 単位、創出力イノベーション論 1 単位並びに科学技術副テーマ研究又は科学技術インターンシップ 2 単位に加え、選択科目から 2 6 単位以上を修得しなければならない。
- 3 科学技術博士研究計画調査を履修する場合にあっては、人間力イノベーション論 1 単位、創出力イノベーション論 1 単位並びに科学技術副テーマ研究又は科学技術インターンシップ 2 単位に加え、選択科目から 2 8 単位以上を修得しなければならない。

博士後期課程の学生は、次のとおり選択科目について、必修科目及び選択必修科目と合わせて 2 0 単位以上を修得しなければならない。

- 1 先端科学技術研究論文、人間力・創出力イノベーション論 1 単位並びに先端科学技術副テーマ研究又は先端科学技術インターンシップ 2 単位に加え、選択科目から 1 1 単位以上を修得しなければならない。

別表第3（第4条関係）

先端科学技術研究科融合科学共同専攻科目

授業科目名			開設 大学	単位 数
基幹教育科目	起業家への道		金沢 大学	1
	起業家の中核技術と戦略		金沢 大学	1
	研究者倫理		金沢 大学	1
	人間力イノベーション論		本学	1
	創出力イノベーション論		本学	1
	実践的データ分析・統計概論		金沢 大学	2
	データ分析のための情報統計学		本学	2
異分野「超」体 験科目	異分野「超」体験セッションⅠ		共同 開講	2
	異分野「超」体験実践Ⅰa（金沢）		金沢 大学	1
	異分野「超」体験実践Ⅰb（金沢）		金沢 大学	1
	異分野「超」体験実践Ⅰa（JAIST）		本学	1
	異分野「超」体験実践Ⅰb（JAIST）		本学	1
社会実装科目	インターンシップ（金沢）		金沢 大学	2
	インターンシップ（JAIST）		本学	2
専門科目	共通科目	分散並列リアルタイムシステム構成論	金沢 大学	2
		データマイニング論	金沢 大学	2
		生命情報と先端バイオ	金沢 大学	2
		映像情報処理学	金沢 大学	2
		衛星測位工学	金沢 大学	2
		アレイ信号処理特論	金沢 大学	2
		通信工学特論	金沢 大学	2
		実験哲学概論	本学	2

		認知科学概論	本学	2
		データ分析学基礎	本学	2
		データ分析学	本学	2
		デザイン創造過程論	本学	2
		アルゴリズムとデータ構造	本学	2
		プログラミング基礎	本学	2
		情報代数	本学	2
		数理論理学	本学	2
		情報解析学特論	本学	2
		形式言語とオートマトン	本学	2
		計算論	本学	2
		画像情報処理特論	本学	2
		ダイナミクスのモデリング	本学	2
	生命科学系科目	がんの生命科学Ⅰ	金沢大学	2
		がんの生命科学Ⅱ	金沢大学	2
		生体分子ダイナミクス	金沢大学	2
		生物・分子物理学	金沢大学	2
		日和見感染症とティッシュ・バイア ビリティ・ケア	金沢大学	2
		創薬分子プローブ概論Ⅰ	金沢大学	1
		創薬分子プローブ概論Ⅱ	金沢大学	1
		ヒューマンボディー：構造	金沢大学	2
		ヒューマンボディー：機能	金沢大学	2
		ヒューマンボディー：疾患	金沢大学	2
		生物機能概論	本学	2
		生物有機化学特論	本学	2
		生物物理化学特論	本学	2
		生体分子機能特論	本学	2
		生体材料分析特論	本学	2
		医用生体材料特論	本学	2
	材料科学系科目	光波工学	金沢大学	2

		知的自律移動ロボット工学特論Ⅰ	金沢大学	2
		バイオメカニクス工学特論Ⅰ	金沢大学	2
		エネルギー・環境プログラム序論	金沢大学	1
		マテリアルプログラム序論	金沢大学	1
		太陽電池工学特論Ⅰ	金沢大学	2
		物性物理化学特論Ⅰ	金沢大学	2
		高分子材料合成化学	金沢大学	2
		機能性高分子材料化学	金沢大学	2
		バイオリファイナリー工学特論Ⅰ	金沢大学	2
		表面・界面工学特論Ⅰ	金沢大学	2
		デバイスプロセス工学	金沢大学	2
		固体物性評価基礎論	金沢大学	2
		材料物理概論	本学	2
		材料化学概論	本学	2
		量子力学特論	本学	2
		統計力学特論	本学	2
		応用電磁気学特論	本学	2
		有機分子化学特論	本学	2
		物質計算科学特論	本学	2
		有機材料物性特論	本学	2
		無機材料化学特論	本学	2
		機器分析化学特論	本学	2
		固体物理学特論Ⅰ	本学	2
		応用物性数学特論	本学	2
		触媒化学特論	本学	2
		高分子化学特論Ⅰ	本学	2
		メカトロニクス	本学	2
		デバイス物理特論	本学	2
		固体物理学特論Ⅱ	本学	2

	社会システム科学系科目	考古学と自然科学	金沢大学	2
		認知行動融合科学基礎論	金沢大学	2
		比較認知概論	金沢大学	2
		運動生理学概論	金沢大学	2
		文明学特論	金沢大学	2
		臨床神経心理学 I	金沢大学	2
		文化資源学概論	金沢大学	2
		社会科学方法論	本学	2
		知識メディア方法論	本学	2
		システム思考論	本学	2
		ネットワーク科学論	本学	2
		認知科学	本学	2
		メディア創造論	本学	2
		イノベーション・マネジメント論	本学	2
		サービス経営論	本学	2
		離散信号処理特論	本学	2
		システム最適化	本学	2
		計算機アーキテクチャ特論	本学	2
		ソフトウェア設計論	本学	2
		自然言語処理論 I	本学	2
		統計的信号処理特論	本学	2
		オペレーティングシステム特論	本学	2
		ゲーム情報学特論	本学	2
		認識処理工学特論	本学	2
		ソフトウェア検証論	本学	2
研究支援科目	ゼミナール・演習 I (金沢)		金沢大学	2
	ゼミナール・演習 I (JAIST)		本学	2
	融合科学研究論文 I (金沢)		金沢大学	6
	融合科学研究論文 I (JAIST)		本学	6
	融合科学課題研究 (金沢)		金沢大学	2
	融合科学課題研究 (JAIST)		本学	2

	融合科学博士研究計画調査（金沢）	金沢大学	2
	融合科学博士研究計画調査（J A I S T）	本学	2

履修方法

修士課程の学生は、次の要件を満たし、かつ32単位以上（融合科学博士研究計画調査を履修する場合にあっては、34単位以上）を修得しなければならない。

- 1 「基幹教育科目」から4単位以上修得しなければならない。なお、「実践的データ分析・統計概論」（2単位）又は「データ分析のための情報統計学」（2単位）のいずれかは必修とする。
- 2 「異分野「超」体験科目」から4単位以上修得しなければならない。なお、「異分野「超」体験セッションⅠ」（2単位）は必修とする。また、「異分野「超」体験実践Ⅰa（金沢）」、「異分野「超」体験実践Ⅰb（金沢）」、「異分野「超」体験実践Ⅰa（J A I S T）」又は「異分野「超」体験実践Ⅰb（J A I S T）」（各1単位）から、金沢大学の開講科目1単位以上を含めて、2単位以上修得しなければならない。
- 3 「社会実装科目」から2単位修得しなければならない。なお、「インターンシップ」（2単位）は必修とし、本学の開講科目を修得しなければならない。
- 4 研究取りまとめの方法として「修士論文」又は「課題研究」を選択した者は、「専門科目（各1単位又は2単位）から10単位以上修得しなければならない。また、「博士研究計画調査」を選択した者は、「専門科目」から12単位以上修得しなければならない。なお、主任研究指導教員と十分に相談した上で、選択した3つの挑戦的なイノベーションの枠組み（3つのチャレンジ）に応じて、共通科目、生命科学系科目、材料科学系科目及び社会システム科学系科目のうち、必ず2つ以上の科目区分から修得しなければならない。
- 5 研究取りまとめの方法として「修士論文」を選択した者は、「研究支援科目」から8単位修得しなければならない。なお、「融合科学研究論文Ⅰ」（6単位）及び「ゼミナール・演習Ⅰ」（2単位）を必修とし、「融合科学研究論文Ⅰ」は本学の開講科目を、「ゼミナール・演習Ⅰ」は金沢大学の開講科目を修得しなければならない。
研究取りまとめの方法として「課題研究」を選択した者は、「研究支援科目」から4単位修得し、かつ主任研究指導教員と十分に相談した上で、基幹教育科目以外から4単位修得しなければならない。なお、「融合科学課題研究」（2単位）及び「ゼミナール・演習Ⅰ」（2単位）を必修とし、「融合科学課題研究」は本学の開講科目を、「ゼミナール・演習Ⅰ」は金沢大学の開講科目を修得しなければならない。
研究取りまとめの方法として「博士研究計画調査」を選択した者は、「研究支援科目」から4単位修得し、かつ主任研究指導教員と十分に相談した上で、基幹教育科目以外から4単位修得しなければならない。なお、「融合科学博士研究計画調査」（2単位）及び「ゼミナール・演習Ⅰ」（2単位）を必修とし、「融合科学博士研究計画調査」は本学の開講科目を、「ゼミナール・演習Ⅰ」は金沢大学の開講科目を修得しなければならない。
- 6 本学及び金沢大学からそれぞれ計10単位以上を修得しなければならない。

北陸先端科学技術大学院大学共同教育研究施設授業科目規則

〔平成14年3月19日〕
〔北院大規則第5号〕

(趣旨)

第1条 この規則は、北陸先端科学技術大学院大学学則第31条の2第4項の規定に基づき、北陸先端科学技術大学院大学（以下「本学」という。）における共同教育研究施設授業科目に関し必要な事項を定めるものとする。

(プログラム)

第2条 共同教育研究施設授業科目を履修させるため、本学に、ナノマテリアルテクノロジープログラムを設ける。

2 前項のプログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(授業科目名及び単位数)

第3条 共同教育研究施設授業科目の科目名及び単位数は、別表のとおりとする。

2 前項の授業科目については、北陸先端科学技術大学院大学履修規則（以下「履修規則」という。）第4条第3項の規定を準用する。

(単位の計算方法等)

第4条 共同教育研究施設授業科目の単位の計算方法及び履修の認定については、履修規則第5条及び第11条各項の規定を準用する。この場合において、同規則第11条第4項中「教授会」とあるのは「当該共同教育研究施設の運営委員会」と読み替えるものとする。

(雑則)

第5条 この規則に定めるもののほか、共同教育研究施設授業科目に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

(略)

別表（第3条関係）

共同教育研究施設授業科目表

ナノマテリアルテクノロジープログラム

授業科目名	単位数
ナノデバイス加工論	2
ナノバイオテクノロジー論	2
ナノ分子解析論	2
ナノ固体解析論	2
ナノ材料分析論	2

北陸先端科学技術大学院大学における修士の学位の授与に係る審査に関する
細則

平成19年2月20日
制 定

(趣旨)

第1条 この細則は、北陸先端科学技術大学院大学学位規則（以下「学位規則」という。）第18条の規定に基づき、北陸先端科学技術大学院大学における修士の学位の授与に係る審査に関し必要な事項を定めるものとする。

(修士論文)

第2条 学位規則第5条第1項に定める論文のうち修士の学位の授与に係るもの（特定の課題についての研究の成果に係る報告書を含む。以下同じ。）は、その内容が専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を示し、修士の学位にふさわしいものでなければならない。

(論文発表会)

第3条 研究科長は、学位規則第6条第1項に規定する審査の付託（博士の学位に係るものを除く。）を受けたときは、次条第1項に定める審査会の開催前に、又は審査会と併せて当該論文に係る発表会を開催するものとする。

(審査会)

第4条 学位規則第7条第1項の規定により指名された審査委員をもって審査会を組織し、同規則第6条第2項に規定する論文の審査（以下「論文審査」という。）及び同規則第9条第1項に規定する最終試験（以下「最終試験」という。）を行うものとする。

2 学位規則第7条第1項に規定にする主査（以下「主査」という。）は、修士の学位の授与を申請する者の主指導教員（ただし、融合科学共同専攻にあっては、主任研究指導教員）とし、審査会を主宰する。

(論文審査)

第5条 主査を除く審査委員は、審査会における論文審査については、着眼点、独創性、問題解決能力の修得等の観点から次の評価をもって表し、所定の評価票に記入し、主査へ提出するものとする。

- A 非常に良い
- B 良い
- C 普通
- D 不合格

2 主査は、審査会における論文審査終了後、前項の規定により提出された評価票を研究科長に提出するものとする。

(最終試験等)

第6条 審査会における最終試験は、審査委員の合議によりその可否を判定するものとする。

2 主査は、審査会における最終試験の結果を研究科長に提出するものとする。

(学位授与の審議)

第7条 学位規則第11条に規定する教授会における修士の学位の授与に係る審議は、論文審査の評価及び最終試験の結果その他主査が必要と認めた資料により行うものとする。

附 則

(略)

北陸先端科学技術大学院大学における博士の学位の授与に係る審査に関する
細則

〔平成12年10月30日〕
制 定

(趣旨)

第1条 この細則は、北陸先端科学技術大学院大学学位規則（以下「学位規則」という。）第18条の規定に基づき、北陸先端科学技術大学院大学における博士の学位の授与に係る審査に関し必要な事項を定めるものとする。

(博士論文)

第2条 学位規則第5条第1項に定める論文のうち博士の学位の授与に係るもの（以下「博士論文」という。）は、その内容が専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を示し、博士の学位にふさわしいものでなければならない。

(公聴会)

第3条 研究科長は、学位規則第6条第1項に規定する審査の付託（修士の学位に係るものを除く。）を受けたときは、次条第1項に定める審査会の開催前に、又は審査会と併せて当該論文に係る公聴会を開催するものとする。

(審査会)

第4条 学位規則第7条第1項の規定により指名された審査委員をもって審査会を組織し、同規則第6条第2項に定める論文の審査（以下「論文審査」という。）及び同規則第9条第1項に定める最終試験（以下「最終試験」という。）又は同条第2項に定める学力の確認（以下「学力確認」という。）を行うものとする。

2 学位規則第7条第1項に規定にする主査（以下「主査」という。）は、博士の学位の授与を申請する者の主指導教員とし、審査会を主宰する。

(論文審査)

第5条 主査を除く審査委員は、審査会における論文審査については、学術的水準、新規性、独創性、有用性等の観点から次の評価をもって表し、当該博士論文の内容に対する意見と併せて所定の評価票に記入し、主査へ提出するものとする。

- A 非常に良い
- B 良い
- C 普通
- D 不合格

2 主査は、審査会における論文審査終了後、論文審査の結果の要旨を作成し、前項の規定により提出された評価票と併せて研究科長に提出するものとする。

(最終試験等)

第6条 審査会における最終試験又は学力確認は、審査委員の合議によりその可否を判定するものとする。

- 2 主査は、審査会における最終試験又は学力確認の結果を研究科長に提出するものとする。

(学位授与の審議)

第7条 学位規則第11条に定める教授会における博士の学位の授与に係る審議（以下「教授会審議」という。）は、次の各号に掲げる資料により行うものとする。

- 一 論文審査の結果の要旨
- 二 論文審査の評価及び最終試験又は学力確認の結果
- 三 その他主査が必要と認めた資料

- 2 研究科長は、教授会審議の1週間前までに論文審査の結果の要旨を教授会構成員へ配付するものとする。

- 3 研究科長は、教授会審議の1週間前から教授会審議の日までの間、博士論文を所定の場所において閲覧に供するものとする。

附 則

(略)

編 集 北陸先端科学技術大学院大学
教育支援課教務係
〒923-1292 石川県能美市旭台1-1
電話 0761-51-1936
e-mail kyoumu@jaist.ac.jp
発 行 平成31年4月